

原子力規制庁 御中

令和4年度原子力施設等防災対策等委託費
(原子力規制委員会広報総合評価・分析)
事業報告書

MRI 三菱総合研究所

2023年2月28日

セーフティ&インダストリー本部

目次

1. 実施概要	1
1.1 目的.....	1
1.2 実施項目	1
1.2.1 原子力規制委員会ホームページ等での提供情報に関する調査等.....	1
1.2.2 原子力規制委員会等に対する国内各主体の認識の調査.....	1
1.2.3 原子力規制委員会の広報活動に関する現状分析及び評価	2
1.2.4 原子力規制委員会の広報活動の改善策の提言	2
2. 原子力規制委員会ホームページ等での提供情報に関する調査等	3
2.1 調査概要	3
2.1.1 調査手法の特徴	3
2.1.2 対象者の選定	3
2.1.3 調査のフロー	5
2.1.4 グループ構成及び調査時期	5
2.2 調査結果	6
2.2.1 FGI より得られた主な課題等	6
2.2.2 調査結果のまとめ	20
3. 原子力規制委員会等に対する国内各主体の認識の調査	23
3.1 調査概要	23
3.1.1 調査対象.....	23
3.1.2 調査方法及び調査時期.....	23
3.1.3 調査項目	24
3.2 調査結果	26
3.2.1 プレ調査	26
3.2.2 本調査結果の概要.....	30
4. 原子力規制委員会の広報活動に関する現状分析及び評価	46
4.1 ホームページの分析・評価	46
4.1.1 ホームページの概要.....	46
4.1.2 評価の視点.....	46
4.1.3 分析・評価	46
4.2 動画の分析・評価	51
4.2.1 動画の概要.....	51

4.2.2 評価の視点.....	51
4.2.3 分析・評価	51
4.3 緊急情報メールサービスの分析・評価.....	54
4.3.1 緊急情報メールサービスの概要.....	54
4.3.2 評価の視点.....	56
4.3.3 分析・評価	56
4.4 Twitter の分析・評価.....	64
4.4.1 Twitter の概要	64
4.4.2 評価の視点.....	64
4.4.3 分析・評価	64
5. 原子力規制委員会の広報活動の改善策の提言.....	68
5.1 公開情報管理システム(N-ADRES)	68
5.2 本年度特有の状況変化.....	70
5.2.1 委員長交代.....	70
5.2.2 運転期間延長	71
5.3 信頼に関する分析.....	72
5.3.1 原子力規制委員会の認識	72
5.3.2 テキスト分析.....	72
5.4 原子力規制委員会の認知度の世代間での違い.....	76
5.4.1 プレ調査結果による試行的な検討	76
5.4.2 原子力規制委員会への信頼	77
5.5 改善策の提言	78
5.5.1 現状の情報発信の維持継続.....	78
5.5.2 原子力規制委員会についての情報発信	79
5.5.3 福島第一原発事故時に高校生以下だった世代に向けた情報発信.....	79
6. まとめ	80

添付資料1

目次

図 2-1 関心度合い測定のための質問	4
図 2-2 原子力規制委員会のツイートの例 1	8
図 2-3 原子力規制委員会のツイートの例 2	9
図 2-4 原子力規制委員会のツイートの例 3	10
図 2-5 N-ADRES のトップページに対して寄せられた意見.....	11
図 2-6 N-ADRES の詳細検索ページに対して寄せられた意見.....	12
図 2-7 N-ADRES の検索結果ページに対して寄せられた意見.....	13
図 2-8 安全研究の分野についてホームページに掲載されている図.....	15
図 2-9 ALPS 処理水濃度調査結果の表に対して寄せられた意見	16
図 3-1 回答者の性別、年齢分布.....	23
図 3-2 プレ調査 1「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」回答結果の経年変化	27
図 3-3 プレ調査 2「あなたは地域での付き合いをどの程度していますか？」回答結果	28
図 3-4 社会意識に関する世論調査 地域での付き合いに関する回答結果	29
図 3-5 問 1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」回答結 果.....	30
図 3-6 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知って いますか。」回答結果.....	31
図 3-7 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(http://www.nra.go.jp/)を見た ことがありますか。」回答結果	31
図 3-8 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」回答結 果.....	32
図 3-9 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」回答結果	33
図 3-10 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」回答結果	33
図 3-11 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」回答結果 ...	34
図 3-12 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見た ことがありますか。」回答結果	34
図 3-13 問 9「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じました か。」回答結果.....	35
図 3-14 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待してい ますか。」回答結果	36
図 3-15 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」回答結果.	37
図 3-16 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼して いますか。」回答結果.....	38
図 3-17 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの	

程度ご関心がありますか。」回答結果.....	39
図 3-18 問 15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」回答結果.....	40
図 3-19 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。」回答結果.....	41
図 3-20 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」回答結果.....	42
図 3-21 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」回答結果.....	43
図 3-22 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現が難しいと思いますか。」回答結果.....	44
図 3-23 問 20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを3つお選びください。」回答結果.....	45
図 4-1 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(http://www.nra.go.jp/)を見たことがありますか。」経年別の回答結果(付録 B 図 2-3 再掲).....	47
図 4-2 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。(全国)」のうち「迅速さ」回答結果.....	48
図 4-3 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。(全国)」のうち「提供情報の十分さ」回答結果.....	49
図 4-4 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。(全国)」のうち「探しやすい、使いやすさへの配慮」回答結果.....	50
図 4-5 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」経年別の回答結果(付録 B 図 2-8 再掲).....	52
図 4-6 令和 2 年度から令和 4 年度に公開された動画の再生回数分布 ¹³	53
図 4-7 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。(全国)」経年別の回答結果(付録 B 図 2-5 再掲).....	57
図 4-8 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。(原子力施設立地・周辺自治体)」経年別の回答結果.....	58
図 4-9 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。(全国)」経年別の回答結果(付録 B 図 2-6 再掲).....	59
図 4-10 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。(原子力施設立地・周辺自治体)」経年別の回答結果.....	59
図 4-11 緊急情報メールサービス登録者数.....	60
図 4-12 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。(全国)」経年別の回答結果(付録 B 図 2-8 再掲).....	65
図 5-1 問 15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」回答結果(図 3-18 再掲).....	68
図 5-2 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目	

を3つお選びください。」回答結果(図 3-19 再掲)	69
図 5-3 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」回答結果(図 3-20 再掲)	70
図 5-4 問 20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを3つお選びください。」回答結果(図 3-23 再掲)	71
図 5-5 対応分析の結果.....	73
図 5-6 共起ネットワーク.....	75
図 5-7 プレ調査 1「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」回答結果(年代別)	77
図 5-8 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」回答結果(年代別)	78

表 目次

表 2-1 FGI のフロー.....	5
表 2-2 FGI 調査のグループ構成及び調査時期.....	6
表 2-3 委員長交代について寄せられた意見.....	17
表 2-4 今後の原子力規制委員会への期待について寄せられた意見.....	19
表 3-1 対象地域と回答者数.....	23
表 3-2 アンケート調査項目.....	25
表 3-3 問 13「問 12 における回答の理由をご記載ください。」の自由記述内容整理.....	38
表 4-1 令和 4 年度アップロード動画再生数上位 5 つ(令和 5 年 1 月 28 日時点).....	53
表 4-2 令和 4 年度における緊急情報メール配信状況.....	55
表 4-3 令和 4 年度における情報提供メールの配信状況.....	55
表 4-4 「緊急情報メール」及び「情報提供メール」配信時間及び事象発生時間.....	61
表 4-5 原子力規制委員会の公式 Twitter アカウントがフォローしている他機関のアカウント.....	64
表 4-6 「ぶら下がり取材」生配信の状況.....	67
表 5-1 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼して いますか。」の回答選択率.....	72
表 5-2 対応分析から得られる示唆.....	74
表 5-3 共起ネットワークから得られる属性と用語の関係性.....	76

1. 実施概要

1.1 目的

今後の広報活動の改善を図ることを目的として、本事業では原子力規制委員会及び原子力規制庁の広報活動・情報発信に対して、各主体がどのような認識を持っているのかを把握するため、広報活動の効果について現状の分析・評価を行った。その結果をもとに、より効率的な広報活動について検討・提案を行った。

1.2 実施項目

1.2.1 原子力規制委員会ホームページ等での提供情報に関する調査等

原子力規制委員会ホームページ、緊急時情報ホームページ及び Twitter 上で提供している情報にアクセスし、「必要とする情報を速やかに得ることができるか」等について分析・評価及び調査等を行った。

<調査方法>

原子力規制委員会ホームページ等について、オンラインでのフォーカスグループインタビュー調査による定性的な分析・評価を行った。

<調査対象>

(合計 30 名)

○立地・周辺地域住民(3 名×5 グループ)

北海道(札幌市)、宮城県(仙台市)、静岡県(静岡市・浜松市)、福岡県(福岡市)、
鹿児島県(鹿児島市)

○電力消費地域住民(3 名×5 グループ)

東京都(23 区)、大阪府(大阪市)、愛知県(名古屋市)

1.2.2 原子力規制委員会等に対する国内各主体の認識の調査

下記調査対象に対して、原子力規制委員会及び原子力規制庁の広報活動・情報発信についてのアンケート調査を行った。

<調査方法>

国内住民の認識調査(Web アンケート調査)

<調査対象>

○全国 47 都道府県 各 150 サンプル以上(対象者 20~60 代の男女)

<調査内容>

原子力規制委員会の認知度・印象、ツール(Web サイト、Twitter、YouTube 等)の認知度
原子力規制委員会の情報発信に関する評価

原子力規制委員会に対する期待

原子力に関する信頼する情報源+理由

原子力規制委員会の提供情報の信頼度+理由(自由記述)

原子力規制委員会の能力に対する信頼に関する質問

NRA など情報公開の取組と、その検索性に関する質問

山中新委員長の就任あいさつに関する質問

原子力発電所の 60 年超の稼働を念頭に置いた審査方法の見直しで、特に重要と思われる観点

<調査回数> 1 回

1.2.3 原子力規制委員会の広報活動に関する現状分析及び評価

上記の調査結果を踏まえて、現状を分析・評価し、今後の継続的な調査を念頭に、分析・評価の枠組みを検討した。本年度は、組織設立 10 年を迎え、さらに委員長交代の年でもある。これらも調査対象とすることで、本年度特有の状況変化にも対応した。

1.2.4 原子力規制委員会の広報活動の改善策の提言

1.2.1~1.2.3 の調査分析結果と、過去に実施した当該原子力施設等防災対策等委託費(総合評価・分析)事業での調査分析結果・改善策の提言内容を踏まえ、原子力規制委員会の広報活動について、より効果的な改善策の提言をとりまとめた。

2. 原子力規制委員会ホームページ等での提供情報に関する調査等

原子力規制委員会ホームページ等で提供している情報にアクセスし、必要とする情報を速やかに得ることができるか否か、及び原子力規制委員会の新しいホームページをスマートフォンで閲覧した際の印象等について、フォーカスグループインタビュー(FGI:Focus Group Interview)調査による定性的な分析・評価を行った。

2.1 調査概要

2.1.1 調査手法の特徴

FGI は司会者の進行に沿って実施する座談会形式の定性調査である。従来のアンケート調査(定量調査)では、基本的に調査票で準備された選択肢の範囲内でしか回答が得られない。そのため、調査票の設計者が想定していない新たな問題点等を発見することは難しい。

一方、参加者が自由に意見を交換しながらインタビューに回答する形式をとる FGI では、参加者自身も日頃から明確には意識していなかった問題点等がインタビューの中で発言として具体的に説明され、参加者間で共有される。このように問題等が明確化・言語化されることで、アンケート調査の結果等を受けての分析・評価に反映することが可能である。

ただし、FGI から得られた結果は、少数のグループから得られた定性的なものであるため、その一般性には留意が必要である。FGI は、仮説の探索・発見の手法という位置づけであり、発見された仮説はアンケートのような定量調査で検証する必要がある。

2.1.2 対象者の選定

原子力規制に関する話題等について国民全般の関心は均等ではないと考えられる。本調査では、多様な意見及び問題点の収集、発見を目的としている。参加者の中で非常に関心の大きい方が存在した場合、他の参加者の意見がそれに大きく影響を受けてしまう可能性がある。また、関心の低い参加者のみでは、短時間のインタビューや議論では、有益な意見を多く得ることが困難である。

そこで、市民の関心度合いに応じて、以下の 3 層を想定し、本調査では、一般的な関心層を優先的に対象とした。

- 高関心層
 - メディアやその他からの情報収集に積極的であり、一部には国の機関等の施策に対して強く批判的な立場をとる場合がある。
 - 一般的な関心層、低関心層の方と同一グループで参加した場合、高関心層の方の意見が他の関心層の方の意見に影響を与える可能性がある。
- 一般的な関心層
 - 意見の偏りが比較的小さい。
- 低関心層

- 対象の話題に対する関心が大きくない。
- 短時間のインタビューや議論で有益な意見を多く得ることが難しい。

関心度合いの測定に関しては、図 2-1 の質問により測定した。問 1～問 3 において、“あてはまる”、“ややあてはまる”との回答、または問 4～6 において、“あてはまらない”との回答をした方は FGI の対象外とした。ただし、参加者を十分に集めることが困難であったグループに関しては、問 1～2 の“ややあてはまる”及び問 4～5 の“あてはまらない”の回答を許容するよう条件を緩和して参加者を集めた。

No.	質問	選択肢				
		あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	原子力発電所の安全性に疑問がある場合、行政や発電所等に問い合わせる	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
2	原子力発電所や放射線の安全性について、普段から勉強している	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
3	原子力規制委員会のTwitterをフォローしている、もしくは原子力規制委員会の緊急情報メーリングサービス（原子力緊急アラート：Nアラート）に登録している	あてはまる				あてはまらない
4	強い地震発生時、国の情報発信に注目する	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
5	強い地震発生時、電力会社の情報発信に注目する	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
6	原子力発電所で事故が起こった場合の避難方法を知っている（福岡県実施の対象者のみ）	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない

※グレー網掛け以外の回答者を優先的に対象とした

図 2-1 関心度合い測定のための質問

また、本調査では、地域や年代、グループ構成等による意見の違いや情報入手経路（ネット、テレビ、新聞、SNS 等）の違いを想定し、複数のグルーピングを実施した。

【地域】

- 立地・周辺地域住民
 - 北海道（札幌市）、宮城県（仙台市）、静岡県（静岡市・浜松市）、福岡県（福岡市）、鹿児島県（鹿児島市）
- 電力消費地域住民
 - 東京都（23 区）、大阪府（大阪市）、愛知県（名古屋市）

【定員】

- 1グループ 3 名

【年代】

可能な限り、20-30 代、40-50 代、60 代以上で構成

2.1.3 調査のフロー

各グループあたり、2 時間程度の調査とし、表 2-1 のフローに従って参加者に意見を求めた。

表 2-1 FGI のフロー

区分	内容
自己紹介	話しやすい雰囲気を構築する。
導入	原子力規制委員会の認知度を確認する。 また、普段の情報収集方法を確認する。
展開 1 ・規制委員会ホームページ ・規制委 Twitter ・N-ADRES ¹ の情報について	参加者自身のスマートフォンを使ってもらい、原子力規制委員会のホームページにアクセスしてもらう。 参加者が興味のあるページを自由に閲覧してもらった後、初めてホームページを見た印象や感じたことを確認する。 原子力規制委員会 Twitter について、率直な印象や意見を確認する。 例示として、Twitter 記事をいくつか司会側より提示し、意見を確認する。 N-ADRES について、率直な印象や意見を伺う。 例示として、N-ADRES 画面を投影し、意見を確認する。
展開 2 ALPS 処理水の情報について	ALPS 処理水についての原子力規制委員会の関与について話を伺う。 まずは、ALPS 処理水についての認知状況について確認する。 原子力規制委員会が発信しているモニタリング結果資料を見た感想や、ALPS 処理水について、どのような内容の情報発信や対応姿勢を重要視するかについて意見を確認する。
展開 3 ・委員長交代の情報について ・発足 10 年 ・審査の効率化	原子力規制委員会の発足 10 年・委員長交代について説明する。 委員長交代の認知度、関心・期待を確認する。 審査の効率化についての考え方や意見を伺う。 規制についての重要とらえている点(検査効率化等)への意見を伺う。

2.1.4 グループ構成及び調査時期

クロス・マーケティング社の登録モニターから参加者を選定して FGI を実施した。グループ構成及び調査時期を表 2-2 に示す。

¹ 原子力規制委員会アーカイブ検索システム、<https://www.da.nra.go.jp/>

表 2-2 FGI 調査のグループ構成及び調査時期

グループ		日程		男性	女性	20-30 代	40-50 代	60 代
①	北海道(札幌市):男女	10月9日	日	1	2	1	1	1
②	宮城県(仙台市):男女	10月7日	金	2	1	1	1	1
③	静岡県(静岡市・浜松市): 男女	10月9日	日	1	2	1	1	1
④	福岡県(福岡市):男女	10月9日	日	2	1	1	1	1
⑤	鹿児島県(鹿児島市):男女	10月8日	土	2	1	1	1	1
⑥	東京都(23区):女性	10月1日	土		3	1	1	1
⑦	東京都(23区):男性	10月1日	土	3		1	1	1
⑧	大阪府(大阪市):女性	10月8日	土		3	1	1	1
⑨	大阪府(大阪市):男性	10月1日	土	3		1	1	1
⑩	愛知県(名古屋市):男女	10月9日	日	2	1	1	1	1

(単位:人)

2.2 調査結果

2.2.1 FGI より得られた主な課題等

表 2-1 FGI のフローの各区分において得られた主な課題等を次の項目についてまとめた。

- (1) 普段利用する検索エンジンや SNS など
- (2) 原子力規制委員会ホームページの印象
- (3) 原子力規制委員会 Twitter の印象
- (4) N-ADRES について
- (5) 安全研究の分野
- (6) ALPS 処理水の情報について
- (7) 委員長交代
- (8) 原子力規制委員会への期待

(1) 普段利用する検索エンジンや SNS など

- 検索エンジンと SNS を組み合わせて使うとの意見が多数であった。
 - 一般の方の目を引くという視点を重要視するのであれば、検索エンジンでの検索されやすさなどを意識したホームページでの情報発信についても将来的には検討すべきであると考えられる。

(2) 原子力規制委員会ホームページの印象

- 地方・消費地共に、ホームページの印象の堅さ、文字の多さや理解のしやすさに難があるとの意見が多数であった。

- 一方、知りたい情報を得ることができるという観点から情報量の多さに肯定的な意見もあった。
- ホームページの情報量を減らすのではなく、いかに大量の情報を整理し見やすくするかが肝要と考えられる。
(以下、得られた意見の例)
 - スマートフォン用画面ではPC用画面の冒頭に配置されている「原子力規制委員会とは」というボタンがない。「原子力規制委員会とはどういう組織なのか？」と思う方は多いはずなので、スマートフォン版画面の最初の方に「原子力規制委員会とは」のボタンを配置すべき。
 - 文字のメニューが多く、中を開いてみないと記載内容が分からない。文字のメニューに、数行のコンテンツ解説(概要)を記載するとより分かりやすい。
- 検索エンジンによる検索結果の表示についても上記の工夫が望まれる。
- 地方(立地地域)では緊急情報に関心を示す意見が多く見られた。

(3) 原子力規制委員会 Twitter の印象

- 原子力規制委員会 Twitter に関しては、図 2-2、図 2-3、図 2-4 に示すツイートをスライドにて投影し印象を確認した。

#原子力規制委員会 では、毎年防災の日前後に徒歩参集や安否確認などの訓練を実施しています。9月2日は、非常用回線による通信手順を確認しましたが、悪天候のため衛星との通信に時間がかかる場面もありました。今後も災害時の業務継続性を向上させるべく、繰り返し訓練を行ってまいります。

Translate Tweet



1:15 PM · Sep 7, 2022 · Twitter Web App

図 2-2 原子力規制委員会のツイートの例 ¹²

² 出所)原子力規制委員会の Twitter(2022 年 9 月 7 日)、
<https://twitter.com/gensiryokukisei/status/1567365928165474304>、2022 年 9 月 29 日

更田委員長の退任挨拶と、新任の山中委員長の職員訓辞がありました。更田委員長は「皆さん一丸となつて、これからも原子力規制委員会の正義を守って下さい」と述べ、山中委員長は「今ここで『福島を決して忘れない』自分自身の心に誓って下さい」と呼びかけました。

youtu.be/C4oMliJ39XM



午後9:15 · 2022年9月28日 · Twitter Web App

図 2-3 原子力規制委員会のツイートの例²³

²³出所)原子力規制委員会の Twitter(2022年9月28日)、
<https://twitter.com/gensiryokukisei/status/1575096952345088000?t=bhIICNo2HWVlF782AxTXg&s=03>、2022年9月29日取得

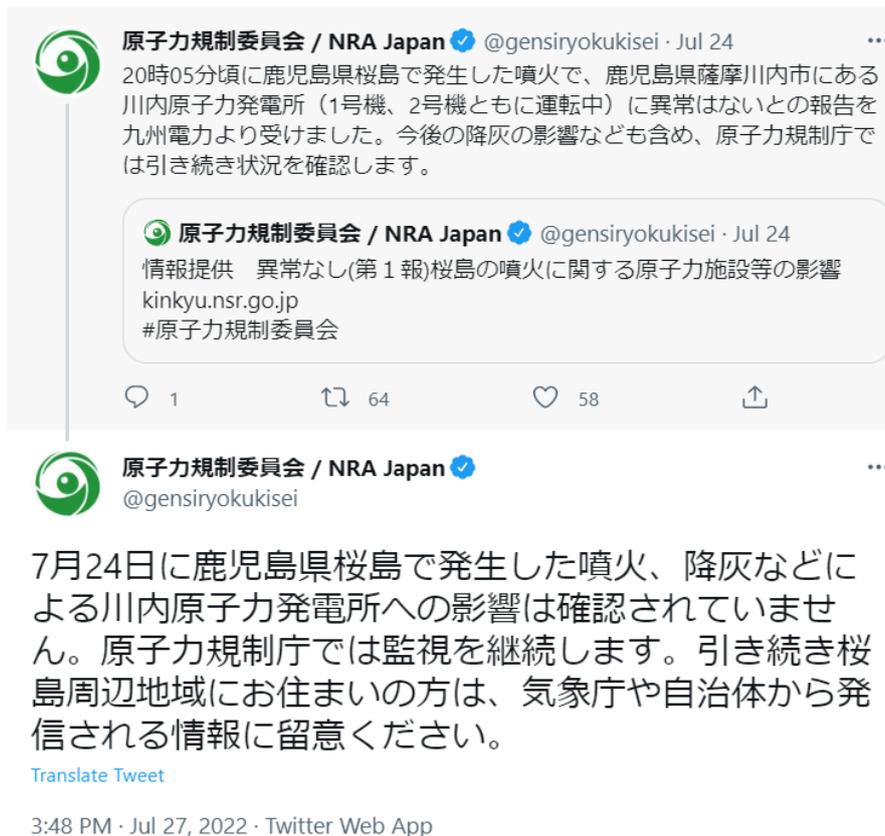


図 2-4 原子力規制委員会のツイートの例⁴

- Twitter の利用については好意的な意見が多かった。
 - 地震等が発生した際には一般の方の関心も高まる可能性がある。
 - 災害の規模にもよるが、投稿閲覧者をうまく原子力規制委員会ホームページに誘導するような記事を緊急情報等の発信のタイミングで発信できるように準備を進めておく方向性も考えられる。
- 一方で、通常見慣れている投稿と類似した形での投稿を望む意見も多かった。
 (以下、得られた提案の例)
 - 写真を使うなどして目に留まりやすくする。
 - 投稿内容を端的に示すキーワードを冒頭に配置する。
 - ハッシュタグを有効に使う。
- 会議案内など、同様の内容が続くことで投稿記事への関心が低くなるとの指摘もあった。想定される読者別にアカウントを使い分けるなどの工夫も今後は必要になる可能性がある。
 - 規制委員会の会議や業務等に関心を持つ層に向けたアカウント(既存アカウントを利用)。
 - 上記以外の一般向けのアカウントで規制委員や委員会の紹介などを主な目的とするもの(新

⁴ 出所)原子力規制委員会の Twitter(2022 年 7 月 24 日)、
<https://twitter.com/gensiryokukisei/status/1551193749933670400>, 2022 年 9 月 29 日取得

規アカウントを追加)。

- 別途、原子力規制委員会の紹介等を目的としたメールによる定期的な記事配信等も考えられるが、アドレスの登録が必要になるため、一般の方にとっては敷居が高い。Twitterでの運用がよりアクセスしやすいと考えられる。ある程度期間を限定して原子力規制委員会のホームページのコンテンツを紹介する記事を何点か投稿し、投稿記事の内容をホームページの各コンテンツを紹介する概要説明等に利用することも可能と考えられる。

(4) N-ADRES について

- N-ADRES に対して寄せられた意見を図示したものを図 2-5、図 2-6、図 2-7 に示す。

The image shows a screenshot of the N-ADRES website. At the top, the logo 'N-ADRES BETA' is displayed, with '原子力規制委員会アーカイブ検索システム(ベータ版)' written below it. A red oval highlights this text. Below the logo, there is a search bar with a green '検索' button. A blue box with a white background and a blue border contains the following text:

- 学術研究者向けのサイトという印象。
- 調べる目的が明確な人が利用するもの。目的が明確でない人、原子力に興味が無い人はまずこのページにたどり着けない。
- 検索結果も報告書等なので一般の人には敷居が高い。

Another blue box with a white background and a blue border is positioned to the right of the search bar, containing the following text:

- 「アーカイブ検索システム」という名前の意味がよくわからない。

The search bar area includes the text: '原子力発電所名や資料名、人名、気になるキーワードで検索できます。' and a placeholder 'キーワードを入力'.

図 2-5 N-ADRES のトップページに対して寄せられた意見5

⁵ 出所)原子力規制委員会「アーカイブ検索システム N-ADRES」, <https://www.da.nra.go.jp/>、2022年9月29日取得(吹き出しは三菱総合研究所が追記)。FGI で得られたご意見についてはほぼ口述のまま記載する。



図 2-6 N-ADRES の詳細検索ページに対して寄せられた意見⁶

⁶ 出所)原子力規制委員会「アーカイブ検索システム N-ADRES」、<https://www.da.nra.go.jp/>、2022 年 9 月 29 日取得(吹き出しは三菱総合研究所が追記)。FGI で得られたご意見についてはほぼ口述のまま記載する。

日付・施設・分類で絞り込む

戻る

再検索

79件の検索結果 ファイル数: 623
 検索種別: キーワード検索
 検索条件: 安全研究の分野

「施設」欄の絞り込みボタン「絞り込む」

「安全研究」欄の絞り込みボタン「絞り込む」

● 施設／日付で検索範囲を絞れるのは良い。

● 検索結果のリストが多すぎる。
 ● 情報量が多すぎる。
 ● (検索結果のリストに) 何が書いてあるのか、サブタイトルや概要、プレビューのようなものが表示されるとわかりやすい。タイトルだけでは何が書いてあるのかわからない。

図 2-7 N-ADRES の検索結果ページに対して寄せられた意見⁷

以下に N-ADRES について寄せられた「肯定的な意見」、「否定的な意見」の例を記載する⁸。

- 肯定的な意見の例
 - いろいろ詳しく知りたいなという時には、こういうふうにやっていけばいいんだなというのがよく分かるのでいいなと思う。調べてみたら面白いんだろうなと思う。
 - 公的なサイトからよく資料をダウンロードするので、ビジネスでも使う方にとっては便利な機能なんじゃないかなと感じた。
 - 検索結果から施設ごとに出て来るとするのはちょっといい。何かキーワードに対して施設ごと

⁷ 出所)原子力規制委員会「アーカイブ検索システム N-ADRES」、<https://www.da.nra.go.jp/>、2022 年 9 月 29 日取得(吹き出しは三菱総合研究所が追記)。FGI で得られたご意見についてはほぼ口述のまま記載する。

は面白い。

- 専門家に対してのシステムならこれで十分。
- このアーカイブは非常によくできている印象。
- 検索のシステムとしては良いと思う。

- 否定的な意見の例
(ユーザーの想定)

- 大学の研究者が研究に使う人のためのものかなと思った。一般の人でこれを使う人はいなさそう。
- 端的に言うと学術研究者向けという感じがした。
- ここでこれを知りたいということがないから、ここで検索をすとかそのページに行くことはまずないと思う。

(一般的な検索エンジンと出力形式が異なる)

- 情報量が多すぎてどれを選べばいいのか分からない。Google だったら順番に出てくるけど、これは一気に出ているから、どれを選べば調べられるのかよく分からない。

(一般人が利用しようとする場合の詳細検索画面の難しさ)

- 習わないと AND とか何じゃってそもそも今の 10 代だと思えそう。
- 詳細検索の方は OR 検索、AND 検索、NOT 検索は知っていたら分かるけどという感じ。私は大学でしているから分かったが、何を含まと何を除くとか初めての人には分かりづらい。除くとか含むとか日本語にすればいいのにて思った。
- 目的が明確になっている人が探す検索機能としての利便性を考えて作られていると思うが、原子力に興味がない人はまず何を検索するのかというところから。

(名前の意味が分からない)

- 検索ができるということが、アーカイブ検索システムという名前からはよく分からなかった。

- 【補足】「どういう方の利用を想定している」かや、「どういう情報が確認できるのか」という具体的な例示(利用案内)があると、一般向けにはより分かりやすいと考えられる。

(5) 安全研究の分野

- ホームページに掲載されている図(図 2-8)を紹介したところ、研究テーマを選択すると、関連する研究の概要紹介ページにリンクするような構成を要望する意見があった。

- 研究紹介のコンテンツについては、リンクの設定や研究概要の追記等を検討する方向性が示唆された。

安全研究の分野

技術基盤グループの4つの研究部門（システム安全、シビアアクシデント、放射線・廃棄物、地震・津波）では、17の分野の安全研究を実施しています。安全研究プロジェクトや研究成果などについては、分野ごとに詳細をまとめておりますので、下記のリンク先からご覧ください。



図 2-8 安全研究の分野についてホームページに掲載されている図⁹

(6) ALPS 処理水の情報について

- ALPS 処理水濃度調査結果の表に対して寄せられた意見を図示したものを図 2-9 に示す。

⁹ 原子力規制委員会ホームページ、<https://www.nra.go.jp/activity/anzen/bunya/index.html>、2022年9月29日取得

福島第一原子力発電所 近傍海域の海水モニタリング結果(トリチウム)
Readings of Sea Area Monitoring near Fukushima Dai-ichi NPP (Tritium)(Seawater)

試料採取日: 令和4年6月10日
(Sampling Date: Jun 10, 2022)

令和4年9月13日
Sep 13, 2022
原子力規制委員会
Nuclear Regulation Authority (NRA)

• ダウンロードして確認するのではなく、Twitterなどでサクッと出て一目でわかった方がいい。
• URLをクリックしないと確認できない。

• 採取場所がどこなのか分からない(地図上にプロットするなど)。

• そもそもトリチウムが何かもわからない。

• 観測値の単位がよくわからない。

採取場所 Sampling Point	採取日 Sampling Date	採取深度 Sampling Depth (m)	放射性物質濃度 (Bq/L) Radioactivity concentration (Bq/L) H-3	採取場所 Sampling Point	採取日 Sampling Date	採取深度 Sampling Depth (m)	放射性物質濃度 (Bq/L) Radioactivity concentration (Bq/L) H-3
M-101	2022/4/21	0.5	0.14	M-103	2022/4/21	0.5	0.13
	2022/5/20		0.076		2022/5/20		0.12
	2022/6/10		0.15		2022/6/10		0.21
M-102	2022/4/21	0.5	0.12	M-104	2022/4/21	0.5	0.15
	2022/5/20		0.089		2022/5/20		0.088
	2022/6/10		0.13		2022/6/10		0.15

* 原子力規制委員会の委託事業により、(公財)海洋生物環境研究所が採取した試料を用いて、(公財)海洋生物環境研究所が分析。
collected by MERI at the request of Nuclear Regulation Authority (NRA)

• グラフで値の増減がわかるほうが見やすい。
• 地図をクリックしたらグラフが出てくるように。
• ハザードマップみたいに危険の色で示してほしい。

• 観測値の基準値の説明がないので、一般の人が数値を見て安全かどうかは判断できない。
• 平常時はどのぐらいの値なのかわかりやすい視覚的な図表があれば

• この結果を踏まえてわかったことや、今後どうした方がいいと考えられているのかこれだけではわからない。
• 魚を食べても大丈夫なのか、など一般の人達の生活の中で体感できるように。

* <https://radioactivity.nsr.go.jp/ja/contents/17000/16507/view.html>

図 2-9 ALPS 処理水濃度調査結果の表に対して寄せられた意見¹⁰

- 地図やグラフや色分けした濃度の図での表示を望む声が多かった。
 - モニタリングポストの表示や他の原子力発電所の海水放射能濃度の表示方法を参考にして分かりやすい表示とすることが望まれる。
 - リアルタイムの変化に関心がある方もいる模様である。測定の間隔が長い場合には、他のリアルタイムモニタリングと、測定間隔が異なる理由などの提示も求められる。
- 数値情報等の提示のみでなく、数字の解釈を求める意見が多かった。
 - 基準値との比較や変動幅の状況など、提示する解釈の内容について検討を進める必要がある。もしくは、解釈に責任を持つサイトに誘導するなどの対応も検討する必要がある。
- 風評払拭とのつながりが分かりにくいという意見があった。例えば、魚のトリチウム濃度の提示を求めるなど。
 - 安全性(危険性)についてどの程度説明するか検討して追加説明可能なものを積極的に情報発信する必要がある。
 - 魚の放射能濃度の扱いについても対応を説明するのが望ましい。原子力規制委員会が測定しない場合はその理由を提示するべき。また、他に測定して結果を公表している公的な主体があればその点を紹介することが利用者にとっては親切である。

¹⁰ 出所)原子力規制委員会「ALPS 処理水に係る海域環境モニタリング 福島第一原子力発電所 近傍」の図に説明を追記(吹き出しは三菱総合研究所が追記)。FGI で得られたご意見についてはほぼ口述のまま記載する。

(7) 委員長交代

- 9月末に行われた委員長交代について、表 2-3 のような意見が寄せられた。

表 2-3 委員長交代について寄せられた意見

<p>委員長個人に注目 (顔が見える委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員長の学歴や活動を発信していくことは健全性や透明性につながると思う。Aさんに決まりましたとだけ言われるより山中さんにこういう経歴があったので任命しましたの方が説得力があると思う。おそらく専門家なんだろうなというのもこれでつかめた。 ・ この新しい委員長が原子力の安全性のためにどうしているのか。私たちに原子力は非常に有用、必要だと分かるけど、安全性に対してどんなふうにやってきたいのかが分かればいいのか。最初だから仕方ないのかなと思うけど、もう少し具体的なことがあってもいいのかなと思う。 ・ 具体的にこの1年で何をします、あと5年でどこまでもっていきますという目標を出された方が分かりやすいかなと思う。 ・ 委員長のことをアピールするなら、一言個人的なことも付け加えたら内向けにもいいと思う。
<p>個人よりも 組織に注目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一番重要なトップページに委員長の話の動画があることに違和感があった。委員長よりも、むしろ原子力規制委員会がやっていることを一番に述べてほしい。 ・ トップが誰かは一般の国民にとってはどうでもいい話。やることはしてくださいと、それに尽きると思う。 ・ トップの方のこういった個人の経歴は大事かもしれないけど、もっと組織全体のアピールの方が先なんじゃないかなと思う。どういうメンバーシップでやっているのかが。 ・ 別に関心はない。トップが変わっただけだから。それぞれ現場で働いている方は委員会の事務局とか現場の皆様でしょうから、意向は反映されるでしょうが、さほど重要じゃない。 ・ 10年で三代目だから3年スパンぐらいで変わっているってことなので1人でずっとやり続けるより定期的に決めて交代してもらった方が組織として良いと思う。また交代することで何が変わるかわからないけど、良い方向にこの組織の存在意義や価値が変わると良いんじゃないかなと思う。 ・ 設置されて10年と書いてあるが、今までの10年の中で具体的にどういうことをしたのか書く方がいいんじゃないかなと思う。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見出しがないと読む気がしない。今ってYouTubeでもサムネイルで何のことでこういうことがまとまっている動画だよって、いかにサムネイルで人を惹きつけるかに賭けている YouTuber も多いと思うが、それってつまり今から何を言うよって見出しだと思ふ。その文章の見出しがあまりないから、決意表明って見出しだけでも何を言おうとしているか分かって読む気にもなるし、文章としても見やすくメリハリになるのではと思った。 ・ (英語のページもあった方が良かった)もちろん英語の方がいいと思う。日本国内だけでのこういった情報よりも、こういった事件があったから、原子力は世界にまず発信できるのを同時にしていかなきゃいけないんじゃないかなと思う。これだけ優秀な方とか優秀な構成で組織が成り立っているならなおさらだと思ふ。もちろん先ほどいろいろ出していたデータも開示していくべきんじゃないかなと思う。

- 委員長の経歴の紹介は、専門性や事業者との独立性を示す上で意味があるとの意見があった。
- 就任後 1 年までや 5 年までの目標の提示があるとより分かりやすく親近感がわくとの意見があった。
 - 原子力規制委員会の役割との関係もあるが、工夫できるところは工夫して情報発信していくことが有効である。
 - 職員向けの発言の紹介に加えて、国民一般向けの発言の紹介などについても検討の余地があるのではないか。
- 委員長よりも原子力規制委員会という組織そのものが、これまで何をしてきて、今後何をしていくかについて関心があるとの意見もあった。
 - 委員会発足時は新しい組織ということで委員長を中心として知名度を高めることも重要であったが、10 年を経てある程度原子力規制委員会への認知が進んでいる状況では、原子力規制委員会が何を行っているのかというような情報の発信がより重要になってきていると考えられる(昨年度調査でも同様の指摘あり)。
 - 委員長が変わることで委員会の対応が大きく変わるものではないということについては、一定の理解が進んでいる模様で、委員長個人の個性などへの関心は委員会発足当初よりは弱まっていると推察される。
 - 原子力規制委員会・原子力規制庁という組織をアピールする情報発信にも今後はより力点を置いていくべき。
 - 委員長のあいさつをそのまま紹介することに加えて、見出しやキーワードを用いてポイントを分かりやすく示す工夫も求められている。
 - 閲覧者(一般国民)が独自にポイントを見つけるにはハードルが高い内容との印象が多かった。
- 英文での紹介も追加するなど、国外向けも重要視した情報発信の必要性に関する意見もあった。

(8) 原子力規制委員会への期待

- 今後の原子力規制委員会に期待することを 7 点例示し、それぞれに対して表 2-4 のような意見が寄せられた。

表 2-4 今後の原子力規制委員会への期待について寄せられた意見

<p>a. 原子力に関する専門的な知見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期待というより大前提。 ・ aの専門的な知見があってこそ次のb、c、dができる。それがあって次のe、f、gを公表する。
<p>b. 検査、審査手順の正確な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期待というより大前提。 ・ 正確な実施があって、可能なかどうか、発電所として使えるかどうかは判断できると思うので、少々時間がかかっても検査とか審査はきちんとやっていただくことが必要なんじゃないかなと思う。 ・ 正確な実施をするためには詳しく検査しなければならないと思うけど、実施にかかる時間についても分かるように説明していただければなと思う。 ・ 原子力はないと困ると思うとは思いますが、ないで済むならそれが一番いいはずと思っている。だったらbとcの検査、審査手順の正確な実施をしてほしいのと、審査と検査に対する公正な判断をしてほしい。
<p>c. 審査、検査に対する公正な判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 審査と検査に対する公正な判断をしてほしい。 ・ 公正な判断をしてまた地震が来て放射能が漏れたとか建屋が崩壊したってなると厳しい状況だからしっかりとと思う。 ・ 審査、検査に関する公正な判断。原子力は怖いから使わない方がいいんだけど、当面、電力の安定供給を考えたら使わないとしようがないという状況だとは思う。
<p>d. 事業者から独立した判断</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者からの独立した判断。そこらへんはaの専門的な知見がないと判断できない。 ・ 事業者から独立した判断というのを、10代の人とか若い人は原子力規制委員会がイコール電力会社みたいに思っている人もいそう。それをもっと独立した機関だよってことをまずアピールして、独立した判断をしてほしい。 ・ 事業者さんから独立したところで公平性の判断をしてくれると、自分たちの安心につながると思う。事業者さんにもしっかり見ているということが伝わることでより良くなっていくんじゃないか。
<p>e. 検査や審査状況の公表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査をしていくのももちろん大事だが、結果を公表していくこと自体が一番大事だし、その情報を知りたい人たちも知れる状況にあることも大事。
<p>f. 検査や審査結果の公表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検査結果をきちっと公表して、それも皆さんが分かるような内容にしてほしい。小学生は無理かもしれないが、中高生くらいからお年寄りまでが分かるような検査。ただの数値を言われても困るから、分かるようにしてほしい。 ・ もっと透明性を持ってほしいのと、10代には堅くて難しいと思うから、そういう意味でも分かりやすく評価してもらって知らせてほしい。
<p>g. 第三者的な評価の実施と結果の公表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独立とか第三者的というのが大事かなと思う。 ・ 100%安全、保証できるように頑張りますと言われていたら、無理っと思う。できないことをできると言われたら信頼できないが、そこが分かっている方たちが安全に運営するために努力しているのが逆に信頼できる。その上で、主観だけでやっている、どこかで落としてしまうところは出てくると思うので、そこで第三者的な方、どのような方が分からないが、そういう方が評価の実施と結果の公表をしてくれるなら安心感がある。 ・ gの第三者って誰なの？と。第三者それぞれのプロフィールも必要。 ・ 内部だけで判断しても、大事なことが隠れていそうな気がする。第三者的な立場から見た公正な判断が必要かなと思った。

- 専門的な知識は期待というよりは前提とする意見があり、その上で検査・審査の、正確で公正かつ独立性のある実施が望まれている。さらに、経過や結果の分かりやすい公表の要望が望まれるとともに、検査・審査のプロセスへの第三者的な評価によるさらなる信頼性の確保の要望が寄せられた。
 - a～g についてはいずれも重要であるが、上記のような構造を合わせて紹介することが、より高い信頼の確保につながる可能性が示唆された。
- 検査・審査の正確な実施にあたってはある程度時間を要することには理解を示す意見があった。
 - 検査や審査の経過や結果の公表に際して、時間を要する場合は具体的にどのプロセスで時間を要しているのかを可能な範囲で分かりやすく説明するとともに、時間がかかることと正確性・公正性・独立性が担保されることの関連性などについても説明することが求められている。
 - 原子力発電の必要性については理解を示すとともに、安全性が大前提であり、そのための実効的な検査・審査の実施が求められるとともに、透明性を持った分かりやすい経過・結果の公表も求められている。
- 事業者からの独立した判断を重要視する意見も寄せられるとともに、事業者からの独立性が必ずしも若い世代などに理解されていないのではないかという懸念が複数寄せられた。
 - 事業者から独立した判断について、可能な範囲で具体例を示すことなどと合わせて、特に若い世代の理解を促進する対応が求められることが示唆された。
 - ◇ 「若い世代の理解不足」という指摘ではあるが、回答者自身の理解も不足していた可能性があり、全世代的な課題の可能性がある。
- 第三者的な評価の重要性を指摘する意見は多かった。その中で、第三者とは具体的にどのような組織なのかという疑問も寄せられた。具体的にどのような第三者的な評価の仕組みがあるのかを説明する資料の提示などが重要である。

2.2.2 調査結果のまとめ

FGI 調査により、一般の方々の原子力規制委員会への認知・原子力規制委員会の情報発信への印象等がインタビューの中で発言として具体的に説明され、具体的な示唆を得ることができた。調査の結果得られた示唆を以下に記載する。

(1) SNS の利用傾向の高まり

FGI 調査の結果、多くの方が普段から検索エンジンと SNS を組み合わせて利用していることが明らかとなった。既に原子力規制委員会は Twitter を用いた情報発信を行っており、それに対する好意的な意見が多数であった。一方で、発信内容に関しては会議内容等、同様の内容が続くことで投稿記事への関心が低くなる、写真やハッシュタグ等を利用して目に留まりやすい形での投稿が必要との指摘もあった。今後、写真・ハッシュタグの利用等、これまでとは異なる形式での投稿を行い、投稿のインプレッション推移を確認することでどのような投稿がより関心を集めるか分析することが重要と考えられる。

(2) ALPS 処理水に関する情報発信の工夫

ALPS 処理水濃度調査結果については、一般の方にとっても分かりやすい内容とすることを要望するものが多かった。数値情報等の提示のみでなく、数字や単位の意味・解釈を求める意見や、地図やグラフ、色分けした濃度の図での表示を望む声が多く、より一般の方に分かりやすいよう平易な説明の追加や図解等の工夫が必要と考えられる。その他、ホームページの内容についても難解さを指摘する声があり、一般の方からのアクセスが一定量望まれる情報発信については分かりやすさを意識した発信が重要と考えられる。特に、安全性(危険性)についてどの程度説明するか検討して追加説明可能なものを積極的に情報発信する必要がある。

さらに、魚の放射能濃度の扱いについても対応を説明するのが望ましい。原子力規制委員会が測定しない場合はその理由を提示し、また、他に測定して結果を公表している公的な主体があればその点を紹介することが利用者にとっては親切である。

(3) ホームページでの情報発信の工夫

原子力規制委員会ホームページに関しては過年度で寄せられたものと同様の意見が多く、地方・消費地共に、ホームページの印象の堅さ、文字の多さや理解のしやすさに難があるとの意見が多数であった。一方、知りたい情報を得ることができるという観点から情報量の多さに肯定的な意見もあった。ホームページの情報量を減らすのではなく、いかに大量の情報を整理し見やすくするかが肝要と考えられる。

また、文字のメニューが多く、中を開いてみないと記載内容が分からないという声もあり、ページを開く前に記載内容の概要が分かるような工夫が望まれる。この工夫は検索エンジンによる検索結果の表示についても有用と考えられる。

(4) N-ADRES での情報発信の工夫

N-ADRES に関してはこのようなデータベース形式での情報発信に対する肯定的な意見が寄せられた一方、使い勝手の難しさを指摘する声もあった。情報量が多くどの検索結果を選べば良いのか分からない、詳細検索機能やアーカイブされている情報そのものが一般人向けではないといった意見があり、「どういう方の利用を想定している」ということや「どういう情報が確認できるのか」という具体的な例示(利用案内)があると、一般向けにはより分かりやすいと考えられる。

(5) 委員長交代への関心

委員長交代のニュースに関しては、委員長個人の人となり・経歴等に関心を示す意見がある一方で、委員長よりも組織のあり方を重要視する意見があった。委員長個人に関する情報発信については、経歴の紹介は、専門性や独立性を示す上で意味がある、委員長個人の目標の提示があると親近感がわくとの意見もあり、国民一般向けの発言の紹介等についても検討の余地があると考えられる。また、委員長のあいさつをそのまま紹介することに加えて、見出しやキーワードを用いてポイントを分かりやすく示す工夫も求められている。

また、組織のあり方に関する情報発信については、委員長よりも原子力規制委員会という組織そのものが、これまで何をしてきて、今後何をしていくかについて関心があるとの意見もあった。委員会発足時

は新しい組織ということで委員長を中心として知名度を高めることも重要であったが、10年を経てある程度原子力規制委員会への認知が進んでいる状況では、原子力規制委員会が何を行っているのかというような情報の発信がより重要になってきていると考えられる。

(6) 原子力規制委員会への期待(独立性、第三者評価)

原子力規制委員会へ期待することとして、専門的な知識は期待というよりは前提とする意見があり、その上で検査・審査の、正確で公正かつ独立性のある実施が望まれている。さらに、経過や結果の分かりやすい公表の要望が望まれるとともに、検査・審査のプロセスへの第三者的な評価によるさらなる信頼性の確保の要望が寄せられた。

事業者からの独立した判断を重要視する意見も寄せられるとともに、事業者からの独立性が必ずしも若い世代などに理解されていないのではないかという懸念が複数寄せられた。事業者から独立した判断について、可能な範囲で具体例を示すことなどと合わせて、特に若い世代の理解を促進する対応が求められることが示唆された。一方、若い世代ではない回答者自身の理解も不足していた可能性があり、全世代的な課題の可能性もある。

また、第三者的な評価の重要性を指摘する意見は多かった。その中で、第三者とは具体的にどのような組織なのかという疑問も寄せられた。具体的にどのような第三者的な評価の仕組みがあるのかを説明する資料の提示などが重要である。

3. 原子力規制委員会等に対する国内各主体の認識の調査

全国 47 都道府県の 20～60 代の男女を対象に、原子力規制委員会及び原子力規制庁の広報活動・情報発信についてのアンケート調査を実施した。

3.1 調査概要

3.1.1 調査対象

全国 47 都道府県の男女を調査対象とした。回答者の抽出においては、各都道府県につき、150 名以上を各都道府県の人口構成比に準拠して抽出した。また、地域の特性に依じた結果の差異を確認するため、表 3-1 に示す区分を設定し、集計、比較を行った。

表 3-1 対象地域と回答者数

	対象地域	回答者数
47 都道府県	全国 47 都道府県	7,100
原子力施設立地・周辺自治体	北海道、青森県、宮城県、福島県、茨城県、新潟県、静岡県、石川県、富山県、福井県、岐阜県、滋賀県、京都府、島根県、鳥取県、愛媛県、山口県、佐賀県、長崎県、福岡県、鹿児島県	3,173
電力消費地域	東京都、愛知県、大阪府	453

図 3-1 に回答者全体の性別割合、年齢割合を示す。

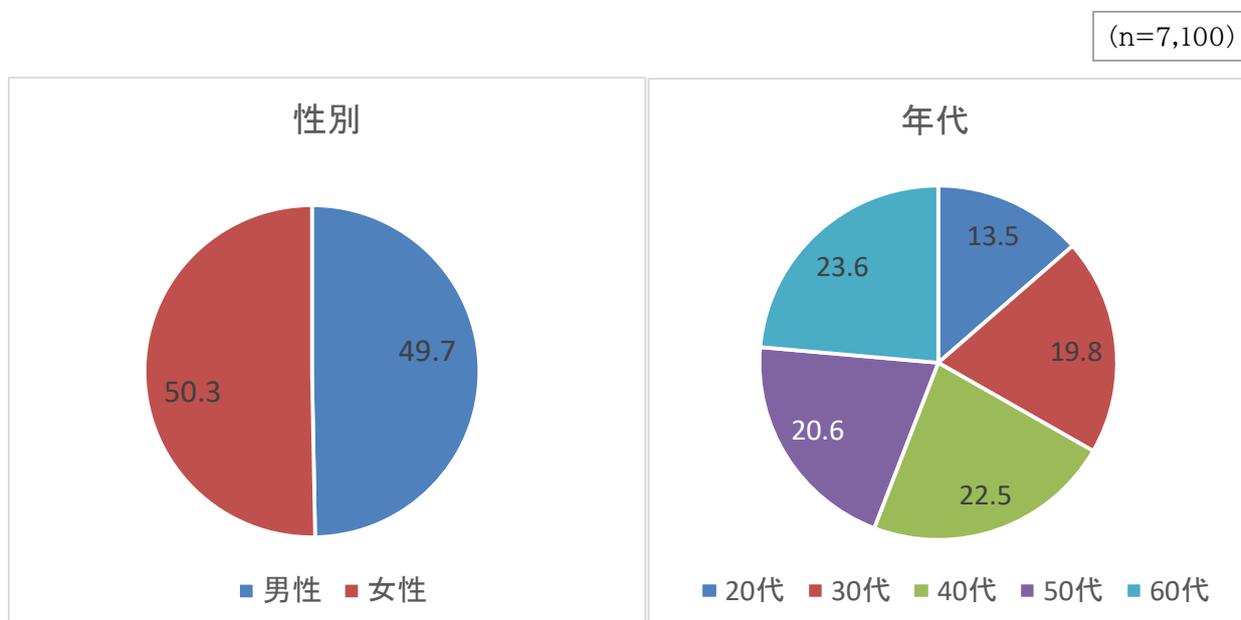


図 3-1 回答者の性別、年齢分布

3.1.2 調査方法及び調査時期

令和 3 年度の調査と同様に、クロス・マーケティング社のモニターに対して Web アンケート調査を実

施した。クロス・マーケティング社のリサーチ対象パネルは、提携パネルと合わせて500万人以上存在する。

なお、Web アンケート調査は、インターネットを利用する方のみが回答対象者となることから、回答者の属性等にバイアスが存在する可能性が指摘されている。一方で、短期間に効率よく調査が行えることから、多くの省庁での調査においても採用されている手法である。

以下の4つの観点を踏まえ、必要数の回答を回収した。

① 回答者数の確保

20～60代の指定した条件に合うモニターに対してメールによるアンケート実施の案内を行い、十分な回答数が回収されるまで継続する。各地域での人口構成比に合わせて設定した数の回収を試みつつ、回収数が設定に満たない場合のみ、近接したセグメント(例えば、20代男性の回答が少ない場合は、30代男性で補填するなど)を多く回収することで、人口構成比に準拠しつつ回収数を満たした。

② より一般的な回答者の確保

より一般的な回答を収集するため、令和3年度調査と同様に、回答者自身もしくは家族の職業が調査会社、マスコミ関係、広告・販促・マーケティング会社であると回答したモニターは除外した。

③ 原子力規制委員会に対する認知者の確保

原子力規制委員会の活動等に対する質問については、原子力規制委員会に対して一定の認知のある方からの回答を得ることが適切である。このため、プレ調査として、原子力規制委員会を「知っている」、「聞いたことがある」と回答したモニターのみ本調査の対象者とした。

④ 不適切な回答等の除外

全質問の回答を完了しなかった未回答者及び全て同一の選択肢を選択した回答者は不適切な回答者として除外した。

なお、調査は、令和4年12月2日より12月12日まで実施した。

3.1.3 調査項目

本調査は、主に定点観測を意図したこれまでの調査に基づく項目に加え、新規に「原子力規制委員会の公開情報管理の取組に関する関心」、「原子力規制委員会が公開している情報の検索性に関する評価」、「原子力規制委員会の新委員長就任に対する関心」、「原子力規制委員会の審査方法見直しに関する関心」を設定した。調査項目を表3-2に示す。また、調査票は付録Aとして付した。

表 3-2 アンケート調査項目

		質問の趣旨
昨年度調査に基づく項目	プレ調査 1	「原子力規制委員会の認知」 調査の趣旨から、原子力規制委員会という組織について知っているかどうかについて確認 「知っている」、または「名前は知っている」という回答者のみ本調査の対象とした。
	プレ調査 2	「回答者集団の特性」 調査対象とした集団の特性を把握するために、内閣府が実施している世論調査における「あなたは地域での付き合いをどの程度していますか」という質問を実施
	問 1	「原子力規制委員会・規制庁・規制事務所の組織体制の認知度」 原子力規制委員会等が設置された経緯についての認知度を調査
	問 2	「原子力規制委員会・規制庁・規制事務所の業務の認知度」 原子力規制委員会等の業務についての認知度を調査
	問 3-8	「個別広聴・広報活動・事業の認知度・評価」 原子力規制委員会のホームページ、緊急情報メールサービス、Twitter、YouTube・ニコニコチャンネルについての認知度、関心、評価について調査
	問 9-10	「原子力規制委員会の情報提供に対する評価、期待」 原子力規制委員会の情報提供のあり方に対する評価及び期待感を調査
	問 11	「原子力規制委員会への信頼度(相対評価)」 原子力の情報の発信源として最も信頼する組織について調査
	問 12-13	「原子力規制委員会への信頼度(絶対評価)」 問 11 に付随して、原子力規制委員会に対する信頼を絶対評価で調査し、その理由を自由記述での回答(今年度新規追加)で調査
	問 14	「原子力規制委員会の情報提供内容に対するニーズ・期待事項」 原子力規制庁等が発信する情報に対する関心度を調査
	問 18-19	「原子力規制委員会の能力に対する信頼」 令和 2 年度調査において追加した原子力発電所稼働にあたっての審査、検査の能力について、期待感及び実現の難しさについて複数の観点で調査
新規追加項目	問 15	「原子力規制委員会の公開情報管理の取組に関する関心」 公開情報管理システム(N-ADRES)について調査
	問 16	「原子力規制委員会が公開している情報の検索性に関する評価」公開情報管理システム(N-ADRES)について調査
	問 17	「原子力規制委員会の新委員長就任に対する関心」 山中新委員長の就任あいさつに関して調査
	問 20	「原子力規制委員会の審査方法見直しに関する評価」 原子力発電所の 60 年超の稼働を念頭に置いた審査方法の見直しで、特に重要と思われる観点について調査

3.2 調査結果

3.2.1 プレ調査

(1) 原子力規制委員会の認知度

プレ調査 1「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」に対する回答結果の経年変化を図 3-2 に示す。

ここでの回答は、本調査の対象とした回答者のスクリーニングを行う前の状態であることに留意が必要である。過年度調査との比較のため、原子力施設立地・周辺自治体、電力消費地域について抽出し集計をしたところ、いずれの地域においても令和 3 年度調査と大きな変化は見られなかった。

原子力施設立地・周辺自治体 R4(n=8,328)	電力消費地域 R4(n=1,583)
R3(n=8,110)	R3(n=1,492)
R2(n=7,842)	R2(n=1,353)
R1(n=7,218)	R1(n=1,317)
H30(n=7,400)	H30(n=1,333)
H29(n=6,161)	H29(n=1,050)
H28(n=3,160)	H28(n=453)
H27(n=2,976)	H27(n=1,137)
H25(n=7,226)	H25(n=1,006)

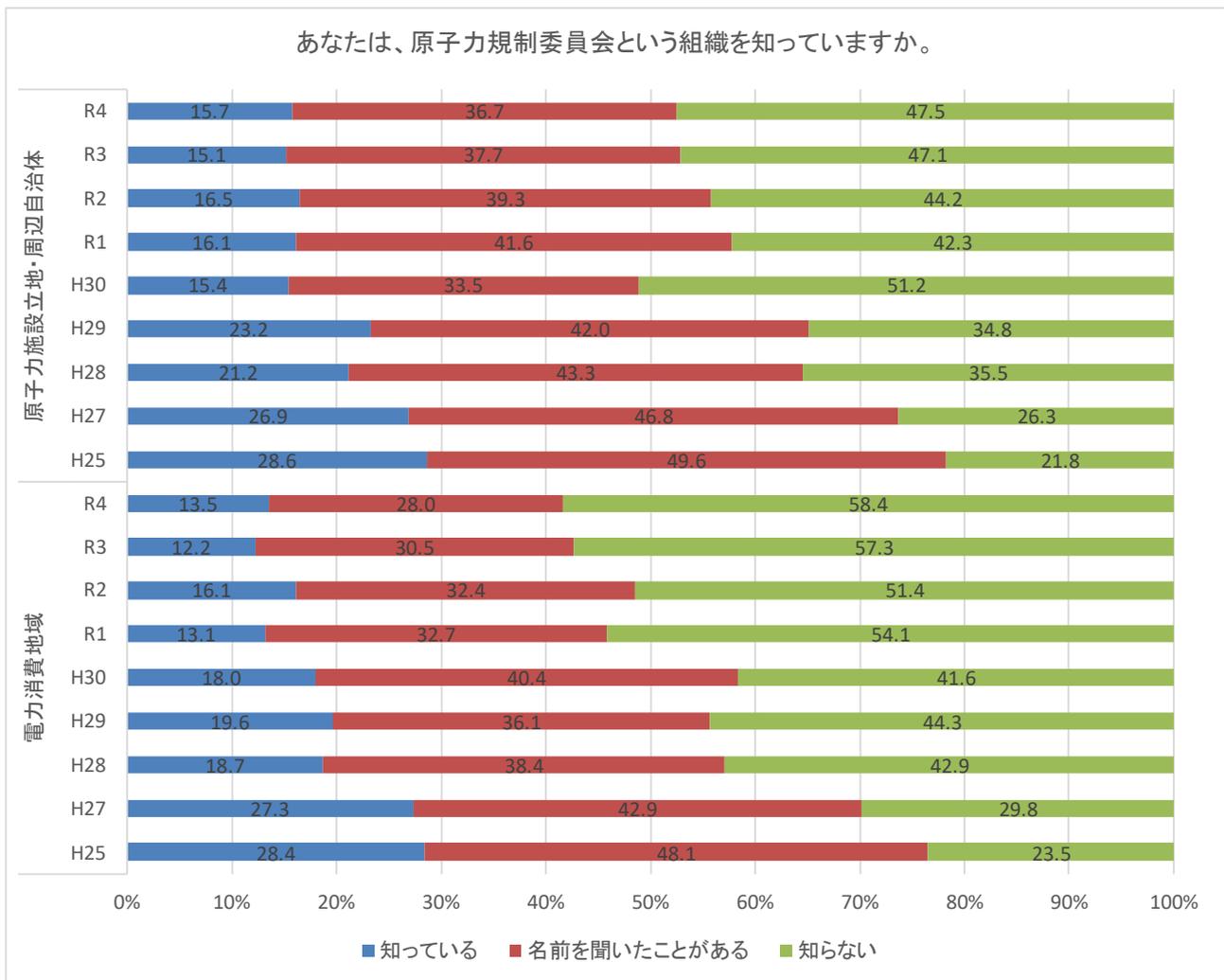


図 3-2 プレ調査 1「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」回答結果の経年変化

(2) 集団特性の把握

アンケート調査の調査方法による回答者集団の特性を把握するため、個別の分野に特化しない一般的な内容である、地域での付き合いに関する質問を設定し、Web アンケートによる本調査の回答結果と調査員による個別面接聴取法による内閣府の世論調査の結果と比較した。

本調査での結果を図 3-3 に、内閣府の世論調査「社会意識に関する世論調査」の結果を図 3-4

に示す。本調査では、“よく付き合っている”、“ある程度付き合っている”の回答の合計割合は 34.1%であり、世論調査の結果と比べやや低い割合であった。なお、令和元年度調査の結果(35.6%)とはほぼ変わらない値であり、経年による変化は見られない。世論調査では年代が高くなるほど地域での付き合いをしている割合は高くなっており、本調査では対象として 70 代以上が含まれていないことが理由の一つと考えられる。ただし世論調査は令和2年1月調査までは調査員による個別面接聴取法で実施していたが、令和3年12月調査は新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、調査員と調査対象の方との接触を回避するため、郵送法で実施された。このため令和3年12月調査は回答数が1,790人と、令和2年1月調査より少なくなっている。また、コロナ禍に伴う外出自粛などの影響についても留意が必要である。

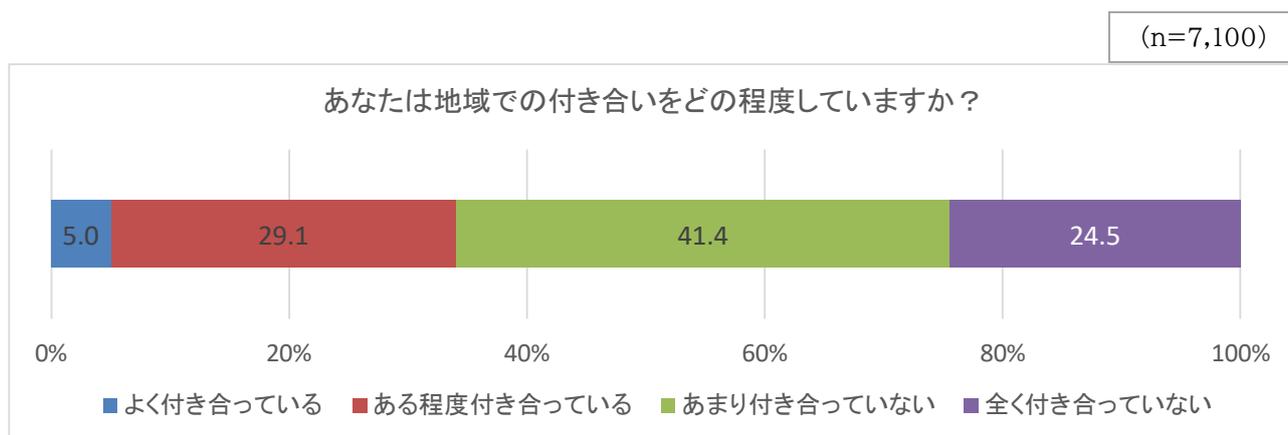


図 3-3 プレ調査 2「あなたは地域での付き合いをどの程度していますか？」回答結果

平成 28 年 2 月調査(n=5,877) 平成 29 年 1 月調査(n=5,907)
 平成 29 年 1 月調査(n=5,993) 平成 30 年 2 月調査(n=5,742)
 平成 31 年 2 月調査(n=5,439) 令和 2 年 1 月調査(n=5,392)
 令和 3 年 12 月調査(n=1,790)^注

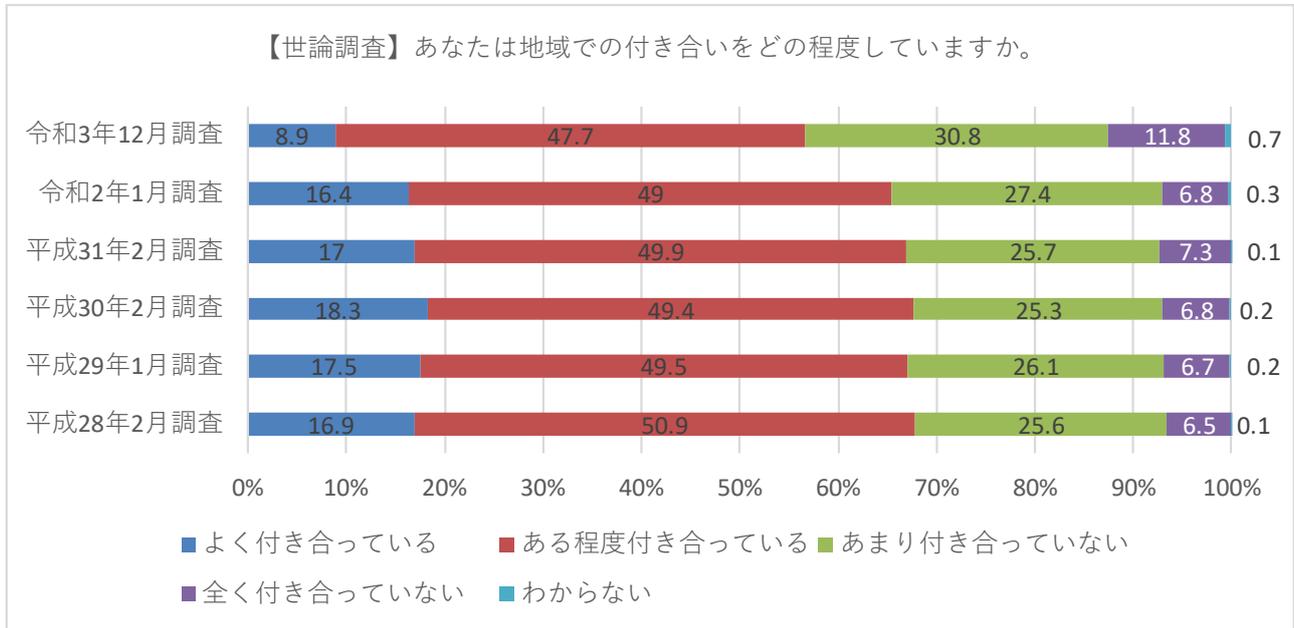


図 3-4 社会意識に関する世論調査 地域での付き合いに関する回答結果¹¹

注) 令和2年1月調査までは調査員による個別面接聴取法で実施していたが、令和 3 年 12 月調査は新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、調査員と調査対象の方との接触を回避するため、郵送法で実施した。

¹¹ 出所)内閣府「社会意識に関する世論調査」、<https://survey.gov-online.go.jp/index-sha.html>、2023 年 1 月 17 日取得

3.2.2 本調査結果の概要

本調査の回答者全体の集計結果を記載する。また、全国と原子力施設立地・周辺自治体、電力消費地域との比較を行った地域間の比較結果と、平成 28 年度から今年度までの経年比較結果は付録 B に付した。

図 3-5 に問 1 に対する回答結果を示す。なお、選択肢7“原子力規制委員長による定例の記者会見を週1回、事務方による定例ブリーフィングを週2回実施していること”は、今年度から追加された。

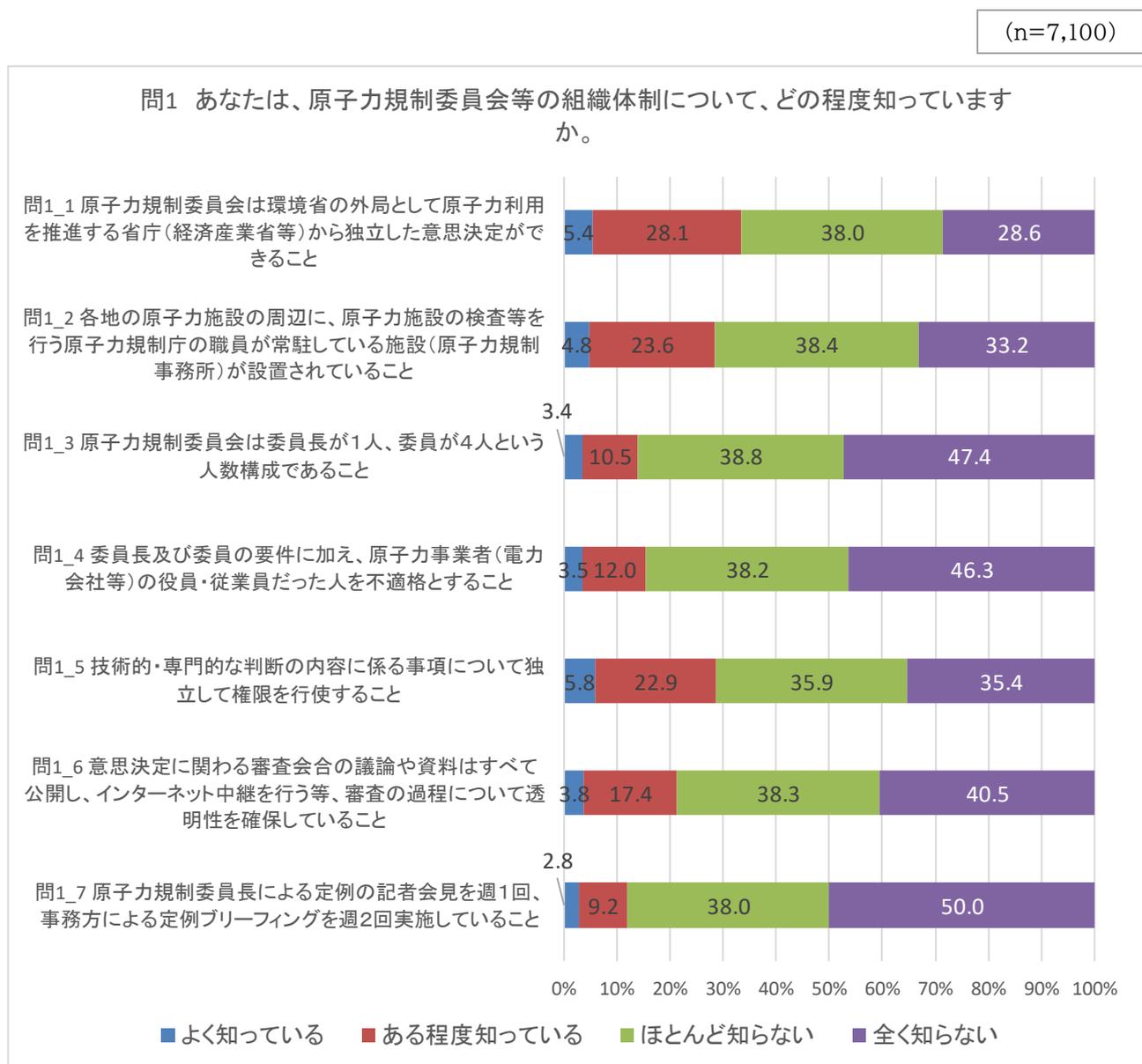


図 3-5 問 1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」回答結果

図 3-6 に問 2 に対する回答結果を示す。

(n=7,100)

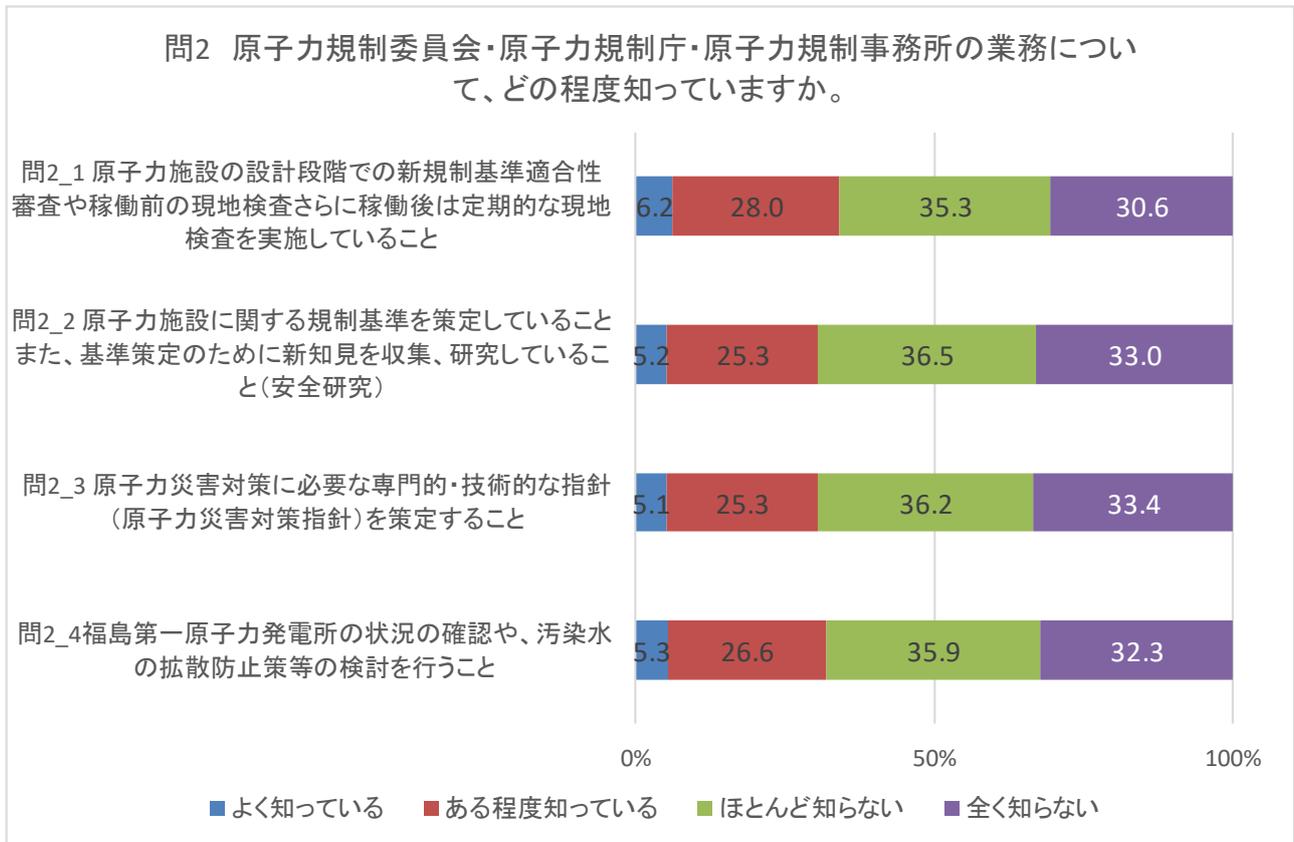


図 3-6 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。」回答結果

図 3-7 に問 3 に対する回答結果を示す。

(n=7,100)

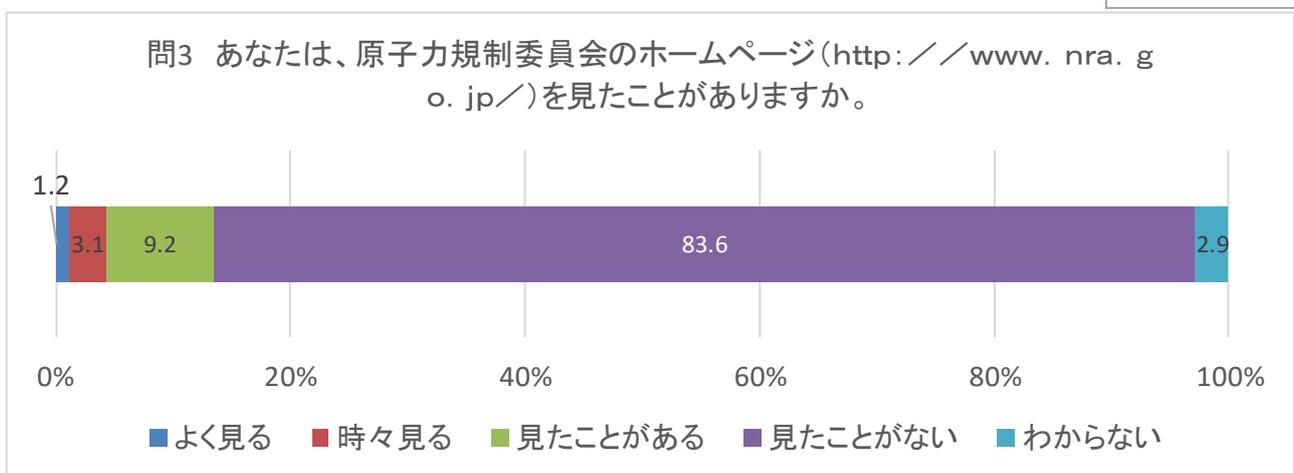


図 3-7 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(<http://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。」回答結果

図 3-8 に問 4 に対する回答結果を示す。ここでは、問 3 において、“よく見る”、“時々見る”、“見たことがある”を選択した回答者のみを対象としている。

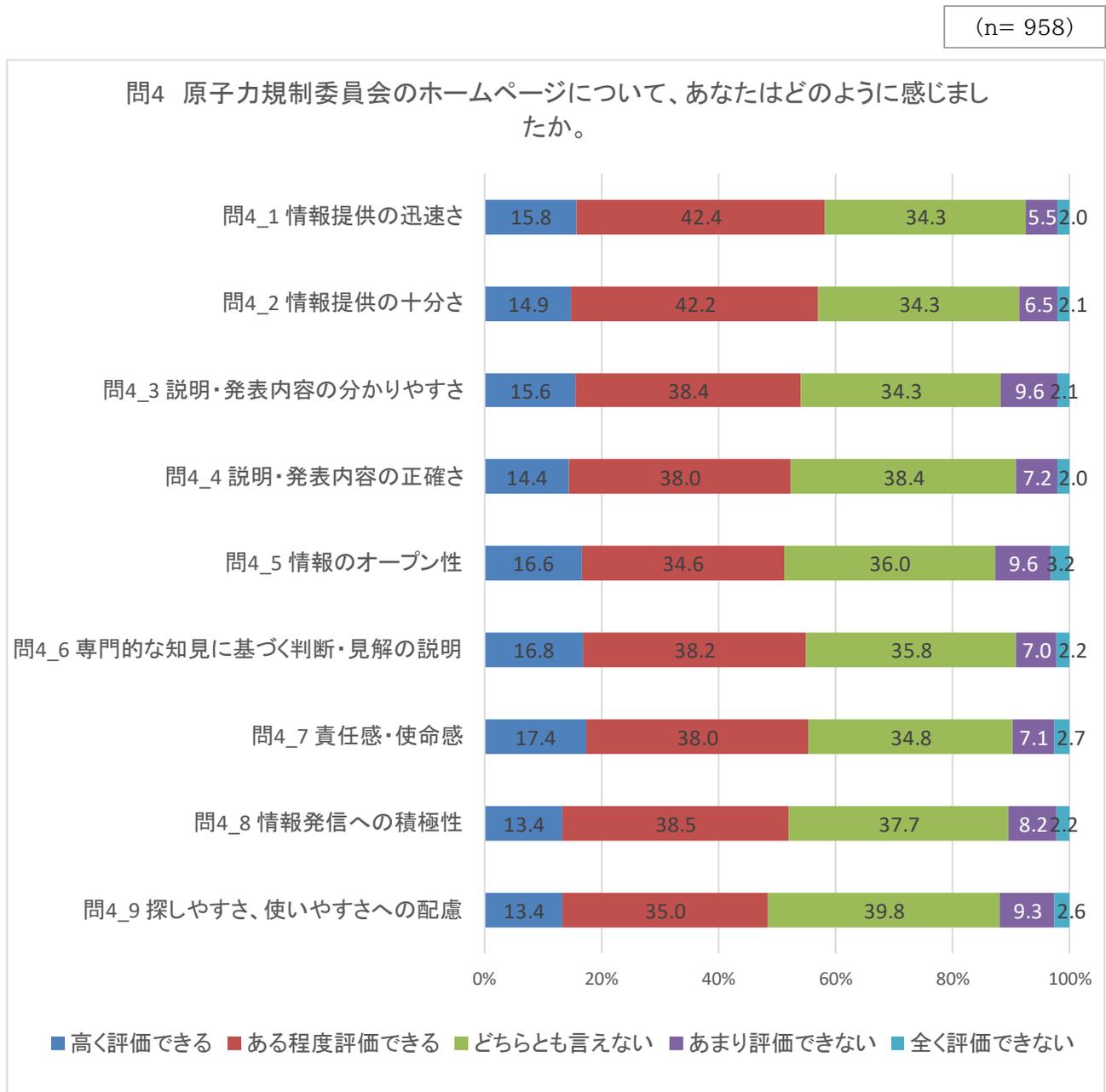


図 3-8 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」回答結果

図 3-9 問 5 に対する回答結果を示す。

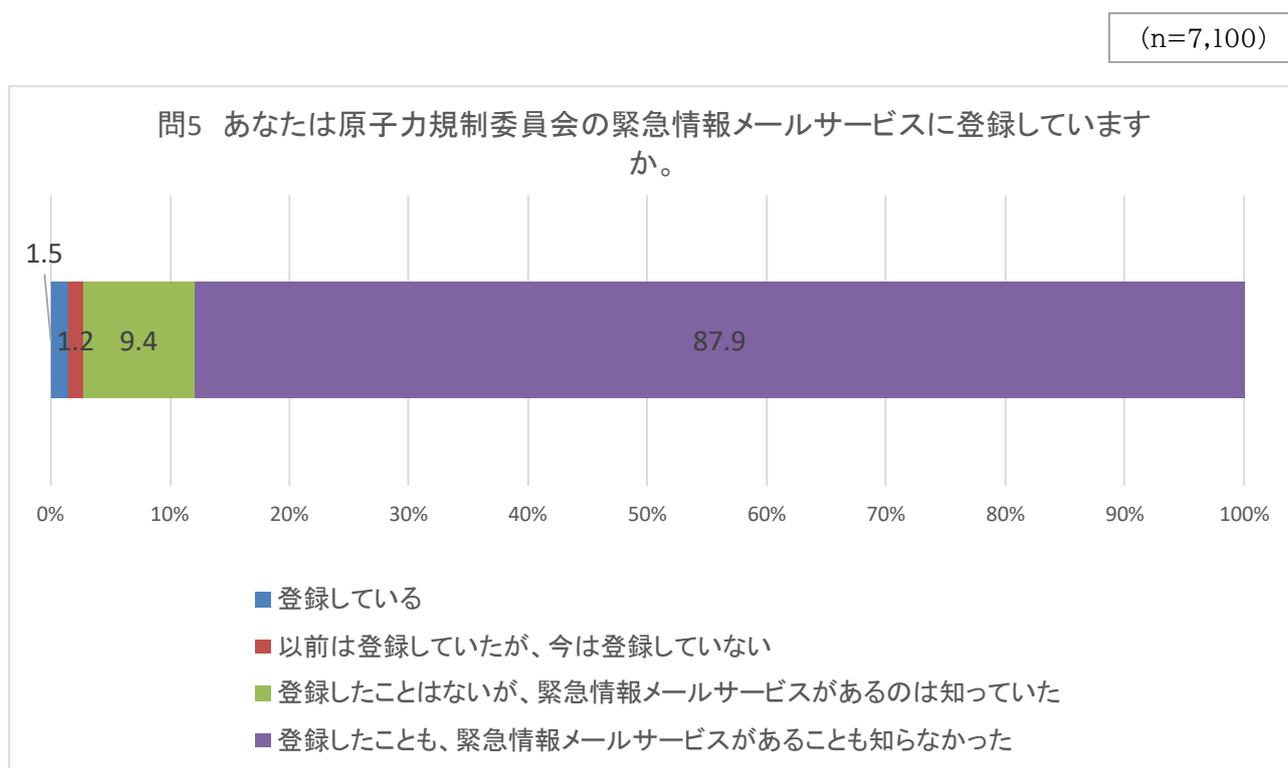


図 3-9 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」回答結果

図 3-10 問 6 に対する回答結果を示す。

ここでは、問 5 において、“登録したことはないが、緊急情報メールサービスがあるのは知っていた”、“登録したことも、緊急情報メールサービスがあることも知らなかった”を選択した回答者のみを対象としている。

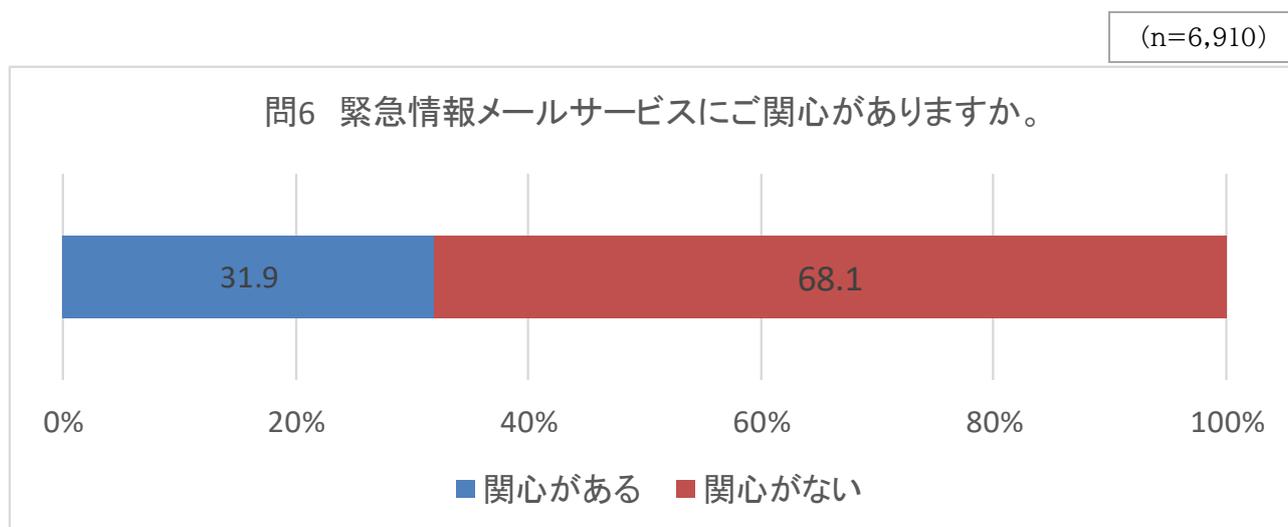


図 3-10 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」回答結果

図 3-11 に問 7 に対する回答結果を示す。

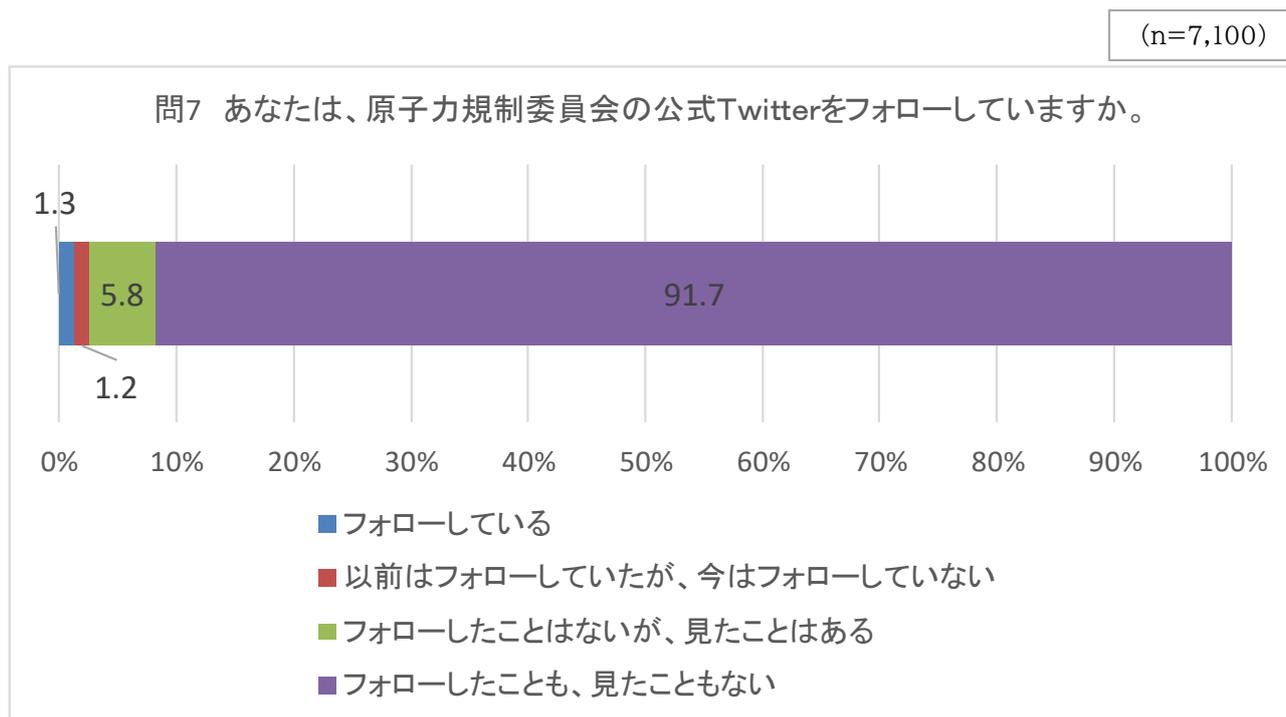


図 3-11 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」回答結果

図 3-12 に問 8 に対する回答結果を示す。

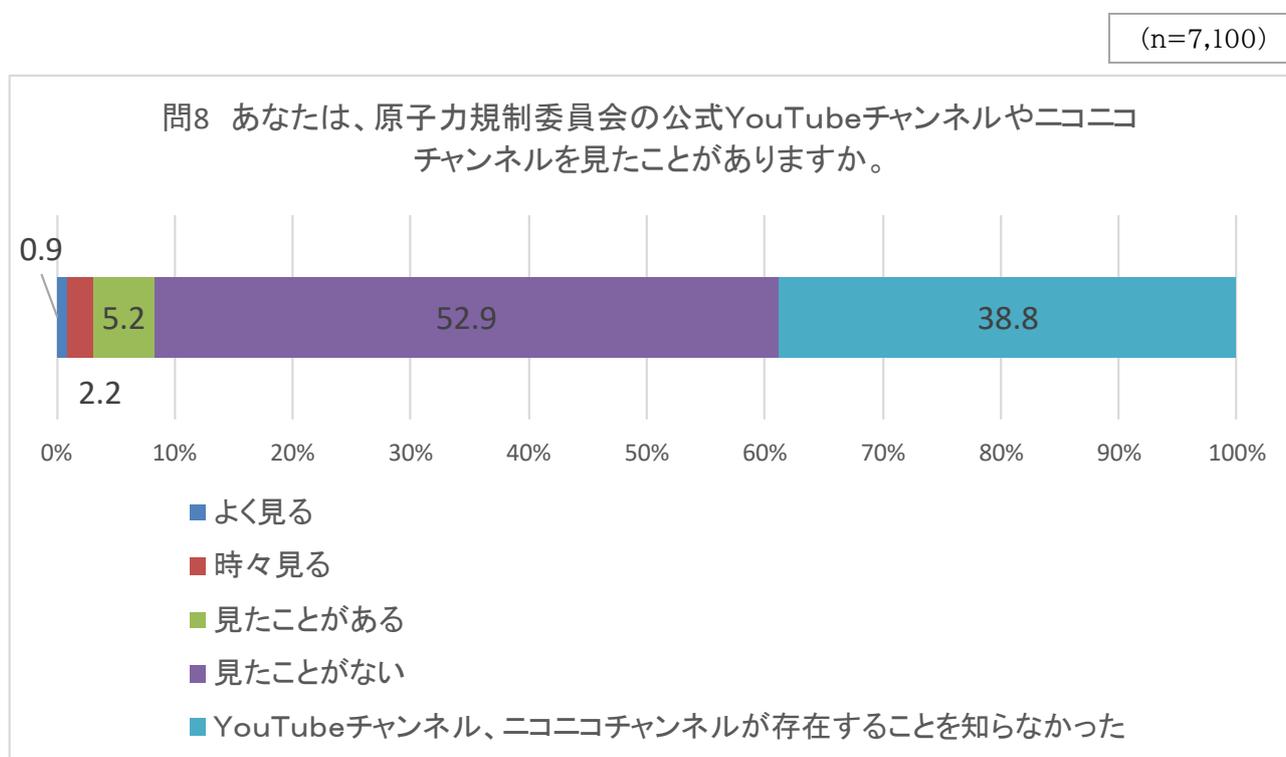


図 3-12 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」回答結果

図 3-13 に問 9 に対する回答結果を示す。

(n=7,100)

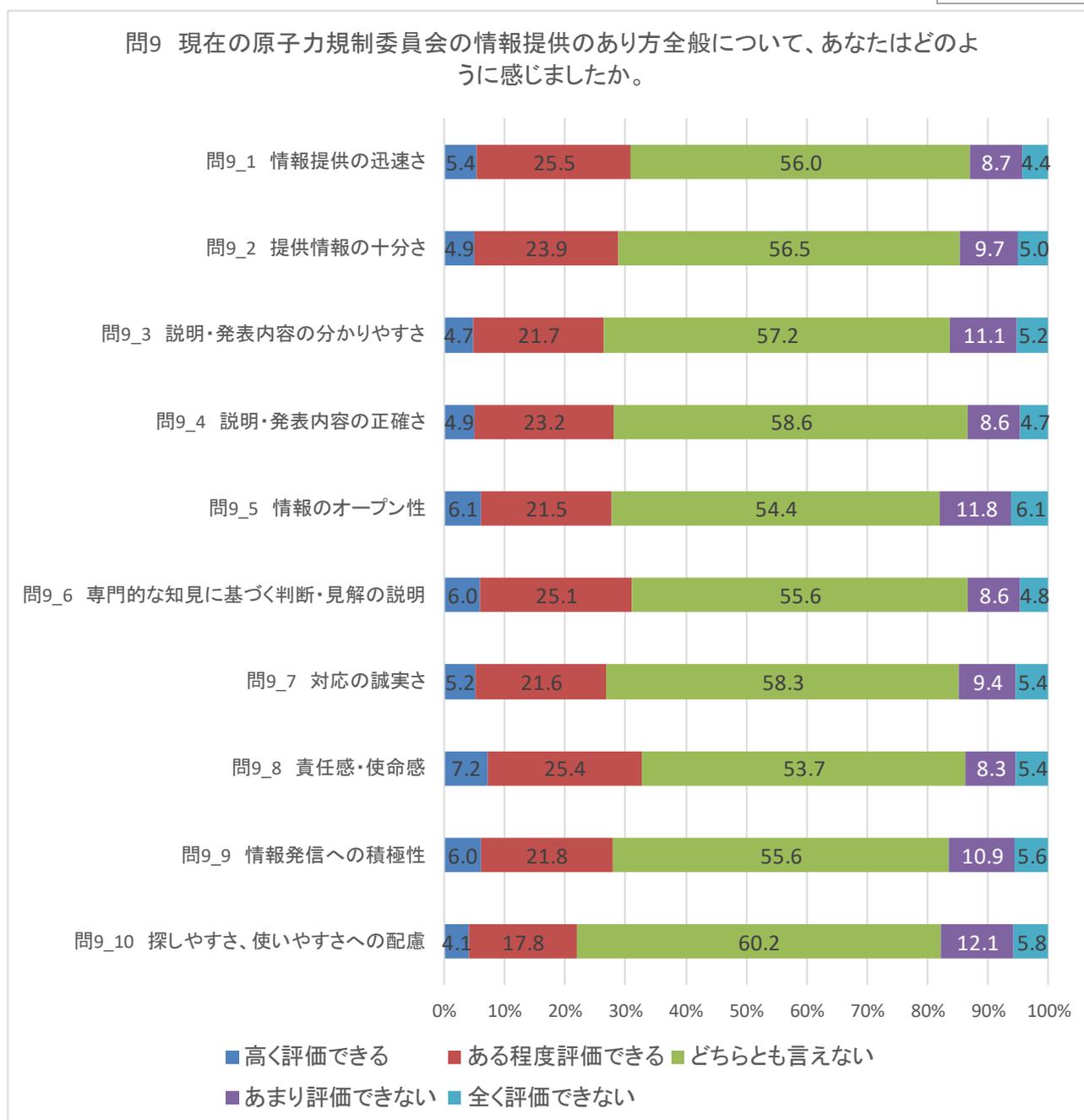


図 3-13 問 9「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。」回答結果

図 3-14 に問 10 に対する回答結果を示す。

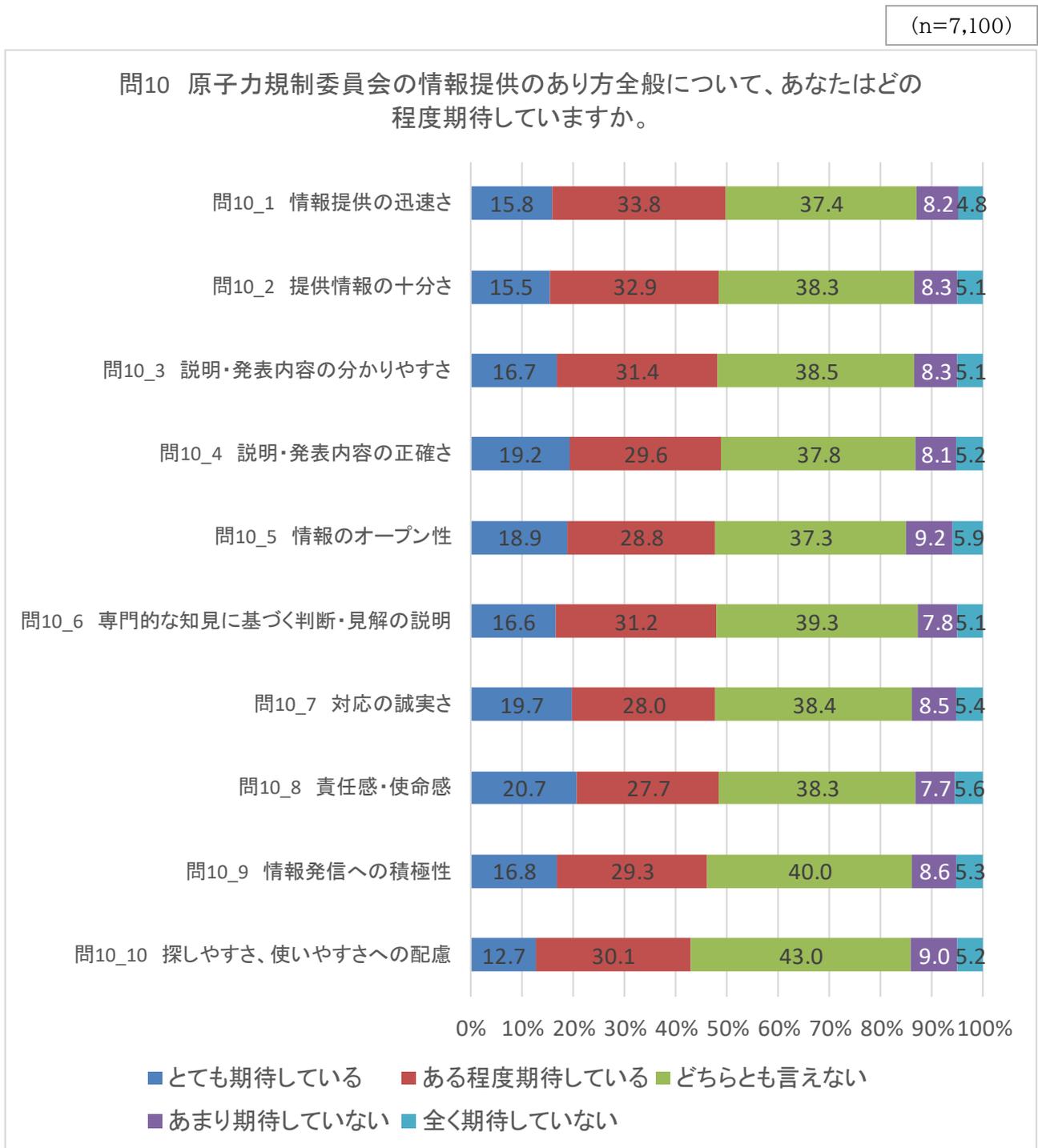


図 3-14 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。」回答結果

図 3-15 に問 11 に対する回答結果を示す。なお、“経済産業省・資源エネルギー庁”の選択肢は、平成 28 年度調査では“経済産業省”として設定されていたことに留意が必要である。

(n=7,100)

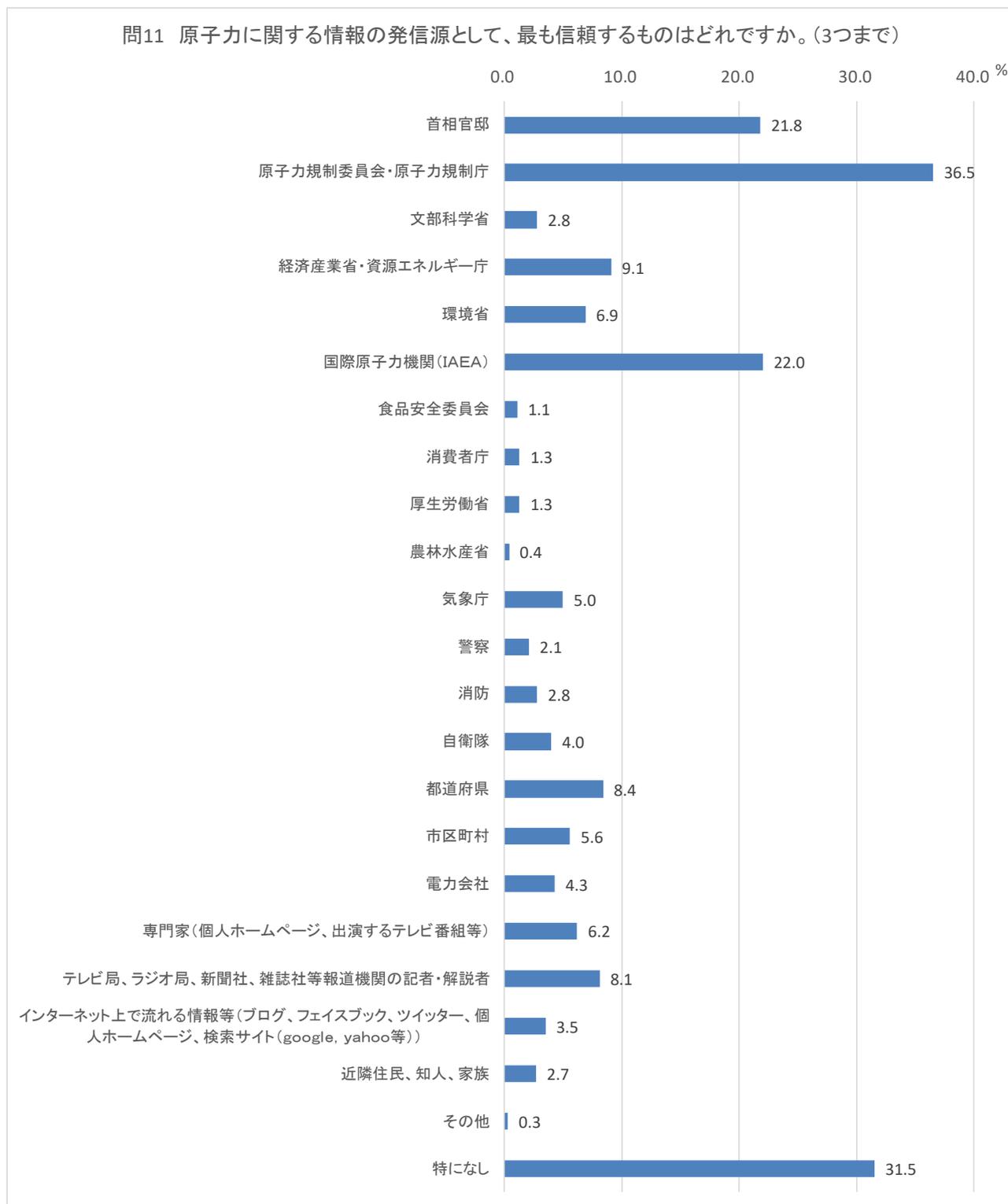


図 3-15 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」回答結果

図 3-16 に問 12 に対する回答結果を示す。

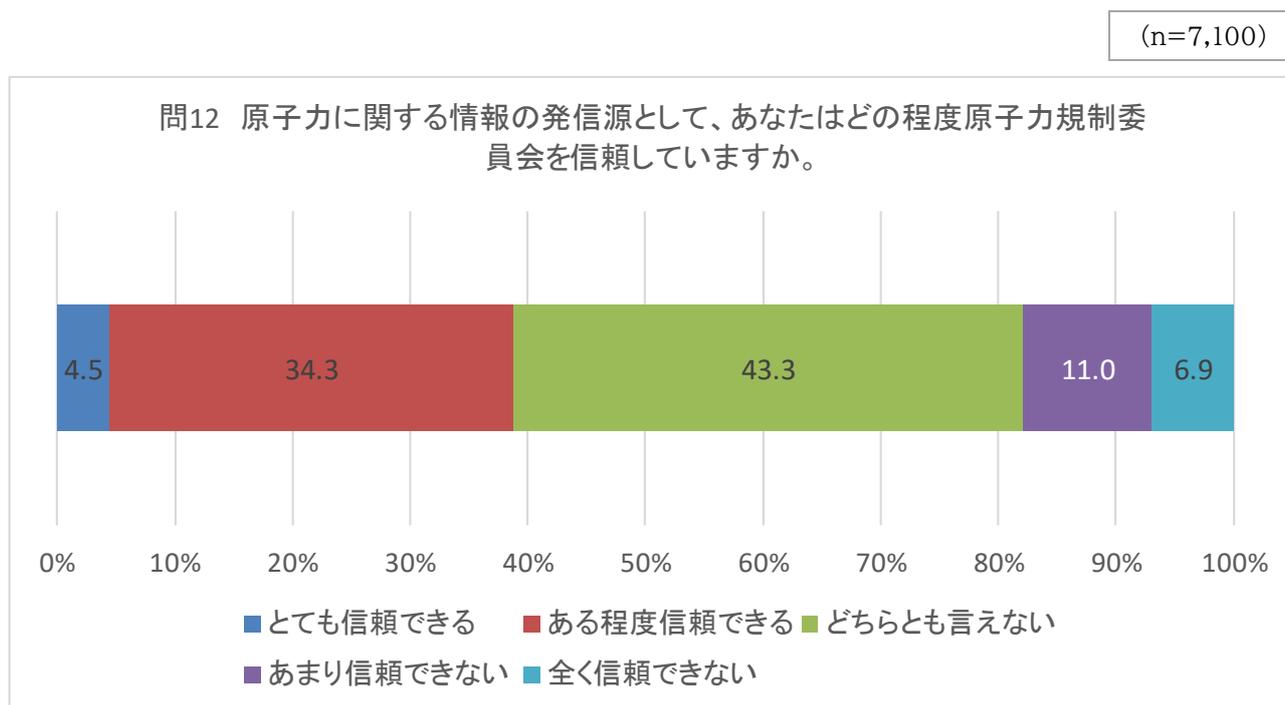


図 3-16 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」回答結果

問 13 として尋ねた問 12 の理由に関する自由記述の内容を表 3-3 に特徴的な用語とともに一部抜粋した。本結果については、第 5 章において詳細に分析する。

表 3-3 問 13「問 12 における回答の理由をご記載ください。」の自由記述内容整理

問 12 における回答 ※()内数値は、問 13 が空欄であった回答を除いた 6,372(n)の内訳	自由記述で用いられている特徴的な用語
とても信頼できる+ある程度信頼できる (2,488、39.0%)	独立、信頼、発信、正確、知識、専門家 など
どちらとも言えない (2,738、43.0%)	活動、内容、理解、分かる など
あまり信頼できない+全く信頼できない (1,146、18.0%)	福島、原発、事故、政府、隠蔽 など

図 3-17 に問 14 に対する回答結果を示す。

(n=7,100)

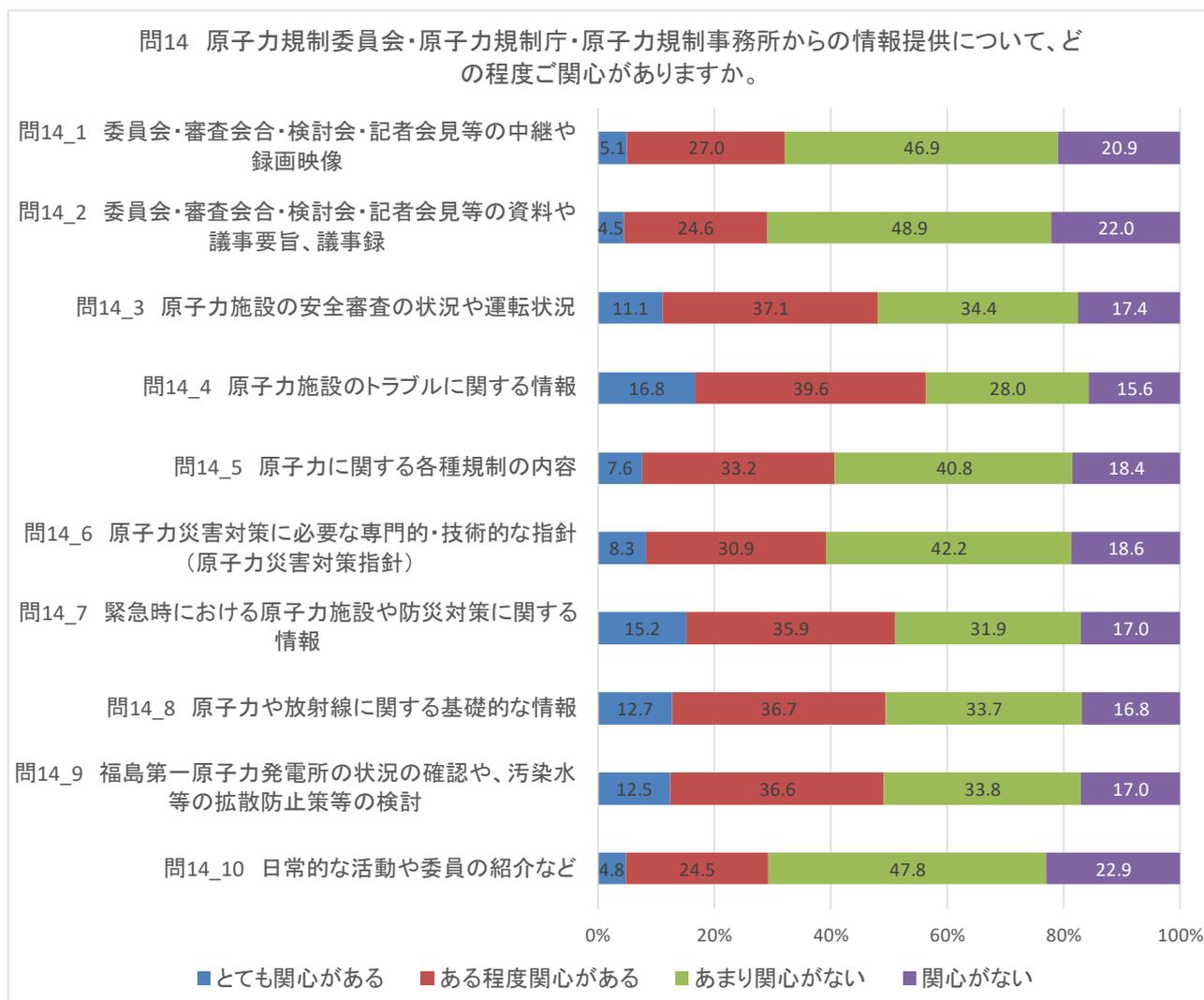


図 3-17 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。」回答結果

図 3-18 に問 15 に対する回答結果を示す。

問 15 は本年度に新設した設問で、以下を説明した上で情報公開の取組について質問している。

原子力規制委員会は、透明性を組織理念に掲げ、ホームページで公開している原子力規制行政に関する重要な情報について、数十年後でも検索及び閲覧を可能とするよう、公開情報管理システム (<https://www.da.nra.go.jp/>) を運用しています。

(n=7,100)

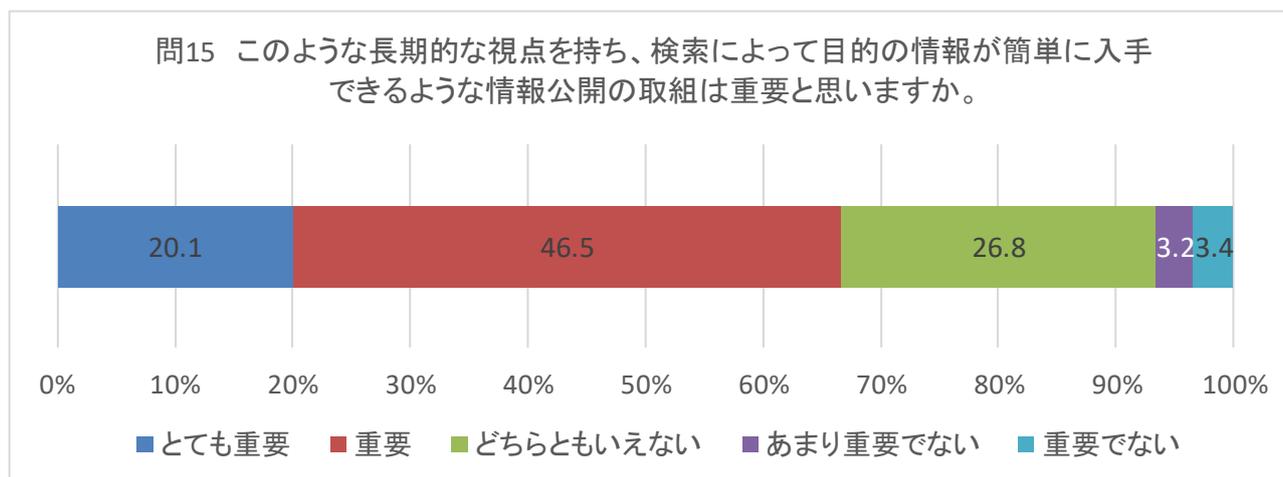


図 3-18 問 15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」回答結果

図 3-19 に問 16 に対する回答結果を示す。問 16 は本年度に新設した設問である。

(n=7,100)

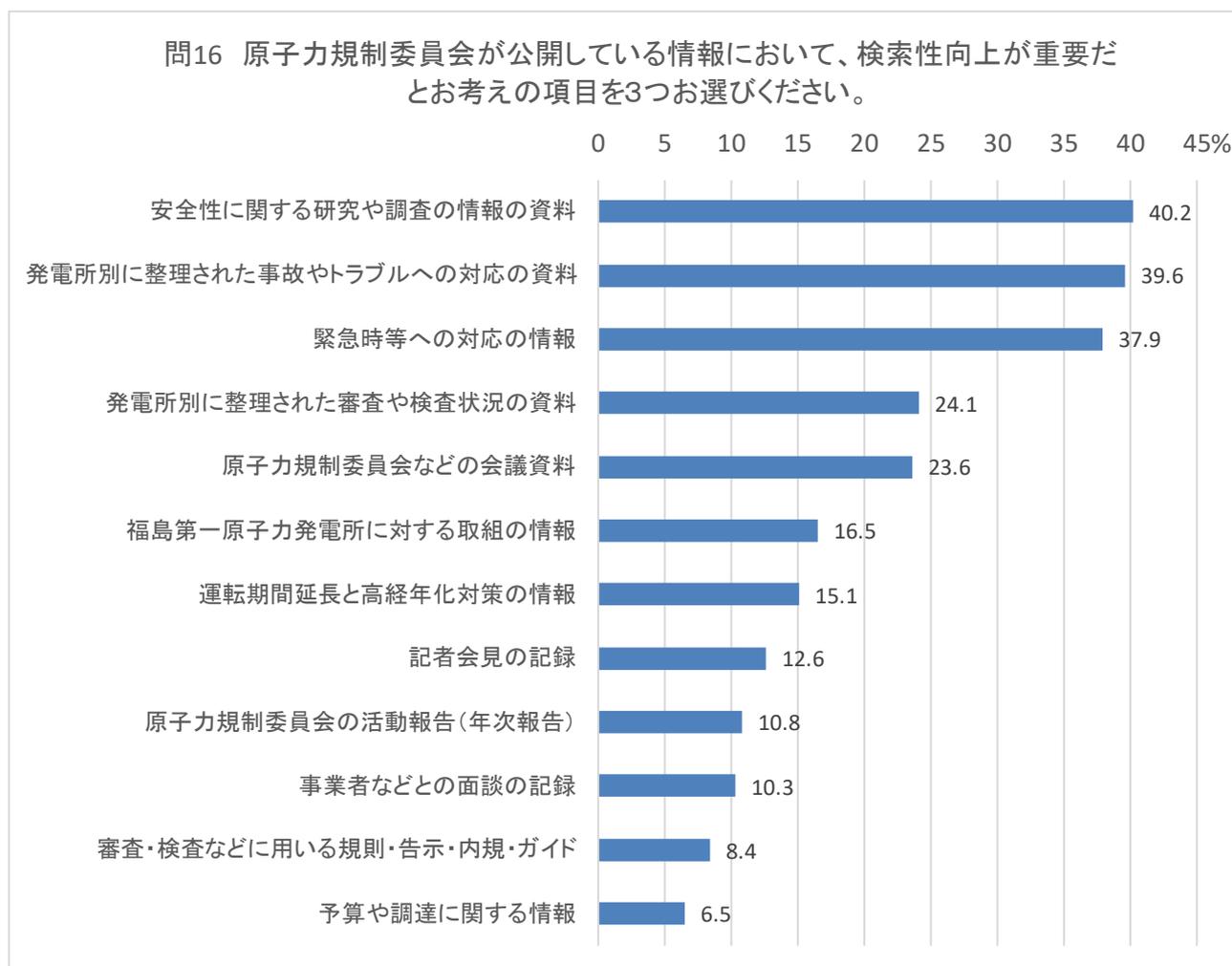


図 3-19 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。」回答結果

図 3-20 に問 17 に対する回答結果を示す。問 17 は本年度に新設した設問である。

(n=7,100)

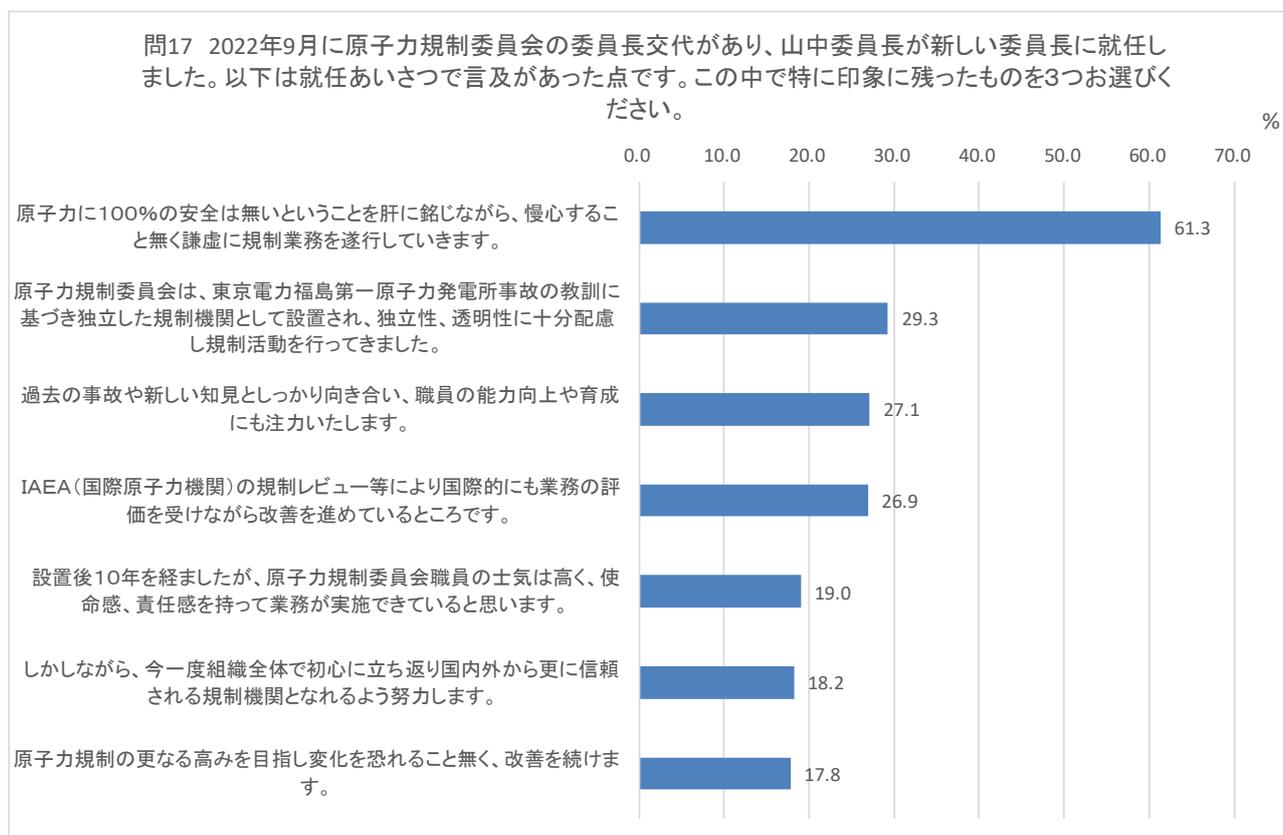


図 3-20 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」回答結果

図 3-21 に問 18 に対する回答結果を示す。

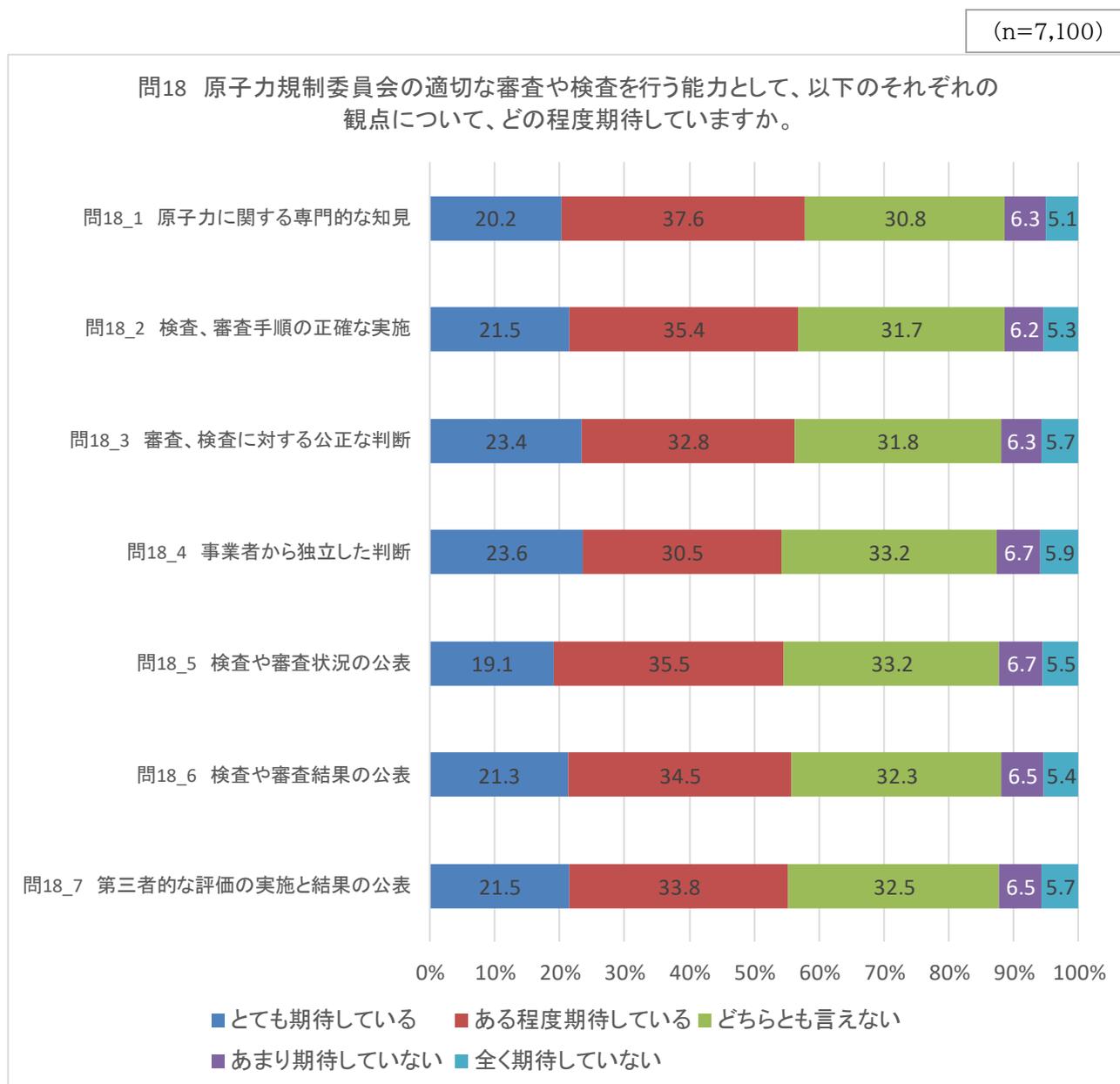


図 3-21 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」回答結果

図 3-22 に問 19 に対する回答結果を示す。

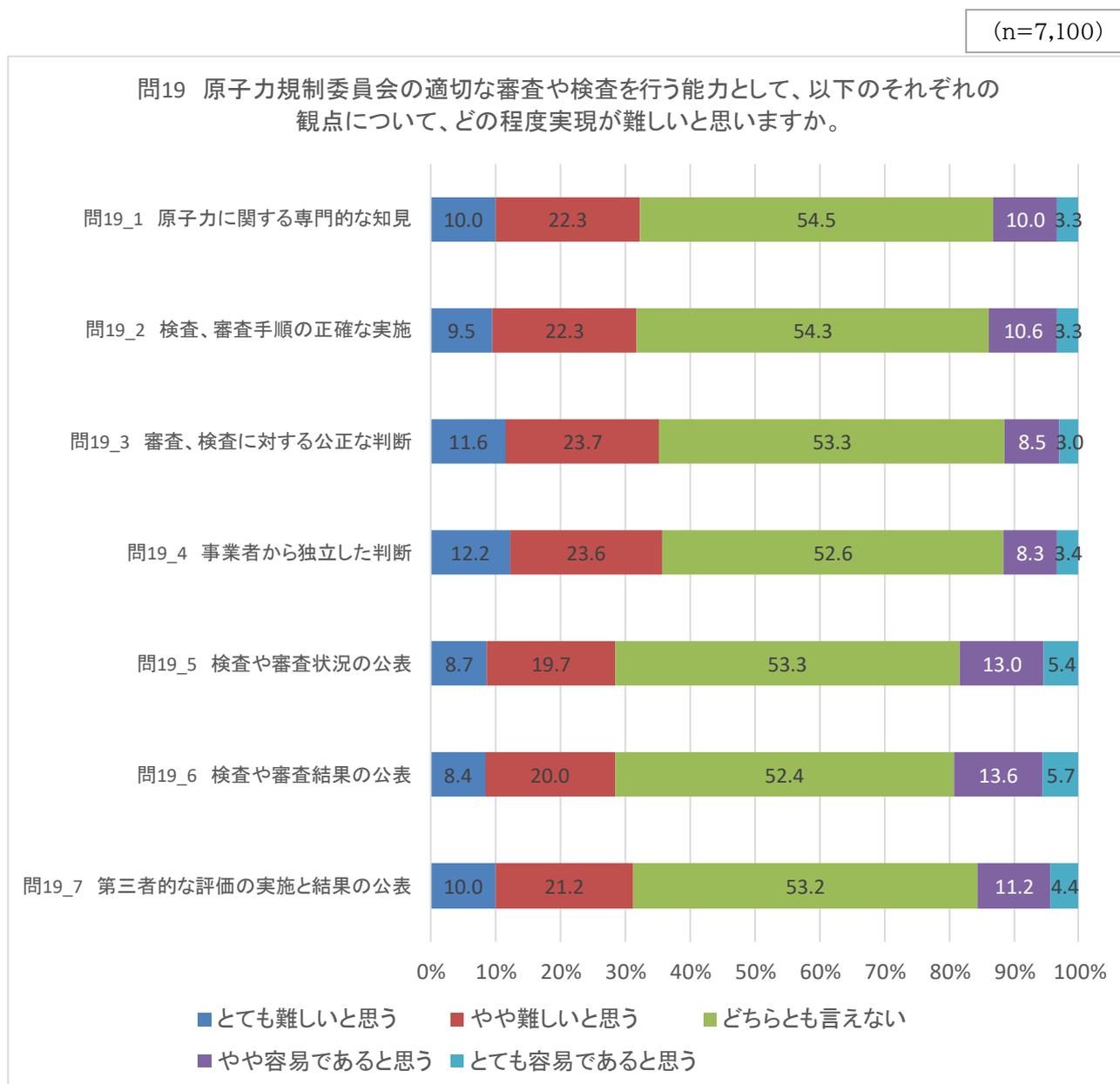


図 3-22 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現が難しいと思いますか。」回答結果

図 3-23 に問 20 に対する回答結果を示す。問 20 は本年度に新設した設問であり、以下を説明した上で質問をしている。

運転開始から 40 年を迎える原子力発電所については電気事業者が延長認可申請を原子力規制委員会に提出し、原子力規制委員会が 20 年後も新規制基準を満たすと認めれば最長 60 年まで運転できます。

今後、原子力規制委員会は原子力発電所の 60 年超の稼働も念頭に置いた審査方法の見直しを進める予定です。現行は運転開始後 40 年を迎えた時点で 1 回だけ審査を実施することになっていますが、今後は 30 年目から 10 年間隔で経年劣化や安全性を繰り返し厳しく確認する方針です。

(n=7,100)

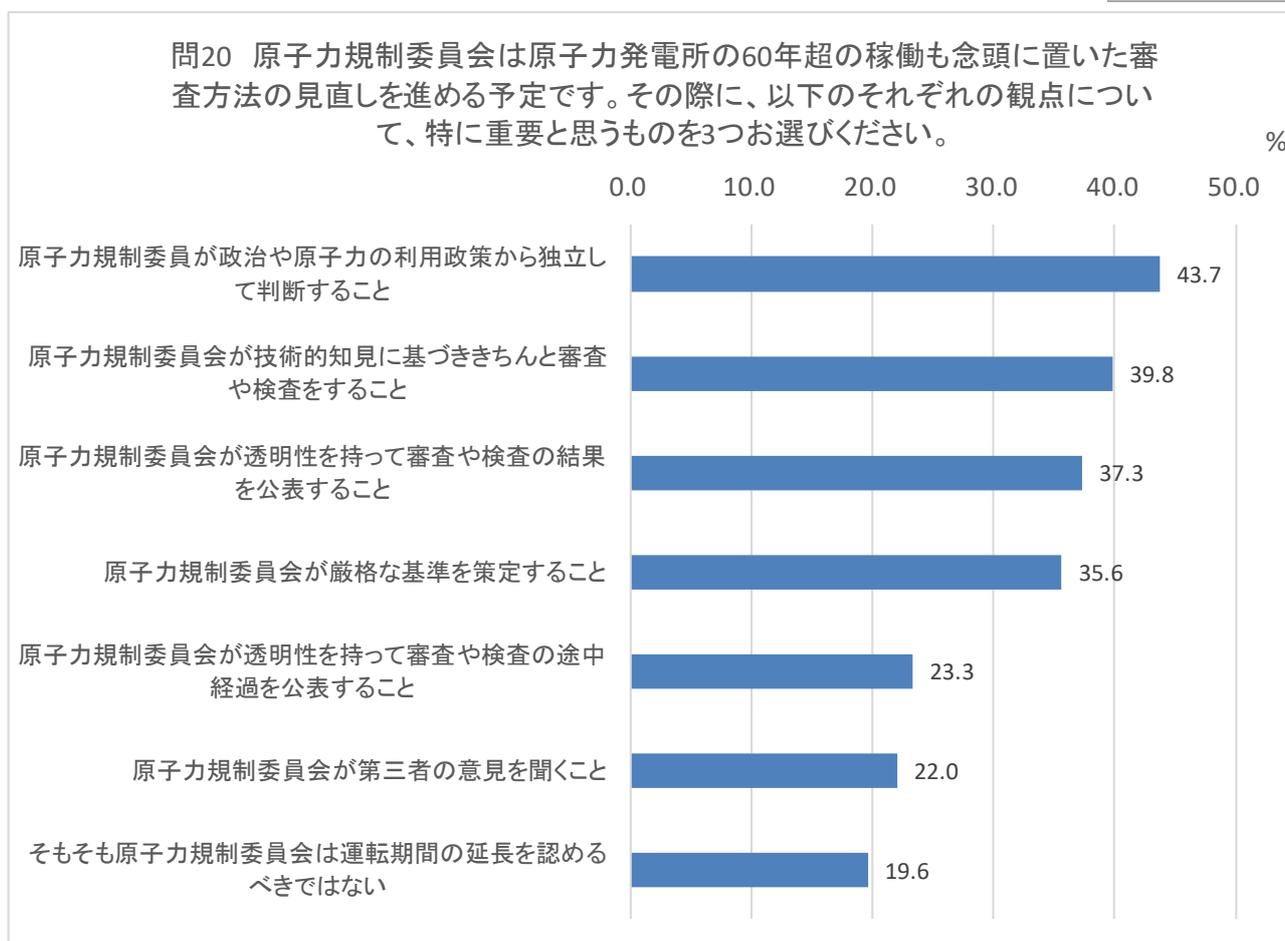


図 3-23 問 20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを3つお選びください。」回答結果

4. 原子力規制委員会の広報活動に関する現状分析及び評価

前章までの調査結果も踏まえ、原子力規制委員会が行っている広報活動の手段、方法、効果について分析、評価を実施した。

広報活動の手段として、ホームページ、動画、緊急情報メールサービス、Twitter を分析・評価の対象とした。

4.1 ホームページの分析・評価

4.1.1 ホームページの概要

原子力規制委員会では、ホームページを活用し、記者会見等の動画や発表資料等を迅速に公開するとともに、これらを多数格納している。

4.1.2 評価の視点

従来調査を踏まえ、以下の視点で分析・評価を行った。

- 認知度・接触度
- 迅速性
- 情報の充実性・有用性
- ツールとしての利便性

4.1.3 分析・評価

分析・評価の結果を以下に示す。

(1) 認知度・接触度

第 3 章で実施した Web アンケート調査の問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ (<http://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。」に対する全国の回答結果の経年変化を図 4-1 に示す。

平成 28 年度から 8 割以上の回答者が原子力規制委員会のホームページを“見たことがない”と回答しており、今年度調査において“見たことがある”の回答がやや増えたものの、大きな変化は見られなかった。一般の方の原子力規制委員会ホームページの認知度・接触度は低い状況であると言える。

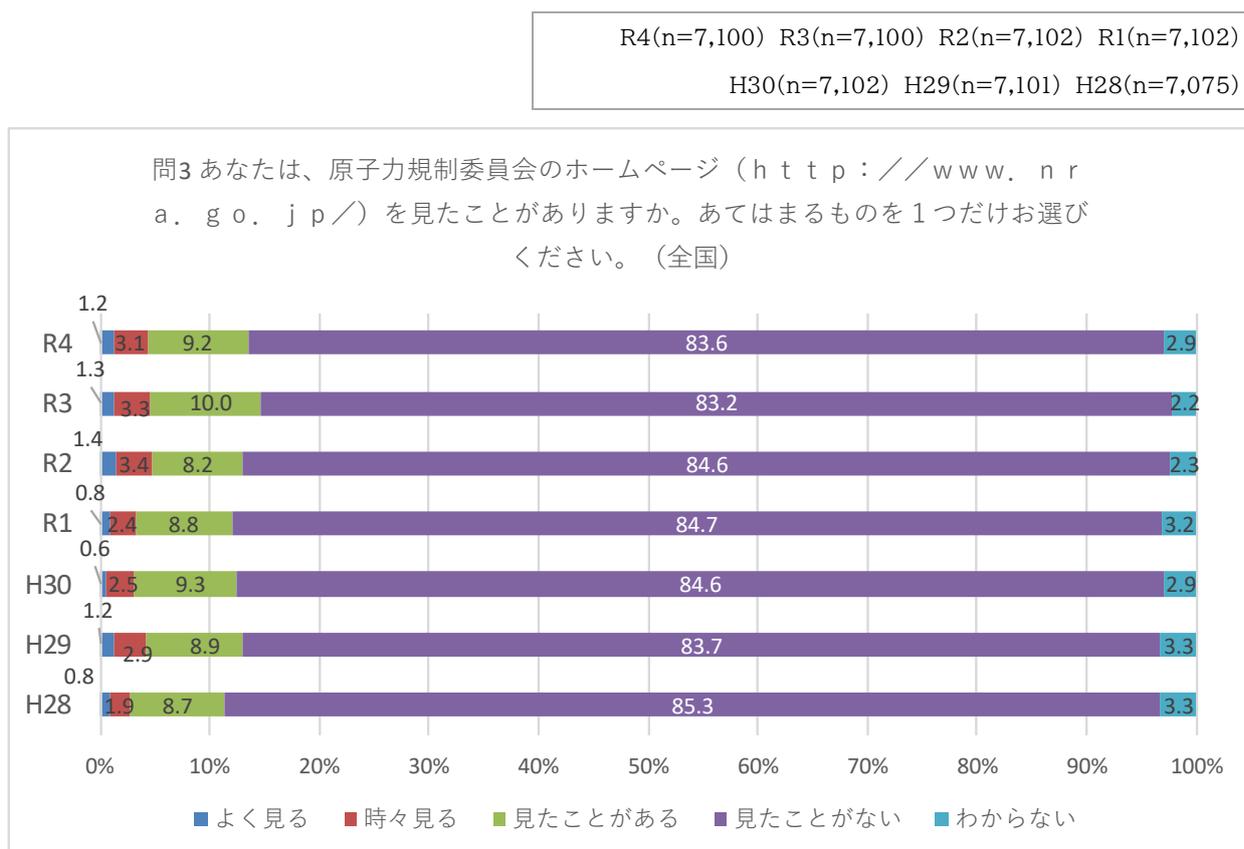


図 4-1 問3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(<http://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。」経年別の回答結果(付録 B 図 2-3 再掲)

(2) 迅速性

第 3 章で実施した Web アンケート調査の問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」のうち、「情報提供の迅速さ」に対する全国の回答結果の経年変化を図 4-2 に示す。

評価できる(“高く評価できる”、“ある程度評価できる”の合計)の割合は、例年半数程度であるが、今年度調査では“高く評価できる”、“ある程度評価できる”双方の割合が令和 3 年度調査に引き続き増加した。評価できない(“全く評価できない”、“あまり評価できない”の合計)の割合は、今年度調査で 1 割を切り、過去の調査と比較して最も低くなった。

R4(n= 958) R3(n= 1,040) R2(n= 926) R1(n= 854)

H30(n= 882) H29(n= 921) H28(n= 806)

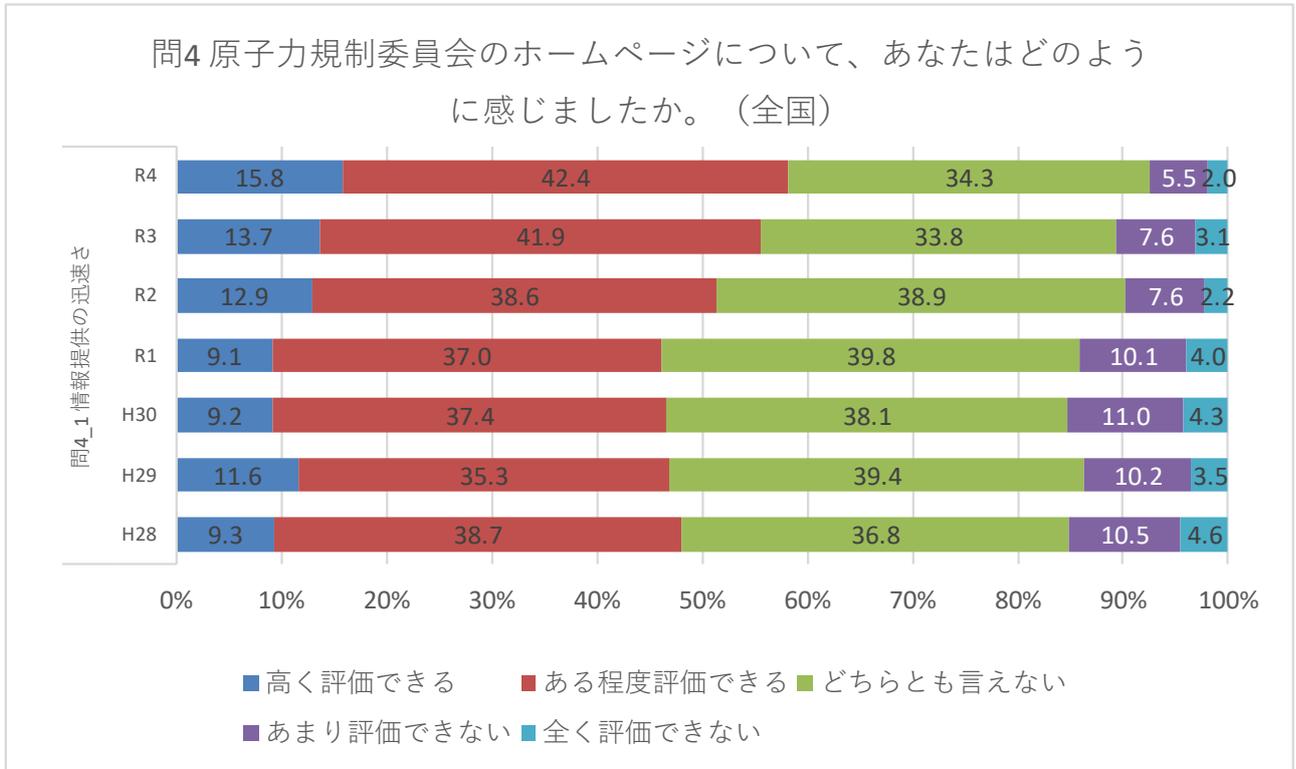


図 4-2 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。(全国)」のうち「迅速さ」回答結果

(3) 情報の充実性・有用性

第3章で実施した Web アンケート調査の問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」のうち、「提供情報の十分さ」に対する全国の回答結果の経年変化を図 4-3 に示す。

「提供情報の十分さ」についても、評価できるとの回答（“高く評価できる”、“ある程度評価できる”の合計）が令和 3 年度調査からさらに増加しており、平成 28 年度以降最も高い。

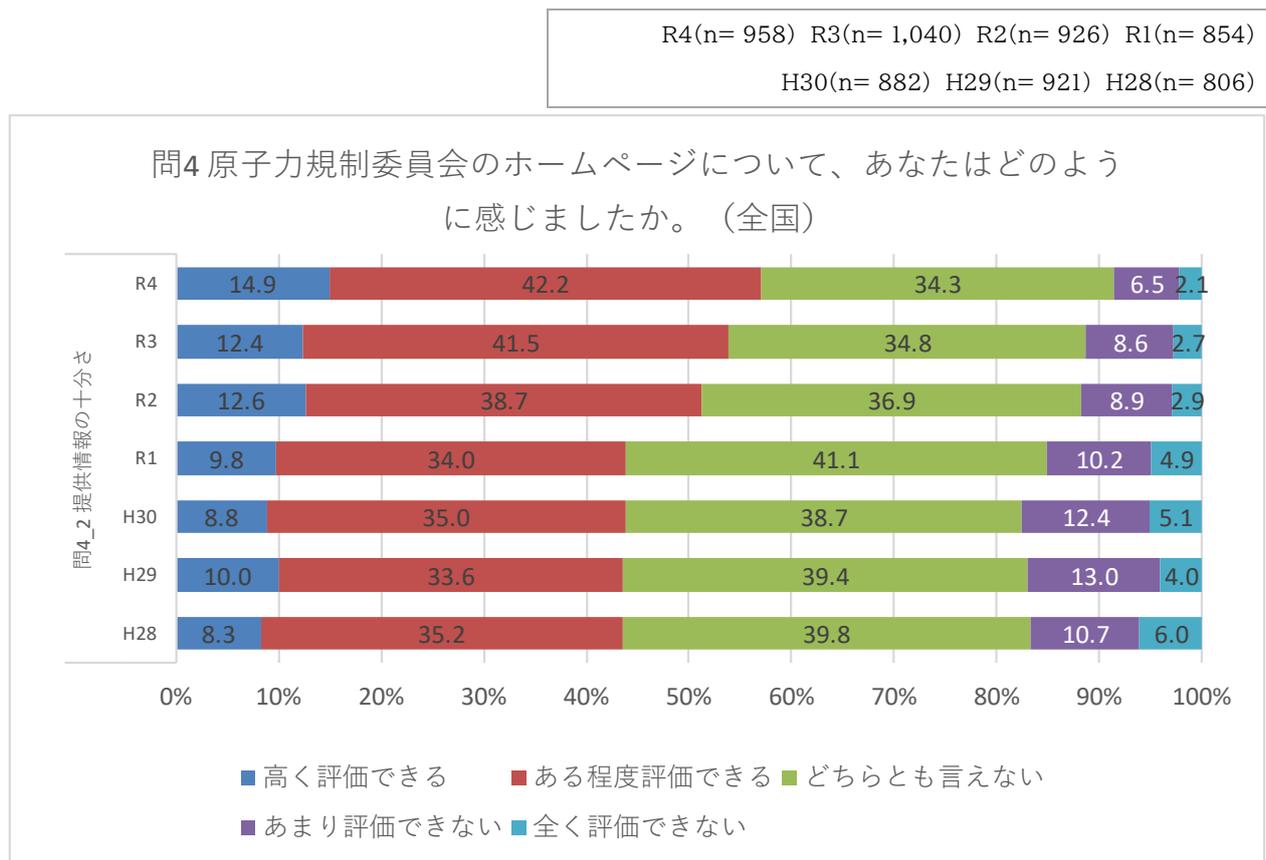


図 4-3 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。（全国）」のうち「提供情報の十分さ」回答結果

(4) ツールとしての利便性

第3章で実施した Web アンケート調査の問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどう感じましたか。」のうち、「探しやすさ、使いやすさへの配慮」に対する全国の回答結果の経年変化を図 4-4 に示す。

「探しやすさ、使いやすさへの配慮」についても、評価できるとの回答(“高く評価できる”、“ある程度評価できる”の合計)は、平成 28 年度以降最も高い割合であり、令和 2 年度調査より増加傾向が続いている。

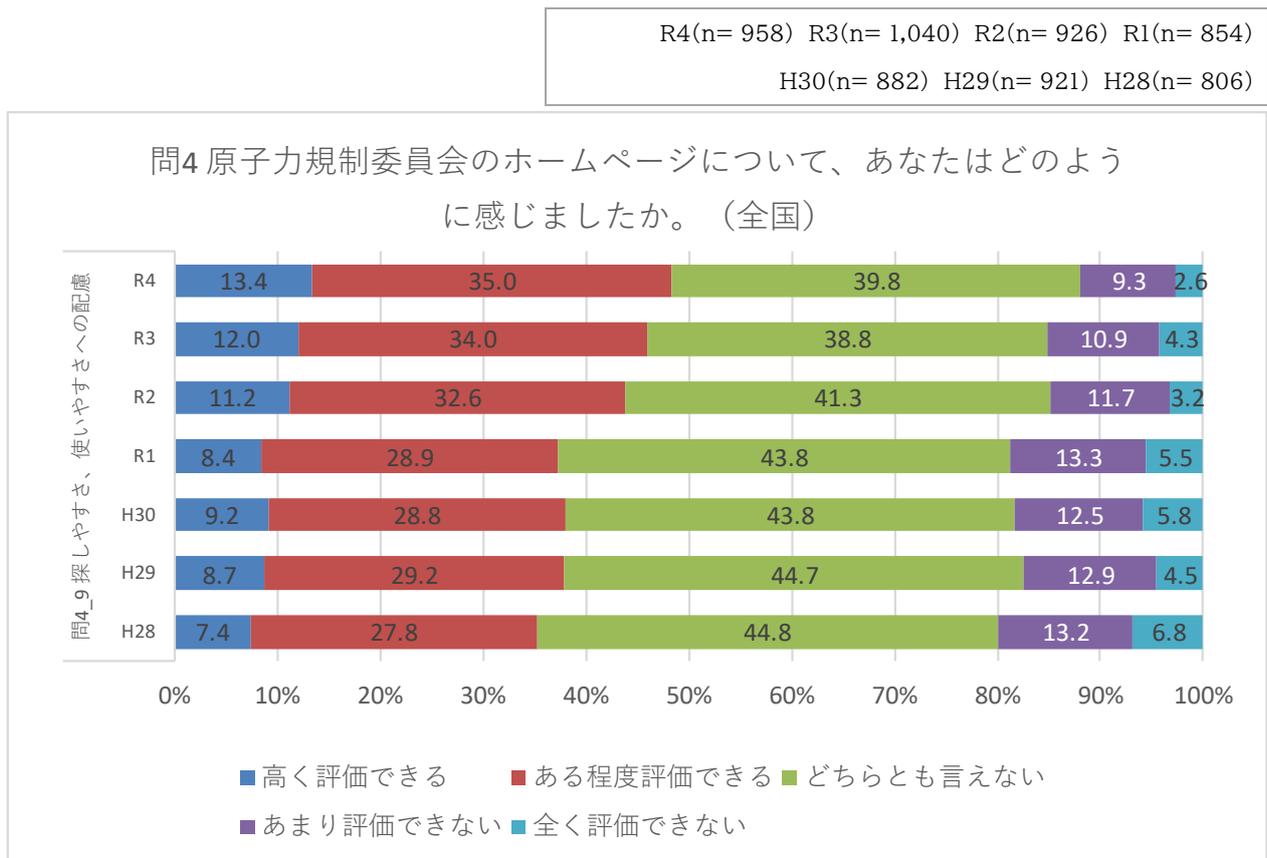


図 4-4 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。(全国)」のうち「探しやすさ、使いやすさへの配慮」回答結果

(5) 総括

認知度・接触度については、Web アンケート調査の結果では“見たことがある”との回答が例年と変わらず 8 割以上の回答者が“見たことがない”と回答していた。一方で、迅速性、情報の充実性・有用性、ツールとしての利便性のいずれについても、Web アンケート調査の結果、令和 3 年度調査から引き続き評価できるとの回答割合が増加しており、平成 28 年度以降最も高くなっていた。

4.2 動画の分析・評価

4.2.1 動画の概要

各種会議及び記者会見の動画は、YouTube、ニコニコチャンネルでの中継に加え、終了後も迅速かつ継続的に公開がされている。また、「事故後 10 年を振り返る」、「福島第一原発事故分析」に関する動画が再生リスト化されて公開されている。

4.2.2 評価の視点

従来調査を踏まえ、以下の視点で分析・評価を行った。

- 認知度
- 関心度
- 動画公開頻度

4.2.3 分析・評価

分析・評価の結果を以下に示す。

(1) 認知度

第3章で実施した Web アンケート調査の間 8「あなたは、原子力規制委員会の公式 YouTube チャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」に対する全国の回答結果の経年変化を図 4-5 に示す。

令和 3 年度調査から大きな変化は見られず、“よく見る”、“時々見る”、“見たことがある”の回答割合の合計は 1 割以下であり、実際の視聴経験は低い状況にある。“YouTube チャンネル、ニコニコチャンネルが存在することを知らなかった”との回答は 38.8%と令和 3 年度調査からの変化は小さいが、6 割以上の回答者が原子力規制委員会のチャンネルの存在を認知している。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102)

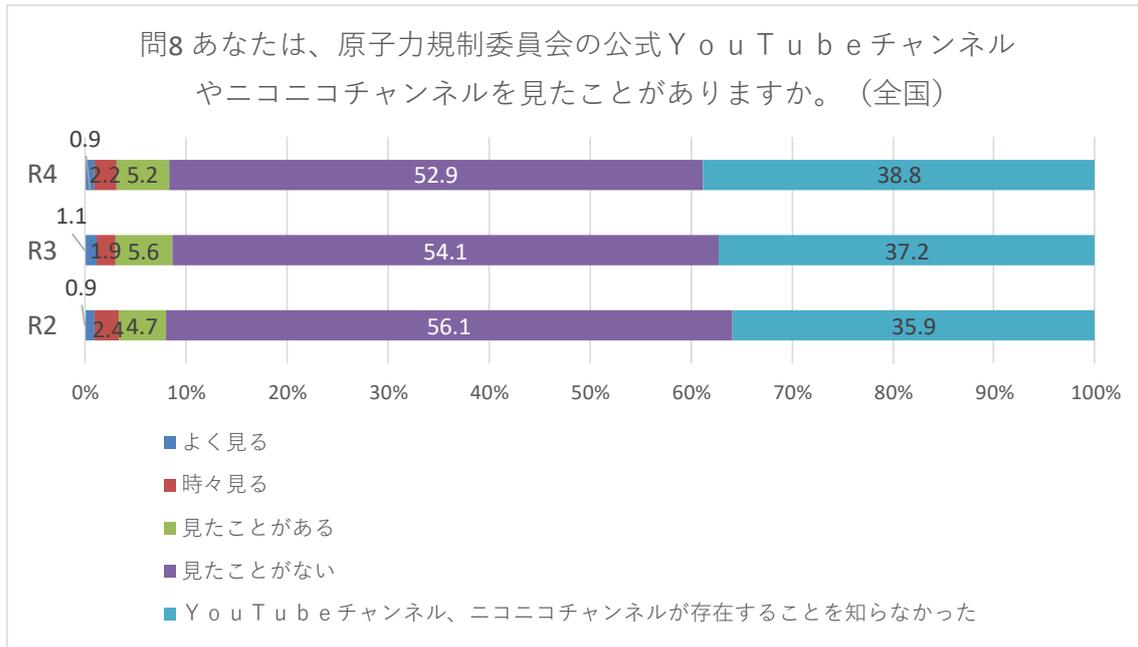


図 4-5 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」経年別の回答結果(付録 B 図 2-8 再掲)

(2) 関心度

原子力規制委員会の YouTube チャンネル¹²に登録されているうち動画のうち、令和 4 年度にアップロードされたものについて、関心度を分析した。

令和 4 年 4 月から令和 5 年 1 月中旬までにアップロードされた動画は 353 本であり、その時点で再生回数の多かった 5 つを表 4-1 に示す。最も再生された動画は「第 1057 回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合(2022 年 07 月 01 日)」であり、再生回数は 2,500 回以上であった。この他、「山中伸介委員長および杉山智之委員就任会見(2022 年 09 月 26 日)」の動画が、4 番目に再生回数が多く、委員長等の交代という一つの節目を示す情報発信(動画投稿)は、多くの人に関心を持たれやすい内容であったと考えられる。

また、令和 4 年度に公開された動画の再生回数を集計し、分布を図 4-6 に示した。353 本の動画のうち、100 回から 2,000 回の再生回数の動画は 344 本と大多数を占め、2,000 回以上再生された動画は 5 本であった。なお、令和 3 年度と比較して、全体としての公開数や再生回数ごとの動画数の傾向に大きな変化はないが、100-500 回再生された動画数については令和 2 年度から減少傾向にあることが分かる。

¹² 原子力規制委員会 YouTube チャンネル、<https://www.youtube.com/user/NRAJapan>

表 4-1 令和 4 年度アップロード動画再生数上位 5 つ(令和 5 年 1 月 28 日時点)¹³

タイトル(会議の主な議事内容)	公開日	動画時間	再生回数
第 1057 回原子力発電所の新規規制基準適合性に係る審査会合(2022 年 07 月 01 日)	2022/7/1	5:01:04	2,528
第 23 回原子力規制委員会(2022 年 07 月 13 日)	2022/7/13	1:54:05	2,272
第 10 回原子力規制委員会(2022 年 05 月 18 日)	2022/5/18	2:29:45	2,089
山中伸介委員長および杉山智之委員就任会見(2022 年 09 月 26 日)	2022/9/26	1:29:10	2,063
第 1067 回原子力発電所の新規規制基準適合性に係る審査会合(2022 年 09 月 01 日)	2022/9/1	3:29:00	2,029

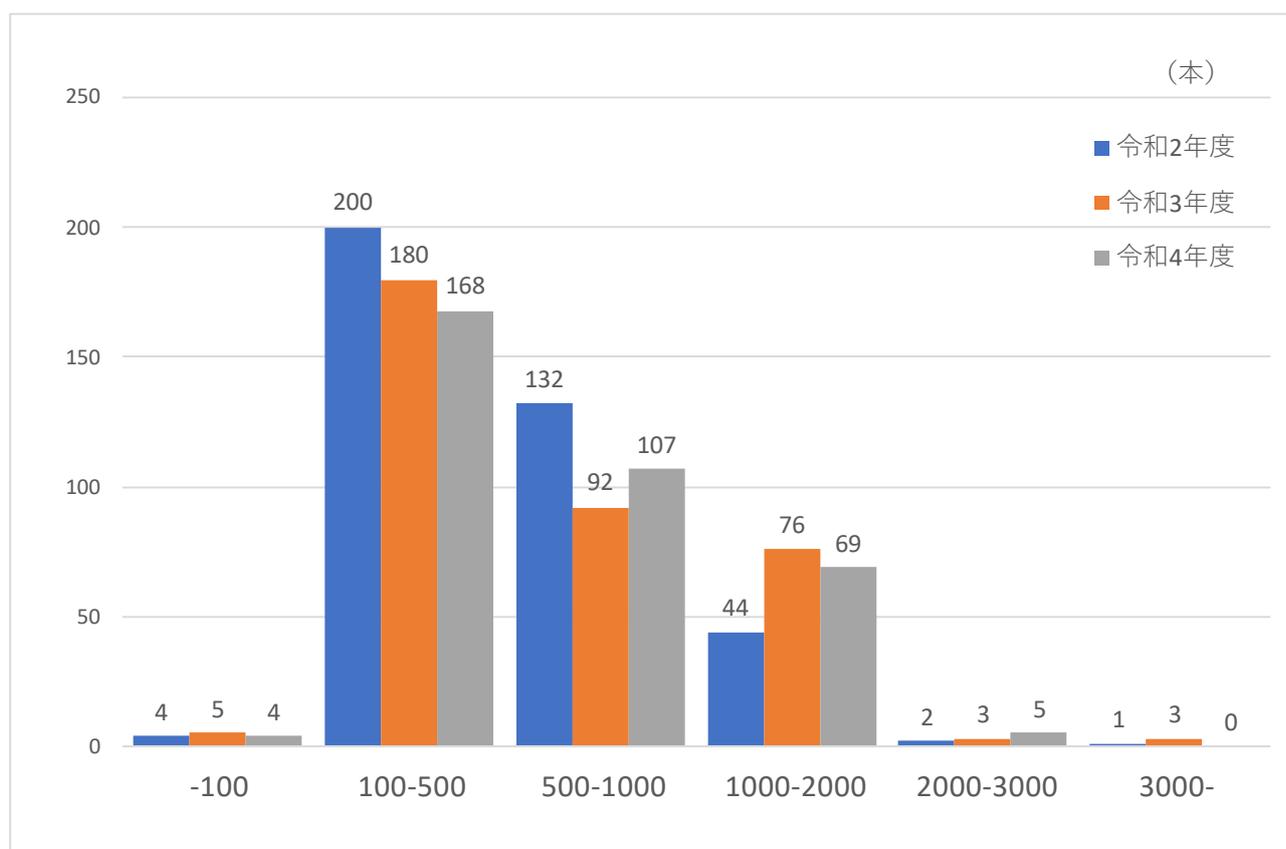


図 4-6 令和 2 年度から令和 4 年度に公開された動画の再生回数分布¹³

(3) 動画公開頻度

令和 4 年度は、令和 5 年 1 月中旬までの約 10 カ月間に 353 本の動画が公開されており、平均すると毎日一本以上の動画が公開されていることになる。同期間で令和 2 年度は 383 本、令和 3 年度は 359 本の動画が公開されており、令和 2 年度から変わらず、頻度が高く透明性の高い発信が行われていると言えるのではないかと。

¹³ 出所)原子力規制庁 Youtube チャンネルの情報より作成、<https://www.youtube.com/user/NRAJapan>、2023 年 1 月 28 日取得

(4) 総括

令和 4 年度においても、多数の動画が配信されており、動画によって頻度が高く透明性の高い発信がされていると言える。また、「山中伸介委員長および杉山智之委員就任会見(2022年09月26日)」動画は、他の動画に対して比較的再生回数も多かった。こうした、原子力規制委員会等の節目に係る情報の発信は、多くの人に関心を持たれやすい内容であったと考えられる。今後も、会議等の記録映像に加え、関心に応じた様々な動画の活用が期待される。

4.3 緊急情報メールサービスの分析・評価

4.3.1 緊急情報メールサービスの概要

緊急情報メールサービスとは、大規模災害等が発生した際に、原子力規制委員会から登録者へメールで情報を配信するものである。原子力施設に影響がある可能性の高い大規模災害等が発生した際の「緊急情報メール」、そこまでには至らない事象ではあるものの、参考として原子力施設の状況等に関する情報を提供する「情報提供メール」の 2 種類がある。なお、登録者は情報提供メールの受け取り有無を選択することができる。

送信された過去の情報は、原子力規制委員会ホームページの「緊急時情報ホームページ¹⁴」において新着順に閲覧することが可能である。

緊急情報メールサービスで配信される「緊急情報メール」及び「情報提供メール」の配信条件は以下のとおりである。

- 緊急情報メールの配信条件

以下の事象が発生した場合

- 原子力施設 所在市町村 震度 5 弱以上の地震の発生
- 原子力施設 所在市町村で大津波警報が発令された場合
- その他、原子力規制庁が警戒を必要と認めた場合(原子力施設の故障等)

- 情報提供メールの配信条件

以下の事象が発生し、緊急情報メールが配信されない場合

- 原子力施設 所在都道府県 震度 5 弱以上の地震の発生
- 原子力施設 所在市町村 震度 4 の地震の発生
- 国内において震度 6 弱以上の地震の発生
- 東京 23 区内で震度 5 弱以上の地震の発生
- 気象庁による大津波警報の発表

¹⁴ 出所)原子力規制委員会「緊急時情報ホームページ」、<http://kinkyu.nra.go.jp/kinkyu/index.html>、

- その他、内閣危機管理官による参集事例(例:火山噴火)

令和3年度における令和4年1月中旬までの「緊急情報メール」、「情報提供メール」の配信状況を表4-2、表4-3に示す。

表 4-2 令和4年度における緊急情報メール配信状況¹⁵

発信日時	タイトル
2022/11/05 13:03	【訓練】原子力総合防災訓練に関する緊急情報メール配信(訓練)終了のお知らせ
2022/11/05 11:51	【訓練】緊急情報 原子力緊急事態宣言の発出
2022/11/04 18:33	【訓練】(本日終了)原子力総合防災訓練に関する緊急情報メール配信(訓練)のお知らせ
2022/11/04 16:23	【訓練】緊急情報 (第1報)福井県嶺南で発生した地震の影響
2022/11/02 18:15	【訓練】令和4年度原子力総合防災訓練に関する緊急情報メール配信(訓練)のお知らせ
2022/10/21 15:43	緊急情報 異常なし(第1報)福島県沖で発生した地震の影響

表 4-3 令和4年度における情報提供メールの配信状況¹⁵

発信日時	タイトル
2023/01/30 16:50	情報提供 (第1報)関西電力高浜発電所4号機の自動停止について
2023/01/25 10:20	情報提供 異常なし(第1報)福島県沖で発生した地震の影響
2022/11/14 17:30	情報提供 異常なし(第1報)三重県南東沖で発生した地震の影響
2022/11/09 18:13	情報提供 異常なし(第1報)茨城県南部で発生した地震の影響
2022/11/03 08:36	情報提供 宇宙飛翔体事案に関する原子力施設への影響について
2022/10/20 16:33	(テスト送信)緊急情報メールサービスのメールアドレス等を変更いたしました
2022/10/13 14:15	緊急情報メールサービスのメールアドレス等変更に関するお知らせ
2022/10/04 09:10	情報提供 異常なし 宇宙飛翔体事案による原子力施設への影響
2022/08/18 15:09	情報提供 異常なし(第1報)福島県沖で発生した地震の影響
2022/08/04 10:12	情報提供 異常なし(第1報)福島県沖で発生した地震の影響
2022/07/24 22:05	情報提供 異常なし(第1報)桜島の噴火に関する原子力施設等の影響
2022/07/06 05:48	情報提供 宮城県沖で発生した地震の影響
2022/06/20 10:48	情報提供 異常なし(第1報)石川県能登地方で発生した地震の影響
2022/06/19 16:06	情報提供 石川県能登地方で発生した地震の影響
2022/05/29 17:01	情報提供 (第1報)茨城県沖で発生した地震の影響
2022/05/22 13:04	情報提供 異常なし(第1報)茨城県沖で発生した地震の影響
2022/05/16 14:30	(お知らせ)緊急情報メールサービスの対象施設変更について
2022/04/19 08:52	情報提供 異常なし(第1報)福島県中通りで発生した地震の影響
2022/04/04 19:53	情報提供 異常なし(第1報)福島県沖で発生した地震の影響
2022/04/02 17:37	情報提供 異常なし(第1報)茨城県で発生した地震の影響

¹⁵ 出所)原子力規制委員会「緊急時情報ホームページ」、<http://kinkyu.nra.go.jp/kinkyu/index.html>、2023年1月19日取得

4.3.2 評価の視点

従来調査を踏まえ、以下の視点で分析・評価を行った。

- 認知度
- 関心度
- 迅速性
- 発信頻度
- 情報の充実性

4.3.3 分析・評価

分析・評価の結果を以下に示す。

(1) 認知度

第 3 章で実施した Web アンケート調査の問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」に対する全国と原子力施設立地・周辺自治体の回答結果の経年変化を図 4-7、図 4-8 に示す。

全国と原子力施設立地・周辺自治体のいずれにおいても、“登録したことも、緊急情報メールサービスがあることも知らなかった”との回答が 8 割以上であり、その割合は年々増加傾向にあったが、令和 4 年度調査は令和 3 年度調査とほぼ同様の結果であった。また、認知度の地域による差は小さい。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102) R1(n=7,102)
 H30(n=7,102) H29(n=7,101) H28(n=7,075)

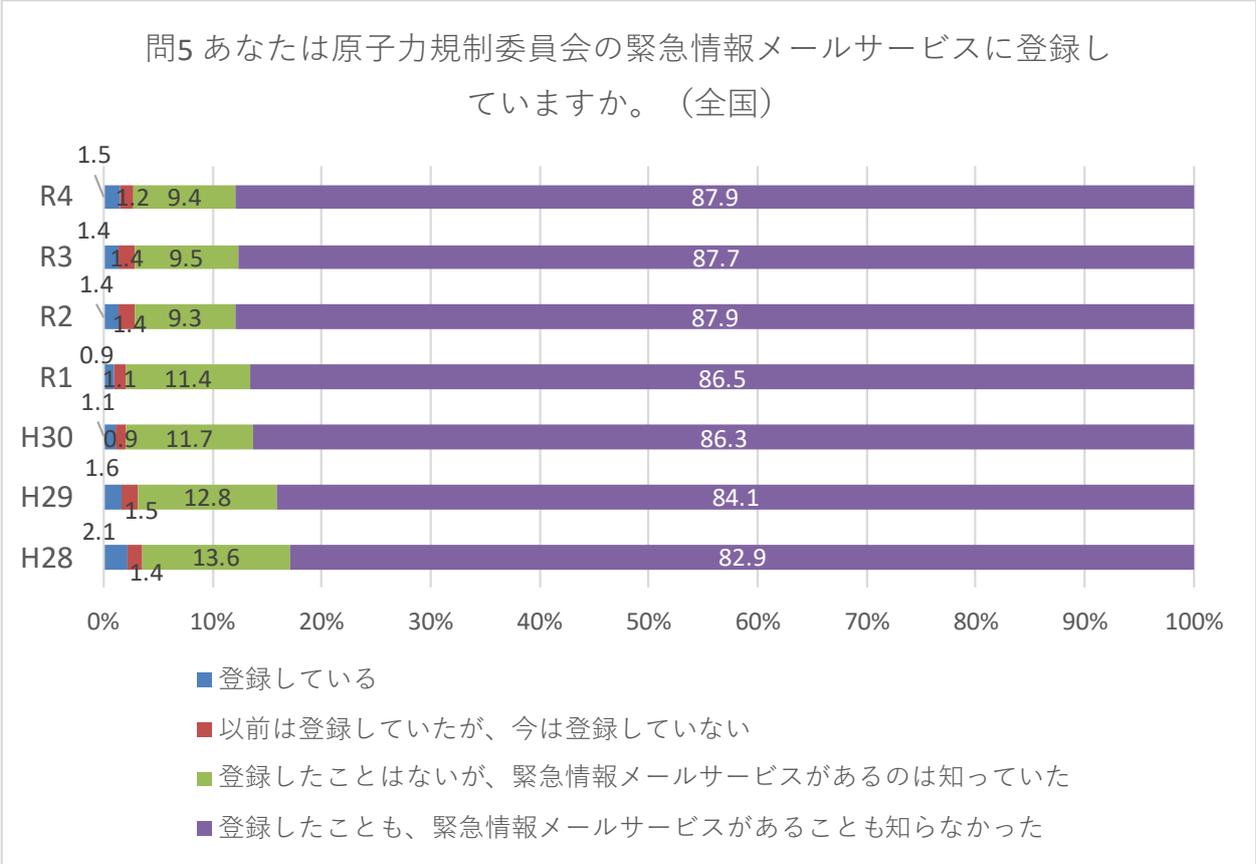


図 4-7 問5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。(全国)」経年別の回答結果(付録B 図 2-5 再掲)

R4(n=3,173) R3(n=3,170) R2(n=3,174) R1(n=3,174)

H30(n=3,174) H29(n=3,173) H28(n=3,160)

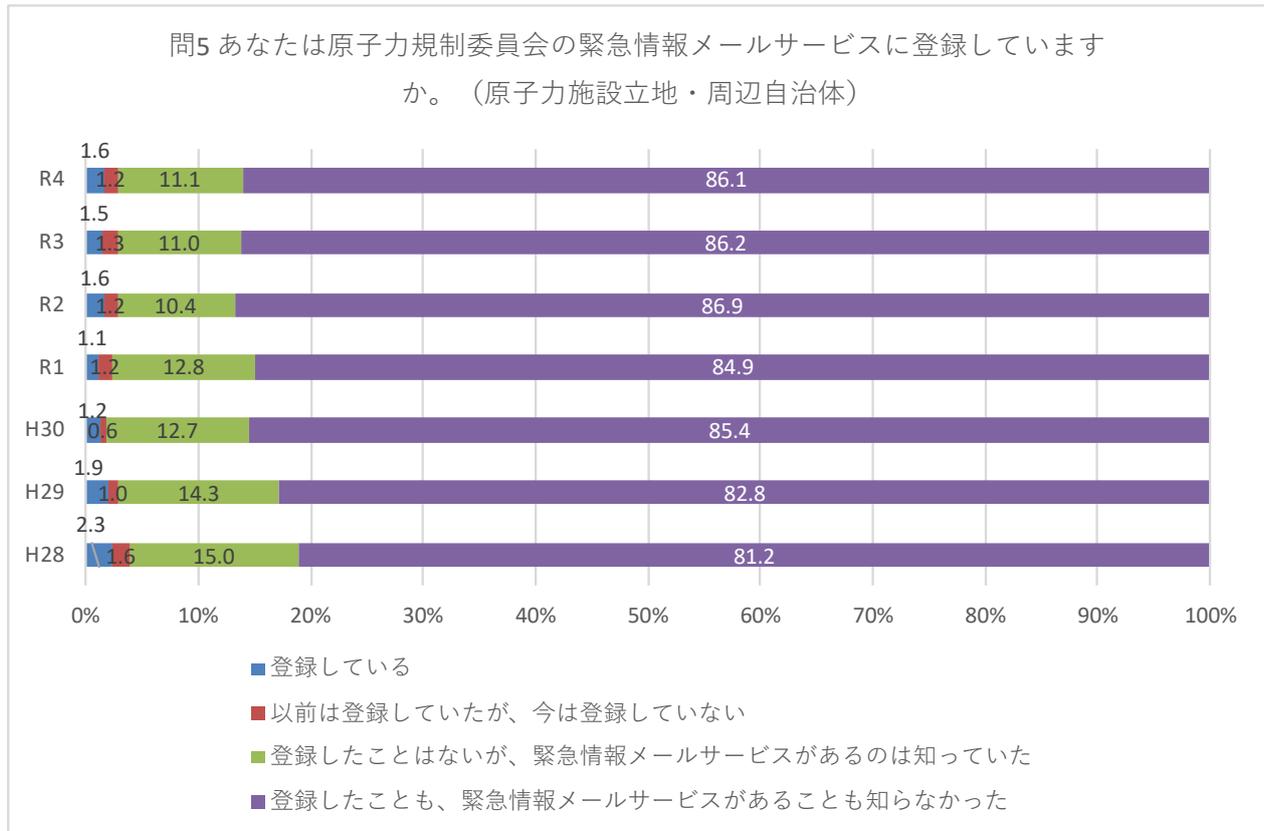


図 4-8 問5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。(原子力施設立地・周辺自治体)」経年別の回答結果

(2) 関心度

3章で実施したWebアンケート調査の問6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」に対する全国と原子力施設立地・周辺自治体の回答結果の経年変化を図4-9、図4-10に示す。

(1)において認知度が低い状況を指摘したが、登録をしていない回答者の3割以上が「関心がある」と回答している。令和3年度調査では、令和2年度に比べやや関心度が増加したものの、概ね平成28年度より関心度は減少傾向にあると言える。

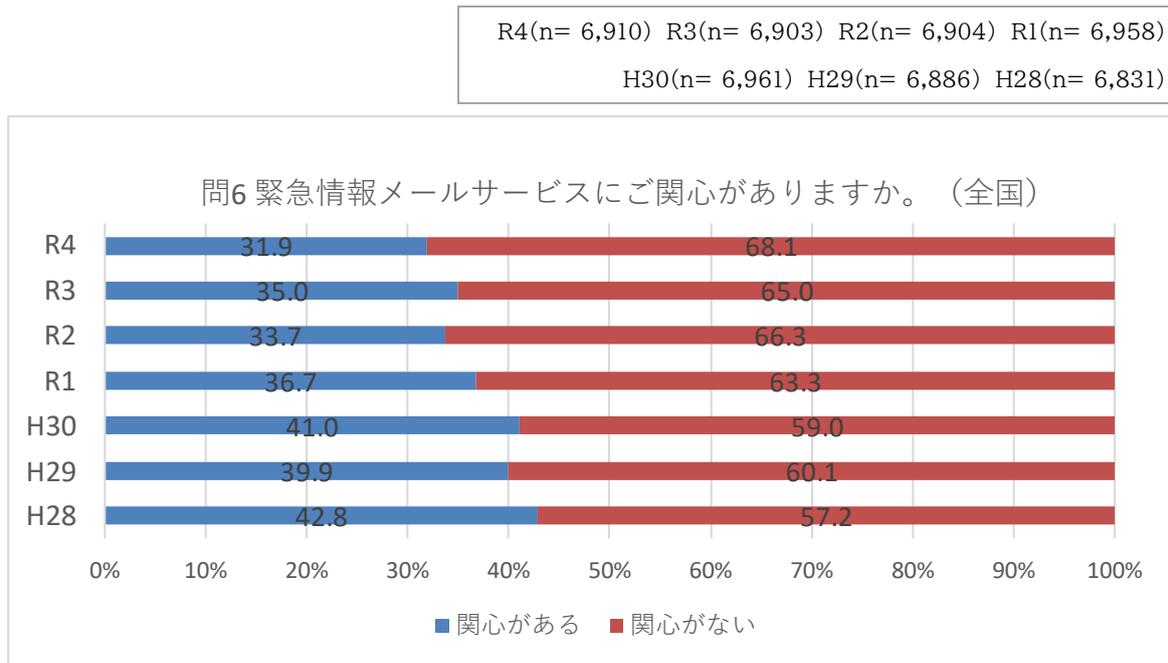


図 4-9 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。(全国)」経年別の回答結果(付録 B 図 2-6 再掲)

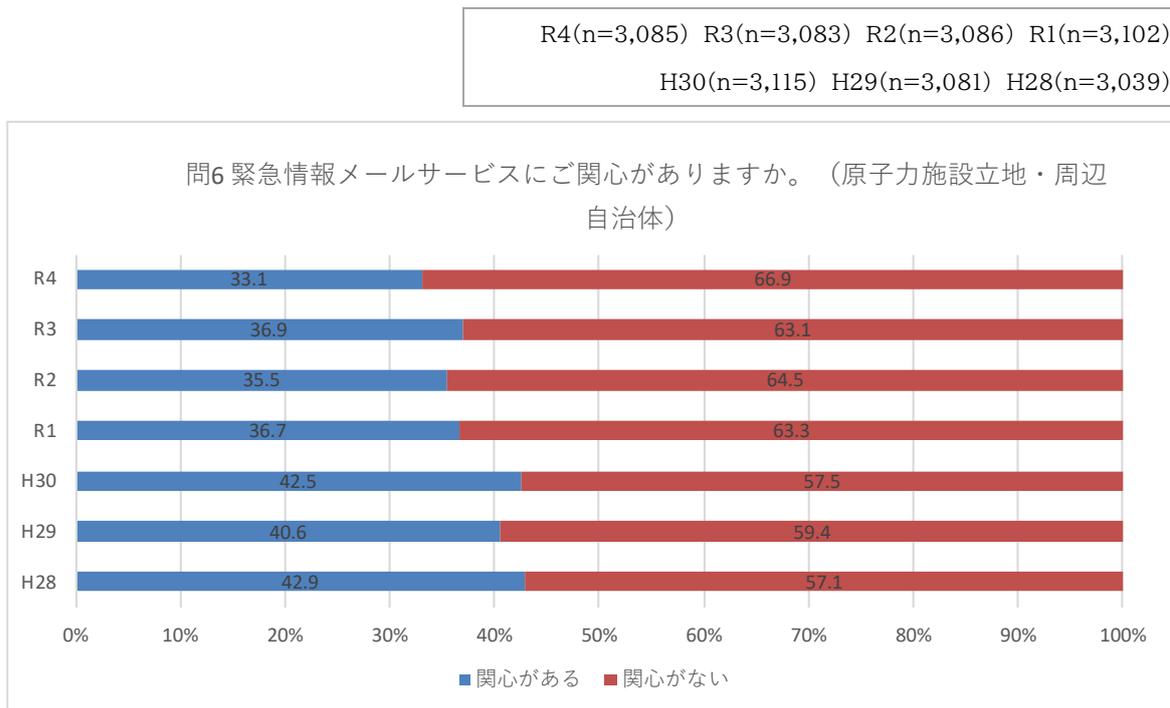


図 4-10 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。(原子力施設立地・周辺自治体)」経年別の回答結果

また、緊急情報メールサービスの登録者数を図 4-11 に示す。昨年度までと傾向には変化がなく、平成 25 年度に登録者数が大きく下がったものの、その後微増傾向が継続しており、今年度は昨年度から 1,557 名登録者数が増加した。

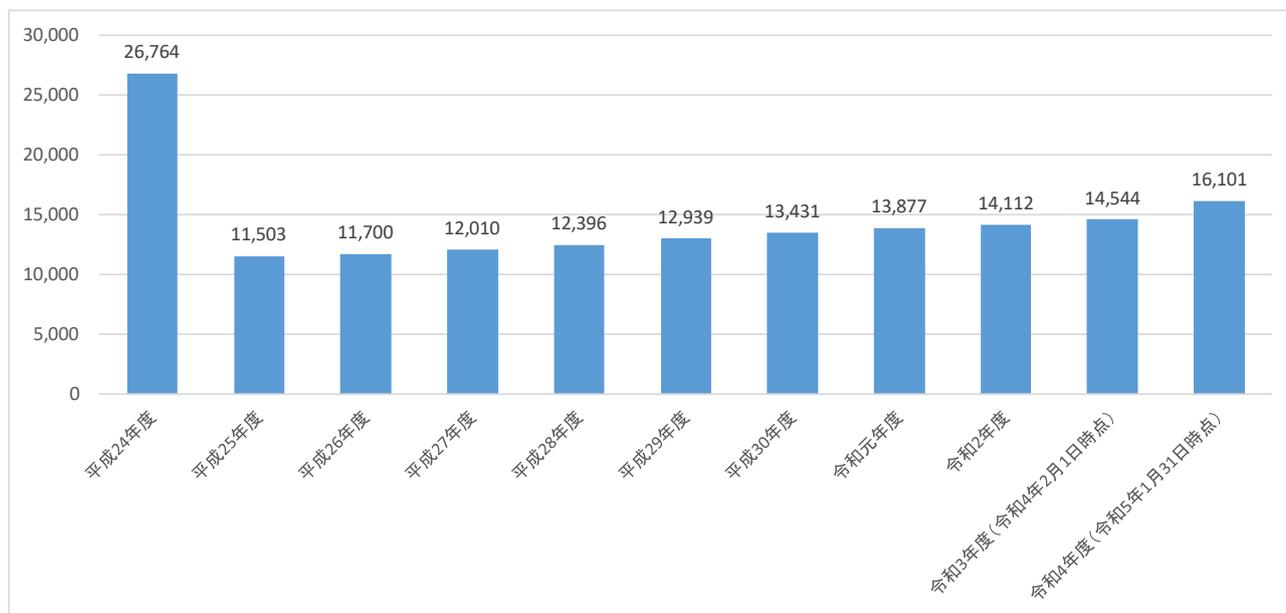


図 4-11 緊急情報メールサービス登録者数¹⁶

(3) 迅速性

令和 4 年度に配信された「緊急情報メール」及び「情報提供メール」の第 1 報の配信時間とそれに起因する事象の発生時間を示す。

令和 4 年度においては、「緊急情報メール」及び「情報提供メール」が計 15 件の事象に伴って配信されていた。地震に対しては、その発生から第 1 報配信まで、早い場合は 17 分以内、遅くとも 1 時間程度で配信されている。これは、令和 3 年度調査の結果ともほぼ同水準であり、地震から大きな遅れなく配信が行われているものと言える¹⁷。なお、令和 4 年度は、情報提供メールについて宇宙飛翔体や噴火事象に関してもメールが発信されている。

¹⁶ データは原子力規制庁より提供いただいた。

¹⁷ 他分野の事例として、消防庁「火災・災害等速報要領(平成 29 年 2 月改正)」においては「市町村は、報告すべき火災・災害等を覚知したときは、迅速性を最優先として可能な限り早く(原則として、覚知後 30 分以内)、分かる範囲でその第 1 報の報告をするもの」としている。

表 4-4 「緊急情報メール」及び「情報提供メール」配信時間及び事象発生時間¹⁸

	事 象	第 1 報の 配信時間	第 1 報ま での時間
緊急情報	2022年 10 月 21 日 15時19分頃に福島県沖で発生した地震	同日 15 時 43 分	34 分
情報提供	2023 年 1 月 30 日 15 時 21 分の原子炉等規制法に基づく法令報告事象	同日 16 時 50 分	89 分
	2023 年 1 月 25 日 10時01分頃に福島県沖で発生した地震	同日 10 時 20 分	19 分
	2022年 11 月14日 17時08分頃に三重県南東沖で発生した地震	同日 17 時 30 分	22 分
	2022年 11 月 09 日 17時40分頃に茨城県南部で発生した地震	同日 18 時 13 分	33 分
	2022年 8 月 18 日 14時46分頃に福島県沖で発生した地震	同日 15 時 09 分	23 分
	2022年 8 月 04 日 09時48分頃に福島県沖で発生した地震	同日 10 時 12 分	24 分
	2022年 7 月 6 日 05時10分頃に宮城県沖で発生した地震	同日 5 時 48 分	38 分
	2022年 6 月 20 日 10時31分頃に石川県能登地方で発生した地震	同日 10 時 48 分	17 分
	2022年 6 月 19 日 15時08分頃に石川県能登地方で発生した地震	同日 16 時 06 分	58 分
	2022年 5 月 29 日 15時55分頃に茨城県沖で発生した地震	同日 17 時 01 分	66 分
	2022年 5 月 22 日 12時24分頃に福島県で発生した地震	同日 13 時 04 分	40 分
	2022年 4 月 19 日 08時16分頃に福島県中通りで発生した地震	同日 08 時 52 分	36 分
	2022年 4 月04日 19時29分頃に福島県沖で発生した地震	同日 19 時 53 分	24 分
	2022年 4 月 2 日 16時27分頃に茨城県北部で発生した地震	同日 17 時 37 分	60 分

(4) 発信頻度

配信条件に即した第 1 報及び続報が最終報告を含めて適切に行われている。

(5) 情報の充実性

配信情報の内容は、令和 3 年度までと同様であり、原子力施設の状況に関する必要情報のみが簡潔に記載されている。

¹⁸ 出所) 気象庁、震度データベース検索、<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqdb/data/shindo/index.php>

配信内容例(2022年10月21日配信の緊急情報メール)

<原子力規制委員会から緊急情報メールサービスに登録いただいている方へお知らせです>

本日(21日)15時19分頃に福島県沖で発生した地震による原子力施設への影響について、お知らせします。(15時38分現在)

現在、施設の状況は以下のとおりです。

今後、特に異常情報がない限り、本報をもって最終報とします。

※所在市町村震度が「-」は震度2以下を示しております。

1. 原子力発電所

<東京電力・福島第一(BWR)>

福島県:最大震度5弱

大熊町:震度4

双葉町:震度4

1号機:廃止に向けた措置中

2号機:廃止に向けた措置中

3号機:廃止に向けた措置中

4号機:廃止に向けた措置中

5号機:廃止に向けた措置中

6号機:廃止に向けた措置中

○プラントの状態、排気筒モニタ、モニタリングポスト:現時点で異常なし

<東京電力・福島第二(BWR)>

福島県:最大震度5弱

楡葉町:震度5弱

富岡町:震度4

1号機:廃止措置中

2号機:廃止措置中

3号機:廃止措置中

4号機:廃止措置中

○プラントの状態、排気筒モニタ、モニタリングポスト:現時点で異常なし

2. サイクル施設

対象施設なし

3.試験研究炉施設

対象施設なし

4.使用・貯蔵施設

対象施設なし

◇緊急時情報ホームページ

(過去の発表を御覧になる際、また設定変更・解除等の際は、こちらからお願い致します。)

<http://kinkyu.nra.go.jp/m/>

※このメールには返信できません。

原子力規制委員会

(6) 総括

迅速性、情報の充実性について、令和 3 年度までと同様、適切な情報提供がなされている。一方で、全国、原子力施設立地・周辺自治体のいずれにおいても緊急情報メールサービスに関する一定の関心が持たれているものの、認知度、関心度ともに低い状況が継続している。原子力施設立地・周辺自治体に対しては特に有用となるサービスであることからさらなる認知度の向上が求められる。

4.4 Twitter の分析・評価

4.4.1 Twitter の概要

原子力規制委員会では、Twitter を用いて、原子力規制委員会の定例会見、審査会合などの開催情報、緊急情報メールサービスと連動した緊急情報、ホームページの更新情報等について、Web ページの URL を付して発信している。原子力規制委員会の公式 Twitter アカウントが令和 5 年 1 月末時点でフォローしているアカウントは、令和 4 年 1 月末時点から 8 アカウント増加し 18 アカウントあった(表 4-5 参照)。

表 4-5 原子力規制委員会の公式 Twitter アカウントがフォローしている他機関のアカウント

タイトル
内閣官房
経済協力開発機構/原子力機関(OECD/NEA)
環境省
国際原子力機関(IAEA)
首相官邸(災害・危機管理情報)
首相官邸
内閣府原子力防災
内閣府防災
米原子力規制委員会(NRC)
首相官邸(新型コロナワクチン情報)
スペイン原子力安全委員会(CSN)
仏原子力安全局(ASN)
国際放射線防護委員会(ICRP)
ドイツ連邦環境・自然保護・原子力安全・消費者保護省(BMUV)
英原子力規制局(ONR)
スウェーデン放射線安全機関(SSM)
韓国原子力安全委員会(NSSC)
カナダ原子力安全委員会(CNSC)

4.4.2 評価の視点

従来調査を踏まえ、以下の視点で分析・評価を行った。

- 認知度
- 関心度(フォロワー数)
- 迅速性
- 情報の充実性
- その他の取組

4.4.3 分析・評価

分析・評価の結果を以下に示す。

(1) 認知度

第3章で実施したWebアンケート調査の問7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」に対する全国の回答結果の経年変化を図4-12に示す。

“フォローしたことも、見たこともない”の回答が9割以上であり、平成28年度調査以来、経年での変化はほとんどなく認知度は低い状況である。なお、総務省令和3年度版情報通信白書では、ソーシャルネットワーキングサービスの利用状況は7割程度であり、少なくとも全体の3割以上はTwitter自体を利用していないことに留意が必要である。

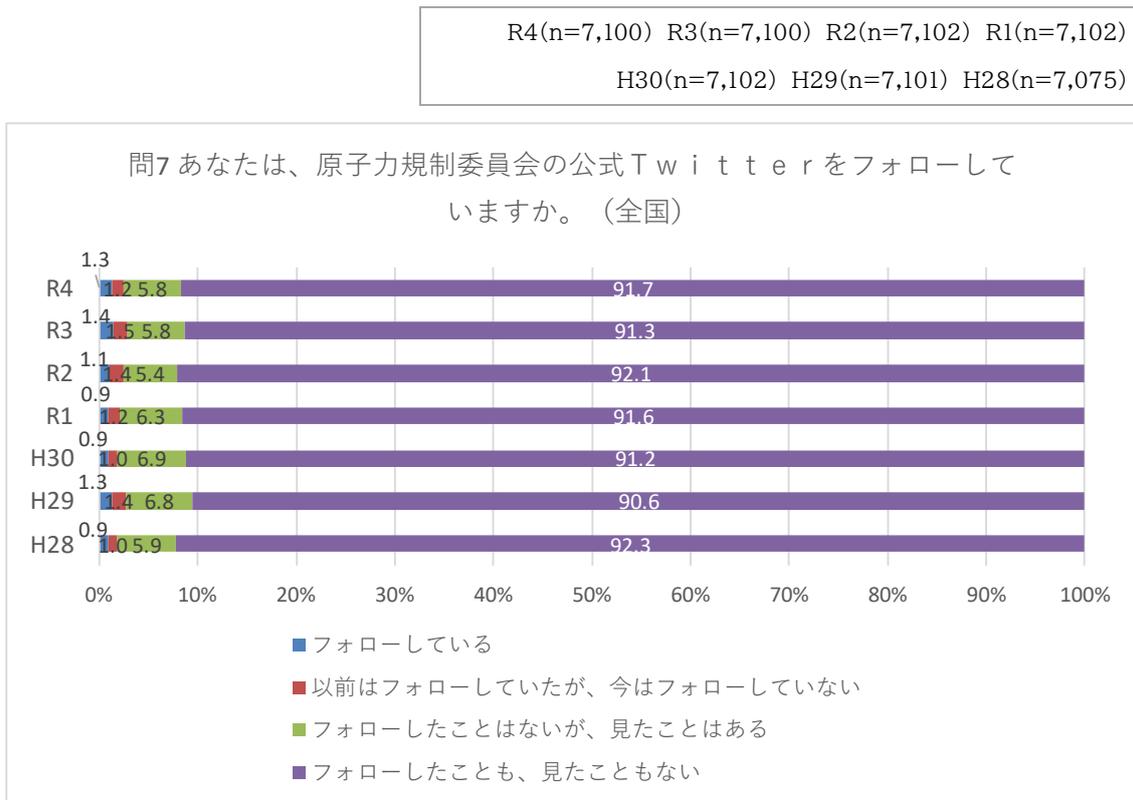


図 4-12 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。(全国)」経年別の回答結果(付録 B 図 2-8 再掲)

(2) 関心度(フォロワー数)

原子力規制委員会の公式 Twitter アカウントの令和 5 年 1 月末時点のフォロワー数は約 50,900 である。令和 3 年度調査結果によると令和 4 年 1 月末時点のフォロワー数は約 48,750 であり、昨年度調査時点から 2,000 弱増加した。

なお、各ツイートの“リツイート”数や“いいね”の数は多くが 10 に満たない程度であるが、緊急情報メールサービスによる配信の“リツイート”や“いいね”は数十である。

(3) 迅速性

令和3年度と同様、各会合の開催日の前週及び前日に、動画配信用 URL 等を付記した上で開催情報が発信されている。また、緊急情報メールサービスの発信の数分後以内に Twitter で同内容が発信されている。

(4) 情報の充実性

Twitter で発信されている内容は、令和3年度調査と大きな変化はない。各会合の放送案内の内容は、放送時間、会議名、動画配信用 URL である。緊急情報メールサービスに合わせた発信の内容は、情報の種類(緊急情報または情報提供)、異常の有無、事案名、緊急時情報ホームページ URL が記載されている。いずれも必要最小限の情報内容である。

(5) その他の取組

Twitterでのその他の取組として、「トラブル情報」の発信や、「ぶら下がり取材」動画の生配信も行われている。

1) Twitterでの「トラブル情報」の発信

原子力施設で発生したトラブルについて、事象の概要とその影響について簡潔な文章にて発信されている。

発信内容例(2023年1月17日発信のTwitter内容)

【トラブル情報】本日1月17日、東京電力から、柏崎刈羽原発・免震重要棟(非管理区域)の会議室にあるパソコン1台から出火・発煙が確認されたとの連絡。3:41に火災警報が発報、公設消防により4:13に鎮火を確認。施設への影響はなく、負傷者も発生していない。規制庁検査官が現場を確認する予定<広報室>

原子力規制委員会ホームページ上には、各種法令に基づく原子力施設からの報告事項である「事故・トラブル情報」を掲載しているが、上記 Twitter にて発信されている「トラブル情報」はホームページ掲載の内容とは別である。Twitter での「トラブル情報」は、より軽微な内容も含め幅広いトラブル情報を迅速に情報共有する意図がある。

なお、インタビュー調査の中では、ホームページ上の「事故・トラブル情報」の内容や掲載時期等について、期待していた内容と異なるといった意見もあった。特に原子力施設の立地地域住民など、原子力施設が身近な存在である住民等に対しては、Twitter 上で発信されている「トラブル情報」のような簡潔かつ迅速な情報発信こそ、期待に添う内容である可能性がある。

2) ぶら下がり取材動画の生配信

令和4年度から試験的に、原子力規制委員会委員らに対する「ぶら下がり取材」の Twitter による生配信も行われている。これは、委員らが原子力施設を視察・訪問した際に、現地で実施される「ぶら下がり取材」の様子を生配信するものである。

表 4-6 「ぶら下がり取材」生配信の状況¹⁹

取材日時	タイトル
2023年1月28日	山中委員長 柏崎刈羽現地調査
2023年1月27日	杉山委員 島根現地調査
2023年1月13日	田中委員、ふげん・美浜発電所視察
2023年1月12日	田中委員、もんじゅ視察
2023年1月6日	山中委員長・伴委員、量子科学技術研究開発機構(QST)視察
2022年12月23日	山中委員長・杉山委員 福島第一現地調査
2022年12月22日	杉山委員 福島第一現地調査
2022年12月7日	伴委員・杉山委員、柏崎刈羽現地調査
2022年12月2日	伴委員・杉山委員、柏崎刈羽現地調査
2022年11月18日	杉山委員、女川原発現地調査
2022年11月11日	田中委員、福島第一現地調査
2022年11月10日	田中委員、福島現地調査
2022年10月14日	石渡委員、志賀現地調査
2022年10月13日	石渡委員、志賀現地調査

これまで「ぶら下がり取材」は現地記者のみのクローズな取材対応であったが、生配信を行うことで、原子力規制委員会による原子力施設の現場監督意識を積極的に発信する機会として、有用な取組であると考えられる。

(6) 総括

平成 28 年度から大きな変化はない。原子力規制委員会の公式 Twitter の認知度は高いとは言えないが、フォロワー数は約 50,900 と一定数存在しており、情報発信手段として有用と考えられる。また、トラブル情報の迅速な発信や、「ぶら下がり取材対応」の生配信など、迅速かつ透明性の高い情報発信として有用な取組が充実化していると考えられる。

¹⁹ 出所)原子力規制委員会の Twitter、<https://twitter.com/gensiryokukisei>

5. 原子力規制委員会の広報活動の改善策の提言

5.1 公開情報管理システム(N-ADRES)

原子力規制委員会アーカイブ検索システム(N-ADRES)に関連する質問(問15:情報公開の取組の重要性、問16:情報の検索性向上)の結果を図5-1及び図5-2にそれぞれ再掲する。「情報公開の取組の重要性」については過半数以上(約65%)が”とても重要”、”重要”と認識しており、”重要でない”、”あまり重要でない”の認識は10%に満たなかった。

「情報の検索性向上」については、”安全性に関する研究・調査、事故・トラブル対応、緊急時の対応”といった情報に対する検索性の向上が特に重要と認識され、”審査・検査、会議資料”がそれに続いて重要と認識された。

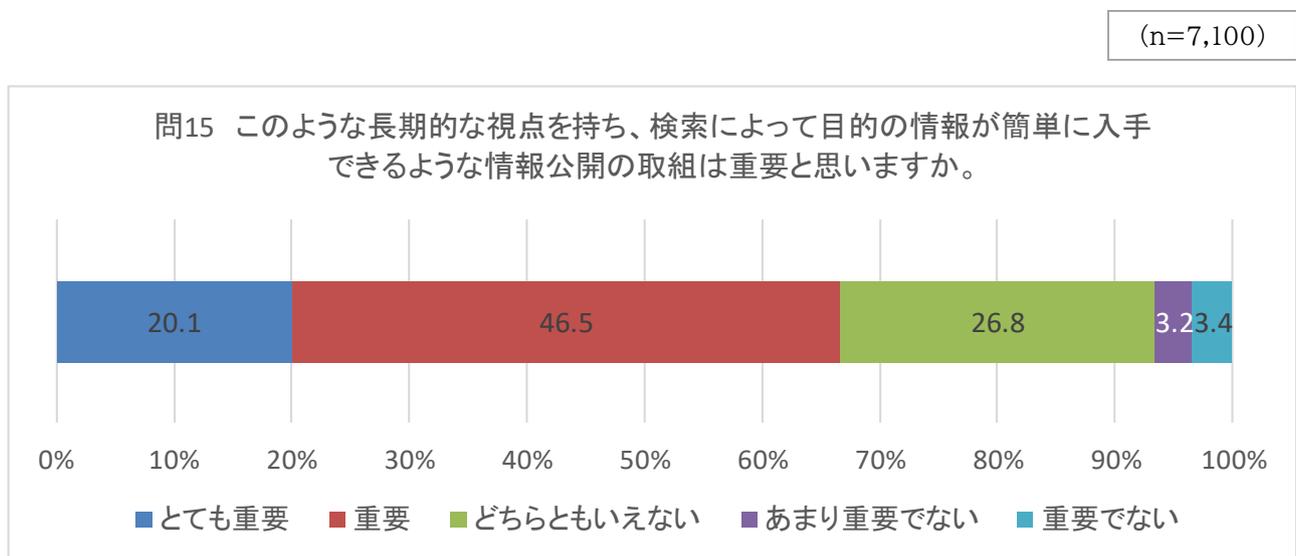


図 5-1 問15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」回答結果(図 3-18 再掲)

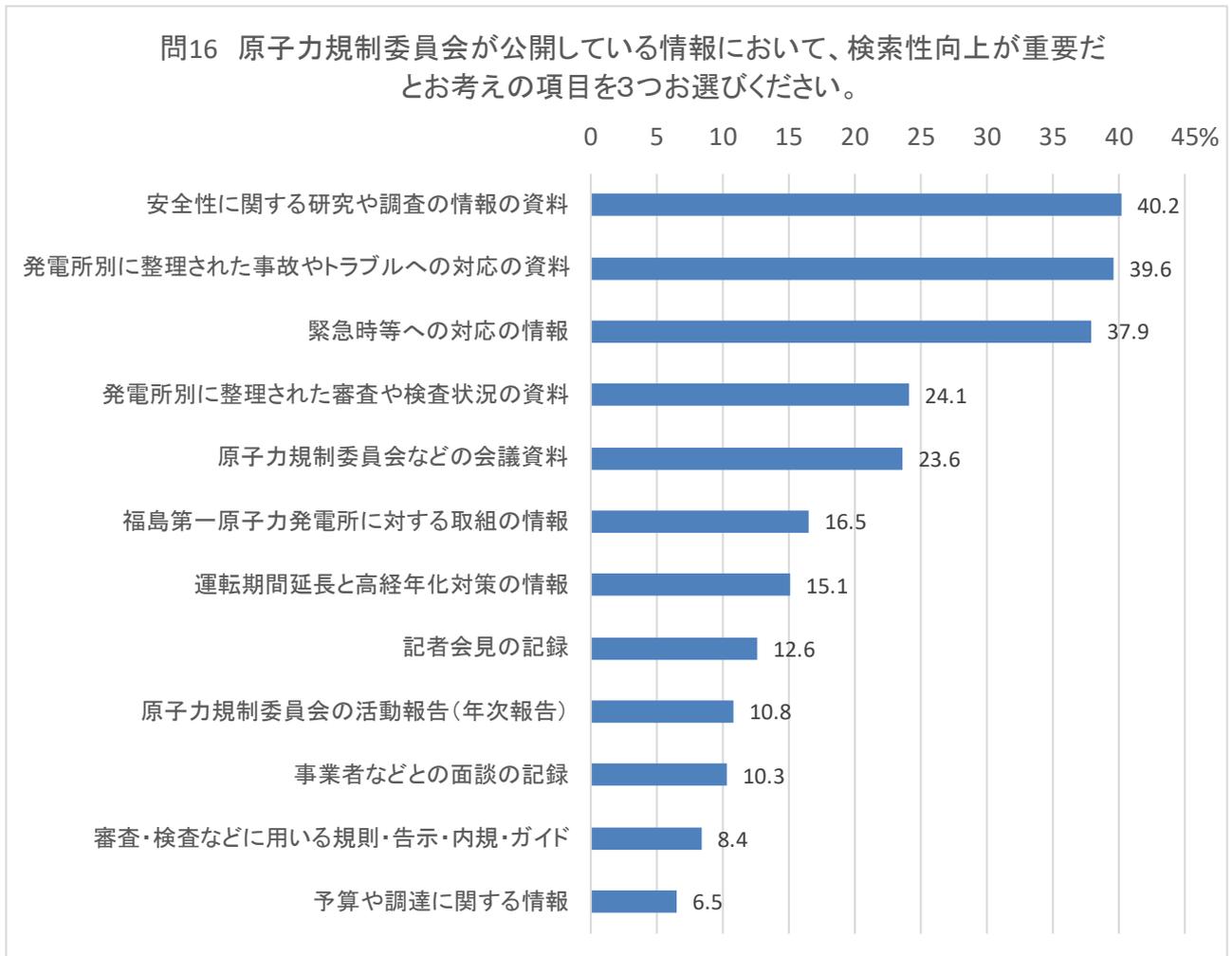


図 5-2 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。」回答結果(図 3-19 再掲)

この結果から、情報公開の取組の重要性は認識されていることが分かり、その情報収集の際の検索性等について、継続的な改善に取り組むことには意義があるものと考えられる。特に、「安全性の研究・調査、事故・トラブル対応、緊急時の対応」など個人や社会の安全に係る情報についての検索性向上に注力することが重要である。それに続いて原子力安全を担保する審査・検査、会議資料等の情報についての検索性向上にも取り組むことも重要である。

5.2 本年度特有の状況変化

5.2.1 委員長交代

山中新委員長の就任あいさつに関する質問(問 17:新委員長就任に対する関心)の結果を図 5-3 に再掲する。”原子力に 100%の安全は無いということを肝に銘じながら、慢心すること無く謙虚に規制業務を遂行していきます。”という発言が最も印象に残るとされ、結果は 6 割を上回った。「事故の教訓」、「独立性・透明性」というキーワードを含む発言がそれに続いた。「過去の事故や新しい知見」、「IAEA (国際原子力機関)の規制レビュー等」を含む発言についても同様の結果となった。「使命感、責任感」、「さらに信頼される規制機関となれるよう努力します」、「さらなる高みを目指し」を含む発言については、上記より 10 ポイントほど低い結果となった。

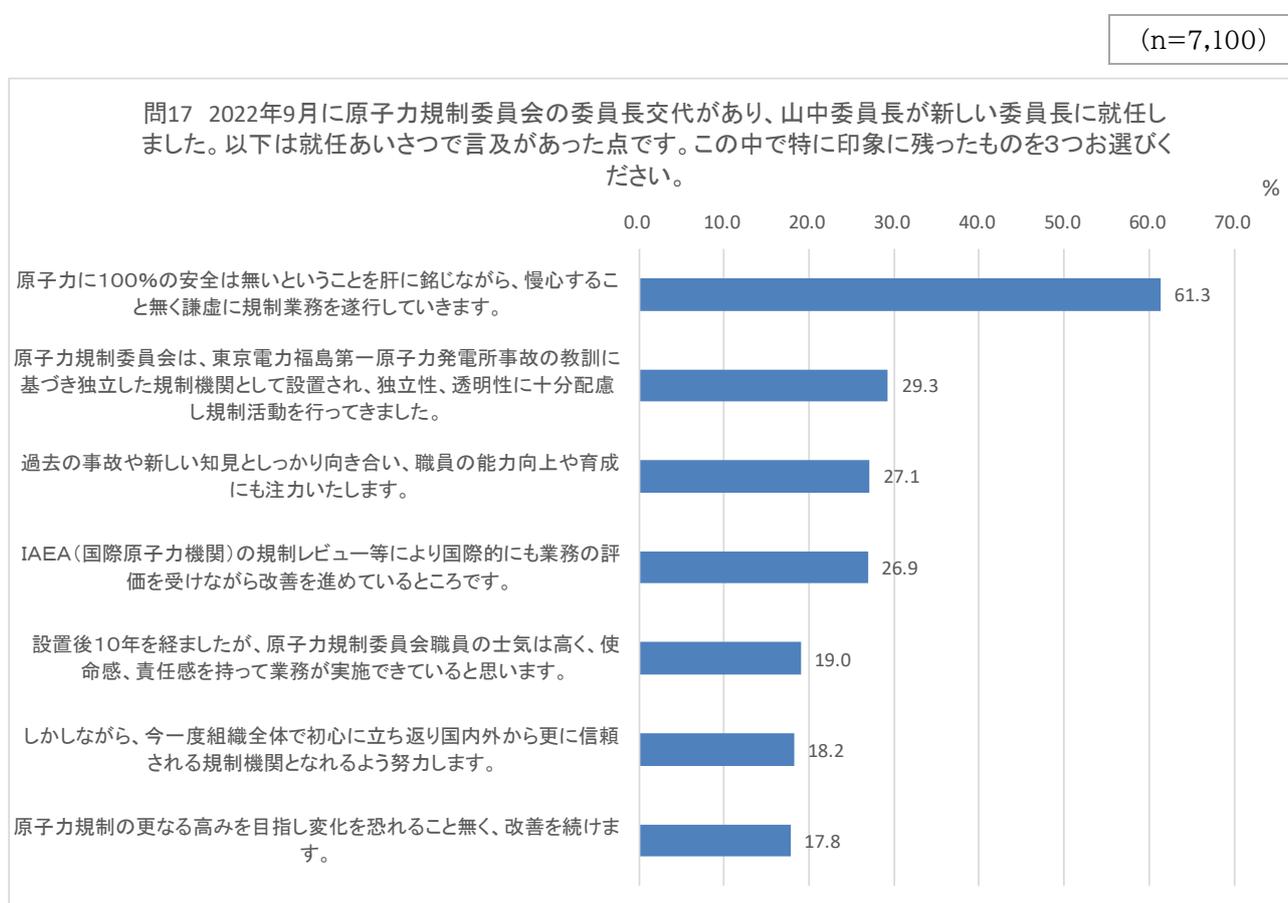


図 5-3 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」回答結果(図 3-20 再掲)

「原子力に 100%の安全は無い」という発言への印象が強かったことから、ゼロリスクを求めること(安全神話)の弊害への理解は比較的高いと考えられる。

以下は、重要なキーワードとして今後の情報発信に積極的に利用すべきである。

「事故の教訓」 「透明性・独立性」 「能力向上」 「国際的な評価」

なお、「地道な努力や改善」については当然のこととして受け止められる面もあり、情報発信の際にどの程度強調するのが効果的かについては、状況に応じた判断や検討が必要である。

5.2.2 運転期間延長

原子力発電所の60年超の稼働も念頭に置いた審査方法の見直しに関する質問(問20:審査方法見直しに関する評価)の結果を図5-4に再掲する。"原子力規制委員が政治や原子力の利用政策から独立して判断すること"を重要と思う回答が最も多く、43.7%であった。"原子力規制委員会が技術的知見に基づききちんと審査や検査をすること"、"透明性を持って審査や検査の結果を公表すること"、"厳格な基準を策定すること"がそれに続いた。"透明性を持って審査や検査の途中経過を公表すること"、"第三者の意見を聞くこと"という回答は上記よりも低く、2割程度であった。"運転期間の延長を認めるべきではない"という回答も2割ほどであった。

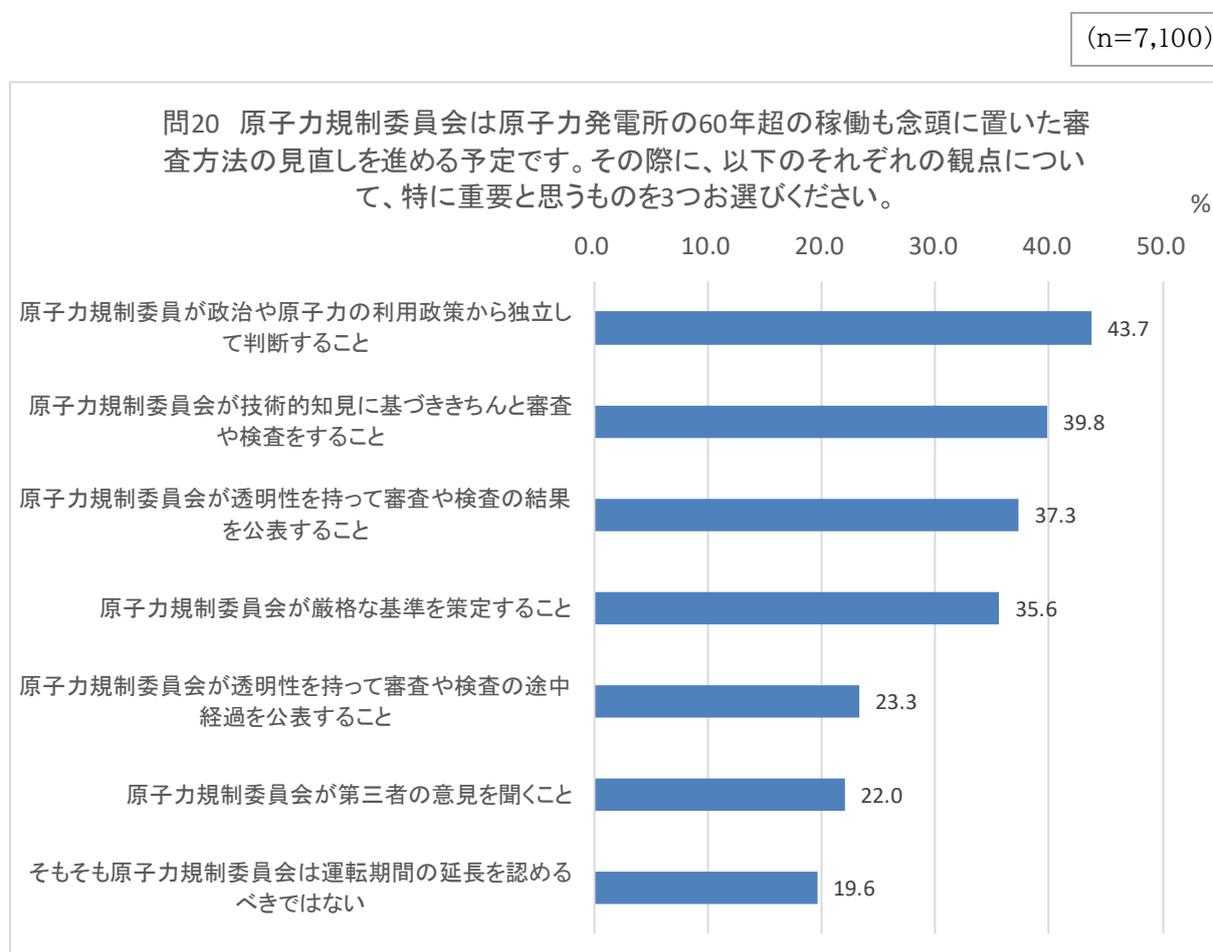


図 5-4 問20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを3つお選びください。」回答結果(図 3-23 再掲)

この結果から、「原子力規制委員会の独立性」が最も重要視されていることが分かる。この点について特に配慮した情報の発信が重要である。「専門性」、「透明性」、「厳格性」を意識した情報発信も重要である。「第三者の意見を聞くこと」については、特に「原子力規制委員会の独立性」には影響しないこと、例えば国際機関等から第三者としての意見を聞く場合、「独立性」をより高めるための対応である旨の

情報発信もあわせて行い、理解促進に努める必要がある。

5.3 信頼に関する分析

5.3.1 原子力規制委員会の認識

「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」(アンケート調査、問 12)に続けて、その理由を質問した(アンケート調査、問 13、自由記述)。記述回答の中には、福島第一原発事故当時に原子力規制委員会が存在していたとの認識を示唆する記述が昨年度と同様に散見された。

このことから福島第一原発事故の反省や教訓をもとに原子力規制委員会が原子力安全・保安院に代わり新たに設置されたという事実を認識していない方々が一定程度存在すると考えられる。特に福島第一原発事故当時に未成年だった世代については事故の記憶が薄く、原子力規制委員会やその設置の経緯については、もともと情報がインプットされにくかった可能性がある。そこで、福島第一原発事故の反省や教訓を契機として原子力規制委員会が発足したことなどを改めて周知することが重要である。なお、世代による原子力規制委員会の認知度の違いについては、第 5.4 節で検討する。

5.3.2 テキスト分析

「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」(アンケート調査、問 12)に注目して、「問12の回答の理由」についての自由記述(アンケート調査、問 13)のテキスト分析を行った。参考として表 5-1 に問 12 の回答選択率を示す。昨年度と同様に解析にはテキストマイニングツール(KHcoder)を利用した²⁰。具体的には、自由記述の回答でよく用いられている用語の関係性を分析した。ここでの関係性の分析とは、「回答の中で一緒に用いられることが多い用語の分析」や、「信頼に関するアンケート調査、問 12 への回答属性と用語の関係性の分析」などである。

表 5-1 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」の回答選択率

	選択肢	選択率
(+)	信頼できる("とても信頼できる"+"ある程度信頼できる")	約 4 割
(±)	どちらとも言えない("どちらとも言えない")	約 4 割
(-)	信頼できない("あまり信頼できない"+"全く信頼できない")	約 2 割

(1) 対応分析

対応分析の結果を図 5-5 に示す。KHcoder では、利用頻度の多い用語や、個々の回答でよく利用される用語の関係性を二つの成分で表現して二次元に配置した図が対応分析の結果として作成される。図中のバブルの大きさは出現頻度の高さを示している。なお、図中の属性("とても信頼できる"、"ある

²⁰ 「社会調査のための計量テキスト分析 第 2 版」樋口、ナカニシヤ出版、(2020 年) (<https://khcoder.net/>)

程度信頼できる”、“どちらともいえない”、“全く信頼できない”、“あまり信頼できない”)の近くに配置されている用語は、それぞれの属性の回答者がよく用いた用語である。

対応分析結果の図(図 5-5)からは以下のことが分かる。

- 信頼に関するそれぞれの属性に対応する記述回答では同じような用語が用いられている。
 - ”とても信頼できる”と”ある程度信頼できる”の回答者が利用した用語は類似している。
 - ”全く信頼できない”と”あまり信頼できない”の回答者が利用した用語も類似している。

- 信頼に関する属性ごとによく用いられる用語の例
 - (+) 独立、信頼、発信、正確、知識、専門家 など
 - (±) 活動、内容、理解、分かる など
 - (-) 福島、原発、事故、政府、隠蔽 など

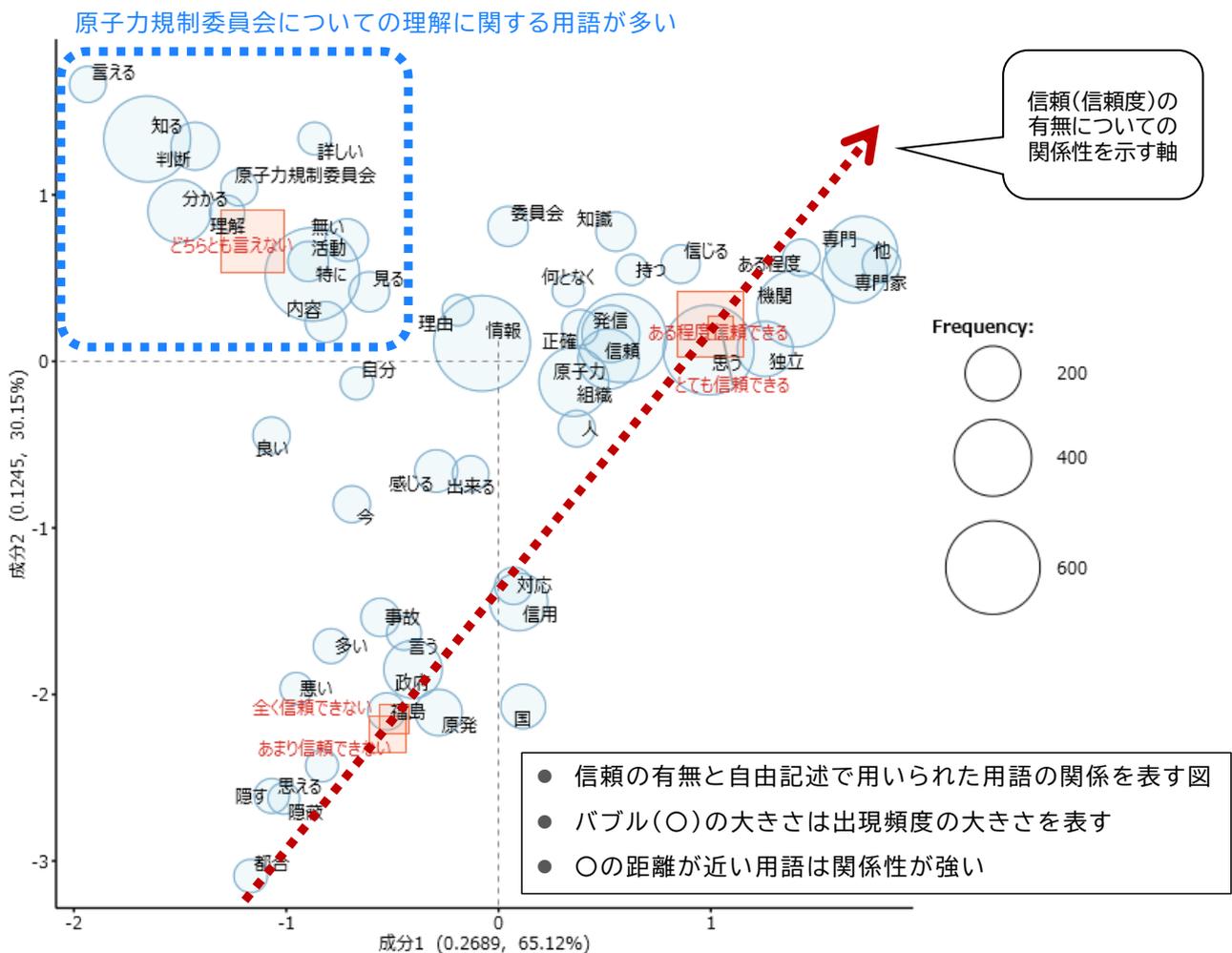


図 5-5 対応分析の結果²¹

昨年度と同様に、対応分析の結果より、“とても信頼できる”+”ある程度信頼できる”と、“あまり信頼

²¹ 出所)KHcoder の出力結果(対応分析)に三菱総研が説明を加えた図

できない”+”全く信頼できない”は、概ね赤色の直線(破線)で結べることが分かる。信頼の大小は、この直線上で示されると推察される(右側が大きく、左側が小さい(もしくは不信))。

なお、“どちらとも言えない”はこの赤色線から外れたところに配置されている。このことから、“どちらとも言えない”という属性については、信頼の有無のみでは十分にその特性を分析できない可能性が昨年度と同様に示唆された。

昨年度と結果に大きな違いはなかったことから、今年度においても対応分析からは属性別に以下の示唆が得られた。

表 5-2 対応分析から得られる示唆

属性	対応分析から得られる示唆
(+)信頼できる ("とても信頼できる"+ "ある程度信頼できる")	「信頼」、「独立」、「責任」など原子力規制委員会が信頼獲得の上で重要と考えている用語を回答によく用いている。今後も継続的にこれまでと同様の情報発信をしていくことが重要である。
(±)どちらとも言えない ("どちらとも言えない")	信頼の有無とは別に、原子力規制委員会への理解が深まることが重要である。
(-)信頼できない ("あまり信頼できない"+ "全く信頼できない")	福島第一原発事故や事故当時の安全対応への懸念が強い。

(2) 共起ネットワーク分析

テキスト分析の結果得られた共起ネットワークを図 5-6 に示す。この図では、信頼に関する回答属性と回答でよく用いられた用語との関係性が示されている。線が太いほど関係性が強く、複数の属性でよく用いられた用語には複数の属性との間に直線が結ばれている。青色の丸で表された用語は、全 5 種類の全ての属性と関連が強い。丸から直線が一つしか出ていない場合、該当する用語は 5 種類の属性の中の一つのみとの関係が強いことを示している。共起ネットワーク分析においても結果は昨年度と同様であった。

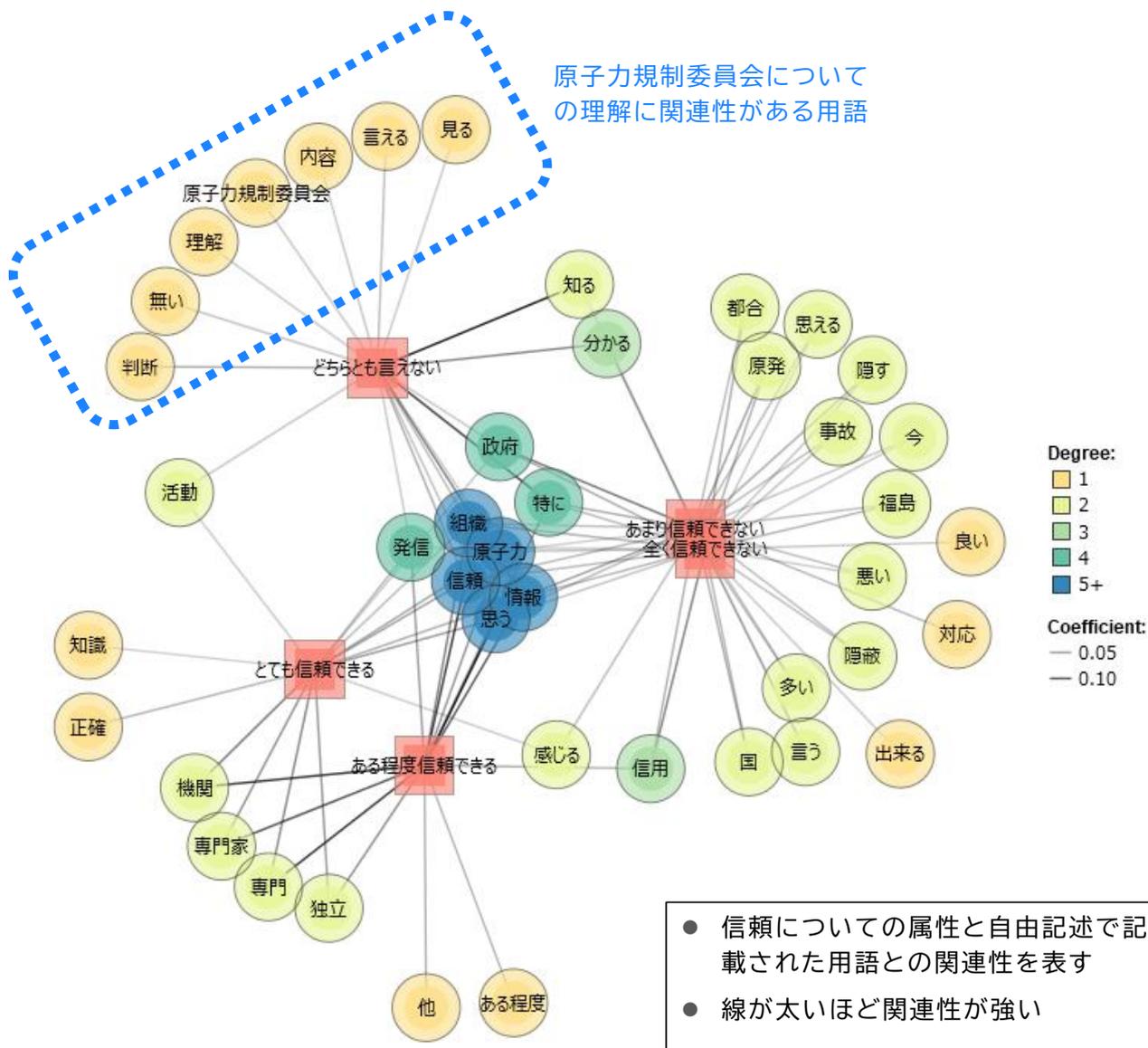


図 5-6 共起ネットワーク²²

用語と属性の関係性は概ね対応分析の結果と同様の傾向を示している。具体的には以下のような傾向が読み取れる。

²² KHcoder の出力結果(共起ネットワーク)に三菱総研が説明を加えた図

表 5-3 共起ネットワークから得られる属性と用語の関係性

属性	対応分析から得られる示唆
(+)信頼できる ("とても信頼できる"+ "ある程度信頼できる")	「専門家」、「独立」、「正確」など原子力規制委員会が情報発信の際に重要視している用語と関係性がある。
(±)どちらとも言えない ("どちらとも言えない")	「原子力規制委員会」、「理解」、「内容」などの用語と関係性がある。
(-)信頼できない ("あまり信頼できない"+ "全く信頼できない")	「原発」、「事故」、「悪い」、「隠蔽」などの用語と関係性がある。

特に、(±)「どちらとも言えない」に注目すると、原子力規制委員会の対応内容などに関連する用語が多い。この層の関心に応えるには、「原子力規制委員会自体を紹介するような情報発信」が重要であることが示唆される。

(3) テキスト分析のまとめ

テキスト分析の結果から、昨年度と同様に以下のような対応が継続して重要と考えられる。

- ・ 現状の情報発信の維持が重要である。
- ・ 福島第一原発事故から10年以上が経過するなど、風化防止への対応も重要である。
- ・ 原子力規制委員会についての基本的な情報(設立の経緯、現在の業務概要等)を分かりやすく伝える工夫が重要である。
- ・ 事故や自然災害の発生など、一般の関心が高まる時に備えてコンテンツ等を準備しておくことが重要である。

5.4 原子力規制委員会の認知度の世代間での違い

5.4.1 プレ調査結果による試行的な検討

プレ調査(n=20,904)において、「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」、という質問を実施して、「知っている”または”名前を聞いたことがある」と回答した回答者を本調査(n=7,100)の対象としている。プレ調査の対象については、都道府県や年齢での調整が行われていない。別途実施されている世論調査とも結果に違いがあることは確認しており、プレ調査の調査結果による認知度の割合については、あくまでも参考情報という位置づけである。ただし、世代間による認知度の差などの相対的な比較は、ある程度可能と考えられる。そこで、試行的な検討として、原子力規制委員会の認知度が年代によってどのように変化しているかを確認した。結果を図 5-7 に示す。

”知っている”+”名前を聞いたことがある”という回答は、高齢層が高く、若年層に向けて減少している。最も高い65-69歳は77%である。20-24歳は37.3%で65-69歳の半分以下になっている。この結果から若い世代ほど、原子力規制委員会の認知度が低い可能性がある。

調査時点(2022年)と東日本大震災が発生した2011年から考えると、震災当時、現在の20-24歳は9-13歳(概ね中学1年以下)、25-29歳は14-18歳(概ね高校3年以下)である。震災直後から原子力規制委員会発足の話などはメディアなどで取り上げられていたが、このような若い世代に

はその情報がしっかりインプットされず、現在に至っている可能性がある。

原子力の安全に関しては、国民的な議論も重要であるが、このように世代間で原子力規制委員会や原子力規制の仕組みについて認識が異なっている状況は好ましいとは言えない。今後は、東日本大震災を比較的若い時期に経験した世代や、それよりも若い世代に向けた情報発信のあり方を検討していく必要もある。

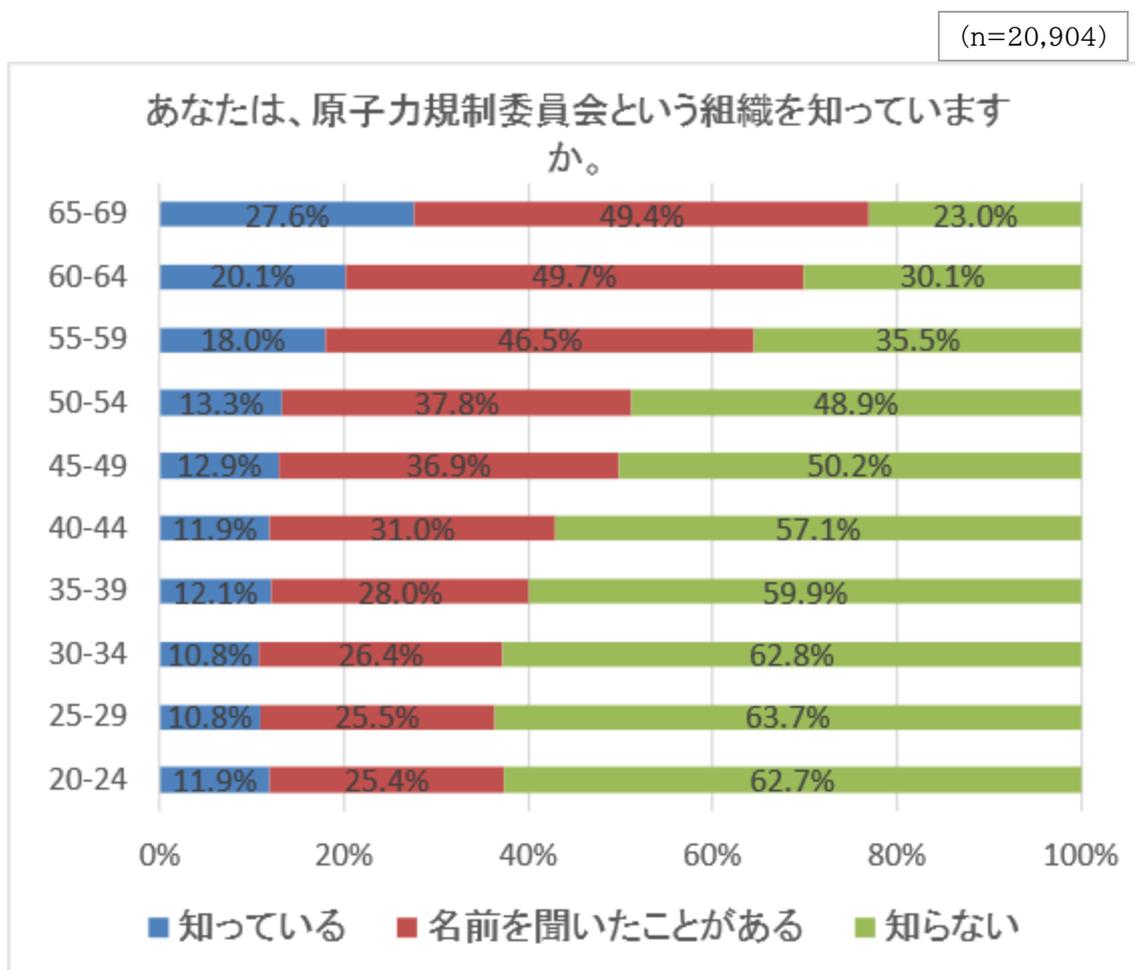


図 5-7 プレ調査 1「あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。」回答結果(年代別)

5.4.2 原子力規制委員会への信頼

本調査(n=7,100)の対象者についてであるが、原子力規制委員会への信頼に関する回答を年代別に示した結果を図 5-8 に示す。”とても信頼できる”+”ある程度信頼できる”という回答が最も多いのは、20-29 歳の 44.3%である。この結果から、原子力規制委員会を知っている若い世代については信頼が低いという状況ではないことが分かる。

若い世代が原子力規制委員会を信頼している理由は、必ずしも事故の教訓や過去の反省ではない可能性もある。その点を明らかにしていき、若い世代向け効果がある情報発信についても検討を進める必要がある。そのためには、例えば若い世代の原子力規制委員会や原子力規制への関心や信頼に焦点をあてた、新たな FGI を実施するなどの方向性が考えられる。

(n=7,100)

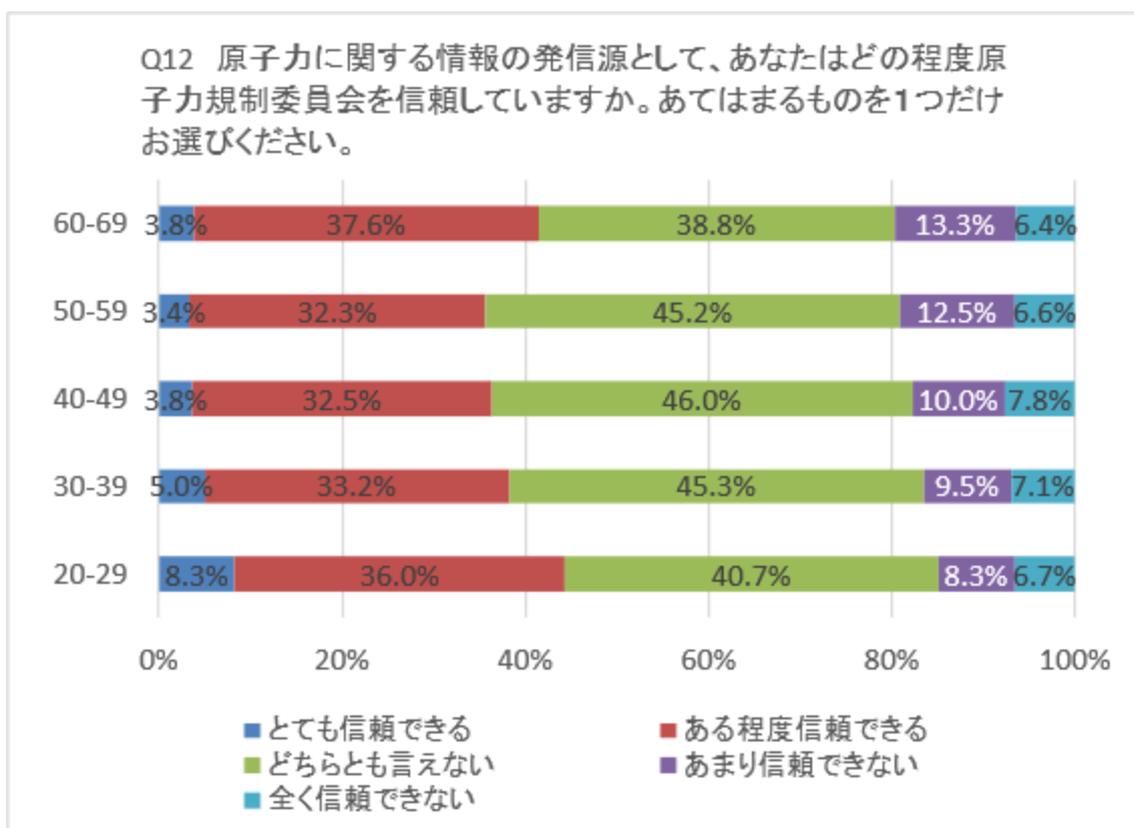


図 5-8 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」回答結果(年代別)

5.5 改善策の提言

前節までに示したとおり、原子力規制委員会への信頼向上を目指す上で、以下に示す情報発信が重要である。

5.5.1 現状の情報発信の維持継続

主に、原子力規制委員会を信頼している層については、その理由を問う自由記述において、原子力規制委員会の活動原則で用いられている用語等への言及が昨年度調査と同様に多かった。引き続き、原子力規制委員会の活動原則に沿った継続的な情報発信が重要である。

5.5.2 原子力規制委員会についての情報発信

原子力規制委員会への信頼について、「どちらとも言えない」と回答した層は昨年度と同様に 4 割程度であった。この層には、原子力規制委員会への信頼構築に先立って、原子力規制委員会への認知や理解を深めるのに役立つ内容の情報発信が求められる。N-ADRES による公開情報の検索性の向上などもこれに資するものと考えられる

第 4 章で紹介した、「ぶら下がり動画の生配信」、は立地地域などの現地を訪れた委員の生の声を聴くことができる機会、「原子力規制委員会」がどのようなことをしているのかを伝える一つのツールとして優れている。また、動画を一覧表にしてまとめるなどすると、原子力規制委員が頻繁に現地に出向いていることなども伝わるだろう。

5.5.3 福島第一原発事故時に高校生以下だった世代に向けた情報発信

若い世代に向けては SNS の利用などが有効であることは FGI でも明らかになってきている。こちらも第 4 章で紹介した、Twitter での「トラブル情報」の発信などの取組も有効と考えられる。

また、若い世代の原子力規制委員会や原子力規制への関心や信頼に焦点をあてた、新たな FGI の実施なども求められる。

若い世代には、福島第一原発事故の記憶そのものが薄い可能性がある。そのため情報発信の際に、「過去の反省」に重きを置くことが、必ずしも有効とは言えない可能性がある。この点を、上述の FGI 等で確認するとともに、過去の教訓を新しい世代に伝えていく工夫を、国内の行政機関や、海外の原子力規制機関がどのように実施しているのかを調査することも有効と考えられる。

国内においては、例えば 20 年以上前に発生した大きな自然災害(阪神淡路大震災など)の事例に参考になる取組があると考えられる。また、海外においても過去の深刻な原子力事故を若い世代にどのように伝えていくかなどの事例を調査することも有効と考えられる。

6. まとめ

原子力規制委員会及び原子力規制庁行政に対して、各主体がどのような認識を持っているのかをまとめるため、原子力規制委員会の広報活動の効果について以下の分析・評価を行った。

- ① 原子力規制委員会ホームページ等での提供情報に関する調査
- ② 原子力規制委員会等に対する国内各主体の認識の調査
- ③ 原子力規制委員会及び原子力規制庁の広報活動に関する現状分析及び評価

さらに、上記の検討をもとに、原子力規制委員会の広報活動の改善策として、以下の3種類の情報発信の重要性を提言した。

- 現状の情報発信の維持継続
- 原子力規制委員会についての情報発信
- 福島第一原発事故時に高校生以下だった世代に向けた情報発信

添付資料

- 付録 A 原子力規制委員会の情報発信に関するアンケート調査票
- 付録 B アンケート調査結果(地域間での比較、経年での比較)

令和4年度原子力施設等防災対策等委託費(原子力規制委員会広報総合評価・分析)事業報告書

2023年2月

株式会社三菱総合研究所
セーフティ&インダストリー本部
(担当 義澤、小野寺、レガラド、白井、瀬川)

付録 A
原子力規制委員会の情報発信に関する
アンケート 調査票

原子力規制委員会の情報発信に関するアンケート 調査票

スクリーニング質問

プレ調査 1 あなたは地域での付き合いをどの程度していますか？この中から 1 つだけお答えください。

- a. よく付き合っている
- b. ある程度付き合っている
- c. あまり付き合っていない
- d. 全く付き合っていない

プレ調査 2 あなたは、原子力規制委員会という組織を知っていますか。

※a もしくは b の選択者のみを、以下の本調査の対象とする。

- a. 知っている
- b. 名前を聞いたことがある
- c. 知らない

本調査

問1 あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。あてはまるものをそれぞれ 1 つずつお選びください。

	よく 知っている	ある程度 知っている	ほとんど 知らない	全く知らない
a. 原子力規制委員会は環境省の外局として原子力利用を推進する省庁(経済産業省等)から独立した意思決定ができること	1	2	3	4
b. 各地の原子力施設の周辺に、原子力施設の検査等を行う原子力規制庁の職員が常駐している施設(原子力規制事務所)が設置されていること	1	2	3	4
c. 原子力規制委員会は委員長が 1 人、委員が 4 人という人数構成であること	1	2	3	4
d. 委員長及び委員の要件に加え、原子力事業者(電力会社等)の役員・従業員だった人を不適格とすること	1	2	3	4
e. 技術的・専門的な判断の内容に係る事項について独立して権限を行使すること	1	2	3	4
f. 意思決定に関わる審査会合の議論や資料はすべて公開し、インターネット中継を行う等、審査の過程について透明性を確保していること	1	2	3	4
g. 原子力規制委員長による定例の記者会見を週 1 回、事務方による定例ブリーフィングを週 2 回実施していること。	1	2	3	4

問2 原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	よく 知っている	ある程度 知っている	ほとんど 知らない	全く知らない
a. 原子力施設の設計段階での新規規制基準適合性審査や稼働前の現地検査さらに稼働後は定期的な現地検査を実施していること	1	2	3	4
b. 原子力施設に関する規制基準を策定していること。また、基準策定のために新知見を収集、研究していること（安全研究）	1	2	3	4
c. 原子力災害対策に必要な専門的・技術的な指針（原子力災害対策指針）を策定すること	1	2	3	4
d. 福島第一原子力発電所の状況の確認や、汚染水の拡散防止策等の検討を行うこと	1	2	3	4

問3 あなたは、原子力規制委員会のホームページ(<https://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

a. よく見る
b. 時々見る
c. 見たことがある
d. 見たことがない
e. わからない

問4 原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。 ※1つ上の設問の a～c の選択者を対象とする。

	高く評価 できる	ある程度 評価 できる	どちらと も言えな い	あまり 評価でき ない	全く 評価でき ない
a. 情報提供の迅速さ	1	2	3	4	5
b. 提供情報の十分さ	1	2	3	4	5
c. 説明・発表内容の分かりやすさ	1	2	3	4	5
d. 説明・発表内容の正確さ	1	2	3	4	5
e. 情報のオープン性	1	2	3	4	5
f. 専門的な知見に基づく判断・見解の説明	1	2	3	4	5
g. 責任感・使命感	1	2	3	4	5
h. 情報発信への積極性	1	2	3	4	5
i. 探しやすさ、使いやすさへの配慮	1	2	3	4	5

問5 原子力規制委員会の緊急情報メールサービス(<https://kinkyu.nra.go.jp>)では、原子力施設立地地域で大規模災害等が発生した際、原子力規制委員会から配信登録者に対して、直接、原子力施設の状況やモニタリング情報などの緊急情報を、携帯電話にメールでお知らせしています。(後述のサンプル参照)

あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- a. 登録している
- b. 以前は登録していたが、今は登録していない
- c. 登録したことはないが、緊急情報メールサービスがあるのは知っていた
- d. 登録したことも、緊急情報メールサービスがあることも知らなかった

※緊急情報メールサービスの登録手順は次の URL 参照 (https://kinkyu.nra.go.jp/regist_kinkyu.html)

緊急情報メールサービスの詳細は次の URL 参照 「緊急メールサービスとは」

(https://kinkyu.nra.go.jp/about_kinkyu.html)

【緊急情報メールサービスのサンプル一例】

【緊急情報メール】

『件名:【緊急情報メール(原子力緊急アラート)】〇〇で発生した地震による原子力施設への影響について』

<原子力規制委員会から緊急情報メールサービスに登録いただいている方へお知らせです>

令和4年(2022年)〇〇地震の原子力施設への影響について、お知らせします。(令和4年△月△△日△時現在)
現在、各施設ともに異常情報は入っていません。

1. 原子力発電所

<〇〇電・〇〇(PWR)>

(1)運転状況:1・2号機 運転中

(2)プラント状態:異常なし。

(3)外部への影響:排気筒モニタ、モニタリングポストに異常なし。

以上

問6 緊急情報メールサービスにご関心がありますか。※1つ上の設問のc,dの選択者を対象とする。

- a. 関心がある
- b. 関心がない

※緊急情報メールの登録手順は次の URL 参照

(https://kinkyu.nra.go.jp/pdf/Manual_AddressTouroku_v_2_2.pdf)

問7 原子力規制委員会の公式 Twitter (<https://twitter.com/gensiryokukisei>) では、委員会・審査会合・検討会・記者会見等の開催情報、各種会議の資料や議事録の掲載情報等を発信しています。(後述のサンプル参照)

あなたは、原子力規制委員会の公式 Twitter をフォローしていますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- a. フォローしている
- b. 以前はフォローしていたが、今はフォローしていない
- c. フォローしたことはないが、見たことはある
- d. フォローしたことも、見たこともない

【公式 twitter アカウントの情報発信サンプル】

原子力規制委員会 / NRA,Japan@gensiryokukisei

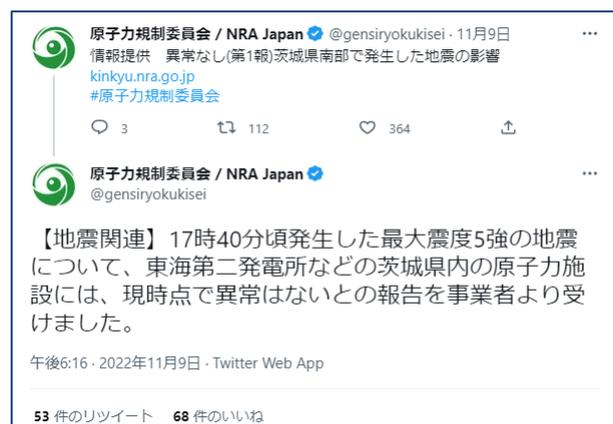
【放送案内】明日○日○曜日、第○回原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合を開催します。以下の URL で生放送します。

[ニコニコ動画 URL]

[YouTubeURL]

#原子力規制委員会

【地震関連】17時40分頃発生した最大震度5強の地震について、東海第二発電所などの茨城県内の原子力施設には、現時点で異常はないとの報告を事業者より受けました。



<https://twitter.com/gensiryokukisei/status/1590272098425278464?cxt=HHwWgMDUrYiD5JEsAAAA>

問8 原子力規制委員会の公式 YouTube チャンネル(<https://www.youtube.com/user/NRAJapan>)およびニコニコ動画におけるニコニコチャンネル(<https://ch.nicovideo.jp/nra>)では、委員会・審査会合・検討会・記者会見等や福島第一原発事故分析の映像資料等の動画を配信しています。

あなたは、原子力規制委員会の公式 YouTube チャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。
あてはまるものを1つだけお選びください。

- a. よく見る
- b. 時々見る
- c. 見たことがある
- d. 見たことがない
- e. YouTube チャンネル、ニコニコチャンネルが存在することを知らなかった

問9 現在の原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	高く評価 できる	ある程度 評価 できる	どちらと も言えな い	あまり 評価でき ない	全く 評価でき ない
a. 情報提供の迅速さ	1	2	3	4	5
b. 提供情報の十分さ	1	2	3	4	5
c. 説明・発表内容の分かりやすさ	1	2	3	4	5
d. 説明・発表内容の正確さ	1	2	3	4	5
e. 情報のオープン性	1	2	3	4	5
f. 専門的な知見に基づく判断・見解の説明	1	2	3	4	5
g. 対応の誠実さ	1	2	3	4	5
h. 責任感・使命感	1	2	3	4	5
i. 情報発信への積極性	1	2	3	4	5
j. 探しやすさ、使いやすさへの配慮	1	2	3	4	5

問10 原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	とても 期待して いる	ある程度 期待して いる	どちらと も言えな い	あまり 期待して いない	全く 期待して いない
a. 情報提供の迅速さ	1	2	3	4	5
b. 提供情報の十分さ	1	2	3	4	5
c. 説明・発表内容の分かりやすさ	1	2	3	4	5
d. 説明・発表内容の正確さ	1	2	3	4	5
e. 情報のオープン性	1	2	3	4	5
f. 専門的な知見に基づく判断・見解の説明	1	2	3	4	5
g. 対応の誠実さ	1	2	3	4	5
h. 責任感・使命感	1	2	3	4	5
i. 情報発信への積極性	1	2	3	4	5
j. 探しやすさ、使いやすさへの配慮	1	2	3	4	5

原子力規制委員会は、「原子力に対する確かな規制を通じて、人と環境を守ること」を使命とし、この使命を果たすため、5つの活動原則（「独立した意思決定」「実効ある行動」「透明で開かれた組織」「向上心と責任感」「緊急時即応」）に沿って職務を遂行しています。

問11 原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。お気持ちに近いものを3つお選びください。

- a. 首相官邸
- b. 原子力規制委員会・原子力規制庁
- c. 文部科学省
- d. 経済産業省・資源エネルギー庁
- e. 環境省
- f. 国際原子力機関(IAEA)
- g. 食品安全委員会
- h. 消費者庁
- i. 厚生労働省
- j. 農林水産省
- k. 気象庁
- l. 警察
- m. 消防
- n. 自衛隊
- o. 都道府県
- p. 市区町村
- q. 電力会社
- r. 専門家(個人ホームページ、出演するテレビ番組等)
- s. テレビ局、ラジオ局、新聞社、雑誌社等報道機関の記者・解説者
- t. インターネット上で流れる情報等(ブログ、フェイスブック、ツイッター、個人ホームページ、検索サイト(google,yahoo等))
- u. 近隣住民、知人、家族
- v. その他(自由記述)
- w. 特になし

問12 原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- | |
|--------------|
| a. とても信頼できる |
| b. ある程度信頼できる |
| c. どちらとも言えない |
| d. あまり信頼できない |
| e. 全く信頼できない |

問13 問12における回答の理由をご記載ください。(任意)

(自由記述)

問14 原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

	とても 関心がある	ある程度 関心がある	あまり 関心がない	関心がない
a. 委員会・審査会合・検討会・記者会見等の中継や録画映像	1	2	3	4
b. 委員会・審査会合・検討会・記者会見等の資料や議事要旨、議事録	1	2	3	4
c. 原子力施設の安全審査の状況や運転状況	1	2	3	4
d. 原子力施設のトラブルに関する情報	1	2	3	4
e. 原子力に関する各種規制の内容	1	2	3	4
f. 原子力災害対策に必要な専門的・技術的な指針(原子力災害対策指針)	1	2	3	4
g. 緊急時における原子力施設や防災対策に関する情報	1	2	3	4
h. 原子力や放射線に関する基礎的な情報	1	2	3	4
i. 福島第一原子力発電所の状況の確認や、汚染水等の拡散防止策等の検討	1	2	3	4
j. 日常的な活動や委員の紹介など	1	2	3	4

原子力規制委員会は、透明性を組織理念に掲げ、ホームページで公開している原子力規制行政に関する重要な情報について、数十年後でも検索及び閲覧を可能とするよう、公開情報管理システム(<https://www.da.nra.go.jp/>)を運用しています。

問15 このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。あてはまるものを1つだけお選びください。

- a. とても重要
- b. 重要
- c. どちらともいえない
- d. あまり重要でない
- e. 重要でない

問16 原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。

- a. 原子力規制委員会などの会議資料
- b. 事業者などとの面談の記録
- c. 記者会見の記録
- d. 発電所別に整理された審査や検査状況の資料
- e. 発電所別に整理された事故やトラブルへの対応の資料
- f. 安全性に関する研究や調査の情報の資料
- g. 審査・検査などに用いる規則・告示・内規・ガイド
- h. 運転期間延長と高経年化対策の情報
- i. 緊急時等への対応の情報
- j. 福島第一原子力発電所に対する取組の情報
- k. 予算や調達に関する情報
- l. 原子力規制委員会の活動報告(年次報告)

問17 2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。

- a. 原子力規制委員会は、東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓に基づき独立した規制機関として設置され、独立性、透明性に十分配慮し規制活動を行ってきました。
- b. IAEA(国際原子力機関)の規制レビュー等により国際的にも業務の評価を受けながら改善を進めているところです。
- c. 設置後10年を経ましたが、原子力規制委員会職員の士気は高く、使命感、責任感を持って業務が実施できていると思います。
- d. しかしながら、今一度組織全体で初心に立ち返り国内外から更に信頼される規制機関となれるよう努力します。
- e. 原子力規制の更なる高みを目指し変化を恐れることなく、改善を続けます。
- f. 過去の事故や新しい知見としっかり向き合い、職員の能力向上や育成にも注力いたします。
- g. 原子力に100%の安全は無いということを肝に銘じながら、慢心すること無く謙虚に規制業務を遂行していきます。

問18 原子力発電所の稼働にあたっては、原子力規制委員会による審査に合格する必要があります。また、稼働をしている原子力発電所は、日常的に原子力規制委員会により検査が行われます。

原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。

	とても期待している	ある程度期待している	どちらとも言えない	あまり期待していない	全く期待していない
a. 原子力に関する専門的な知見	1	2	3	4	5
b. 検査、審査手順の正確な実施	1	2	3	4	5
c. 審査、検査に対する公正な判断	1	2	3	4	5
d. 事業者から独立した判断	1	2	3	4	5
e. 検査や審査状況の公表	1	2	3	4	5
f. 検査や審査結果の公表	1	2	3	4	5
g. 第三者的な評価の実施と結果の公表	1	2	3	4	5

問19 原子力発電所の稼働にあたっては、原子力規制委員会による審査に合格する必要があります。また、稼働をしている原子力発電所は、日常的に原子力規制委員会により検査が行われます。

原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現が難しいと思いますか。

	とても難しいと思います	やや難しいと思います	どちらとも言えない	やや容易であると思います	とても容易であると思います
a. 原子力に関する専門的な知見	1	2	3	4	5
b. 検査、審査手順の正確な実施	1	2	3	4	5
c. 審査、検査に対する公正な判断	1	2	3	4	5
d. 事業者から独立した判断	1	2	3	4	5
e. 検査や審査状況の公表	1	2	3	4	5
f. 検査や審査結果の公表	1	2	3	4	5
g. 第三者的な評価の実施と結果の公表	1	2	3	4	5

問20 運転開始から 40 年を迎える原子力発電所については電気事業者が延長認可申請を原子力規制委員会に提出し、原子力規制委員会が 20 年後も新規制基準を満たすと認めれば最長 60 年まで運転できます。

今後、原子力規制委員会は原子力発電所の 60 年超の稼働も念頭に置いた審査方法の見直しを進める予定です。現行は運転開始後 40 年を迎えた時点で 1 回だけ審査を実施することになっていますが、今後は 30 年目から 10 年間隔で経年劣化や安全性を繰り返し厳しく確認する方針です。

原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを 3 つお選びください。

- a. 原子力規制委員が政治や原子力の利用政策から独立して判断すること
- b. 原子力規制委員会が厳格な基準を策定すること
- c. 原子力規制委員会が技術的知見に基づききちんと審査や検査をすること
- d. 原子力規制委員会が透明性を持って審査や検査の途中経過を公表すること
- e. 原子力規制委員会が透明性を持って審査や検査の結果を公表すること
- f. 原子力規制委員会が第三者の意見を聞くこと
- g. そもそも原子力規制委員会は運転期間の延長を認めるべきではない

以上

付録 B 原子力規制委員会の情報発信に 関するアンケート 調査結果

- 1. 調査結果(地域間での比較)**
- 2. 調査結果(経年での比較)**

目次

図 1-1 問 1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」地域別の回答結果.....	4
図 1-2 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。」地域別の回答結果.....	5
図 1-3 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(http://www.nra.go.jp/)を見たことがありますか。」地域別の回答結果.....	6
図 1-4 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」地域別の回答結果.....	7
図 1-5 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」地域別の回答結果.....	8
図 1-6 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」地域別の回答結果.....	8
図 1-7 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」地域別の回答結果.....	9
図 1-8 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」地域別の回答結果.....	9
図 1-9 問 9「現在の原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。」地域別の回答結果.....	10
図 1-10 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。」地域別の回答結果.....	11
図 1-11 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」地域別の回答結果.....	12
図 1-12 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」地域別の回答結果.....	13
図 1-13 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。」地域別の回答結果.....	14
図 1-14 問 15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」地域別の回答結果.....	15
図 1-15 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。」地域別の回答結果.....	16
図 1-16 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」地域別の回答結果.....	17
図 1-17 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」地域別の回答結果.....	18
図 1-18 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現がむずかしいと思いますか。」地域別の回答結果.....	19
図 1-19 問 20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、	

特に重要と思うものを3つお選びください。」地域別の回答結果	20
図 2-1 問 1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」経年別の回答結果	22
図 2-2 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。」経年別の回答結果	23
図 2-3 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(http://www.nra.go.jp/)を見たことがありますか。」経年別の回答結果	24
図 2-4 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」経年別の回答結果	25
図 2-5 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」経年別の回答結果	26
図 2-6 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」経年別の回答結果	27
図 2-7 問 7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」経年別の回答結果	27
図 2-8 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」経年別の回答結果	28
図 2-9 問 9「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。」経年別の回答結果	29
図 2-10 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。」経年別の回答結果	30
図 2-11 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」経年別の回答結果	31
図 2-12 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」経年別の回答結果	32
図 2-13 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。」経年別の回答結果	33
図 2-14 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」経年別の回答結果	34
図 2-15 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現が難しいと思いますか。」経年別の回答結果	35

1. 調査結果(地域間での比較)

地域間の比較結果を示す。全国と原子力施設立地・周辺自治体、電力消費地域との比較を行った。各地域の分類は本編の3章 表 3-1に記載した。

図 1-1 に問 1 の地域別の集計結果を示す。なお、選択肢7「原子力規制委員長による定例の記者会見を週1回、事務方による定例ブリーフィングを週2回実施していること」は、今年度から追加された。

全国(n=7,100)
 原子力施設立地・周辺自治体(n=3,173)
 電力消費地域(n=453)

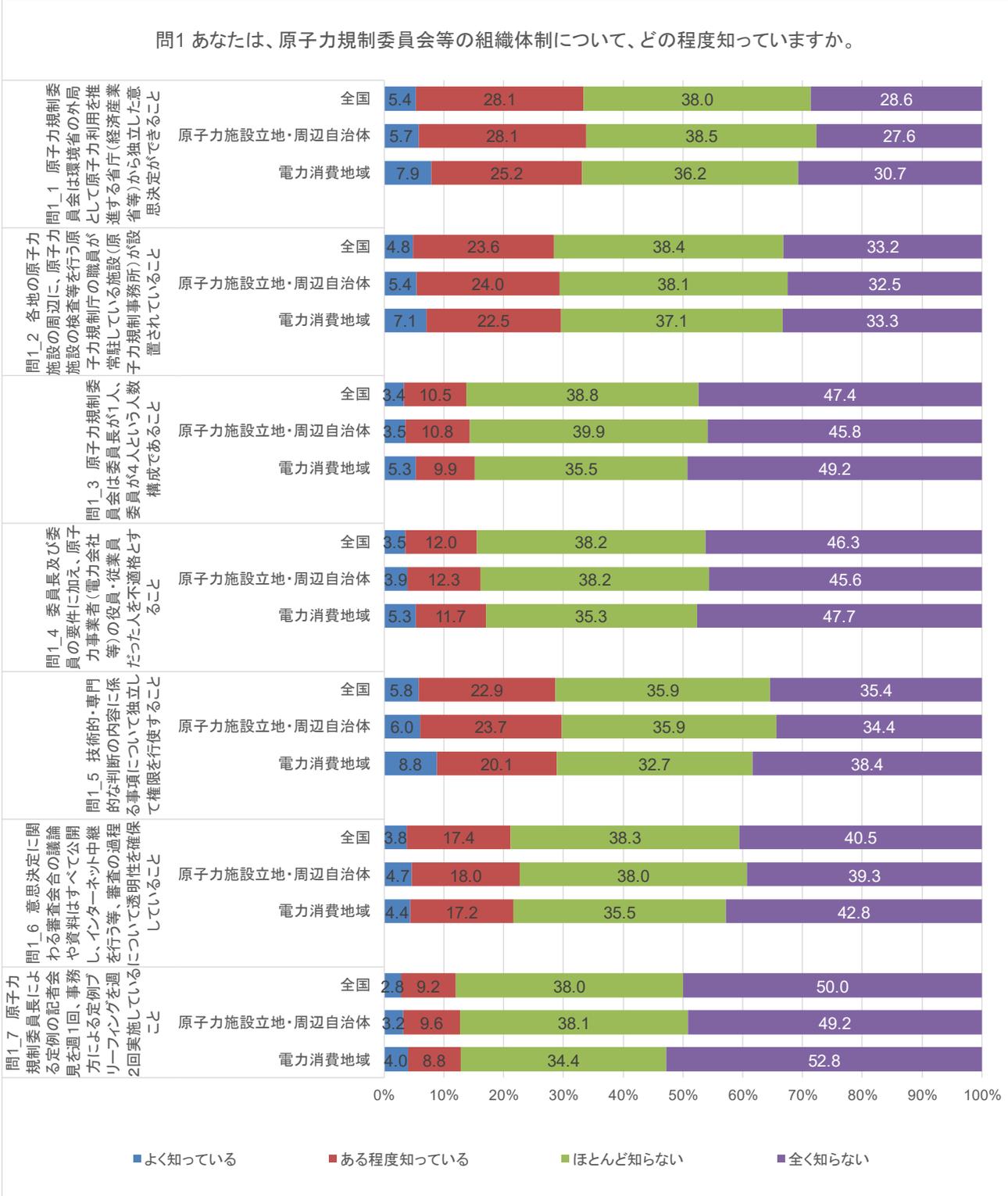


図 1-1 問1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」地域別の回答結果

図 1-2 に問 2 の地域別の集計結果を示す。

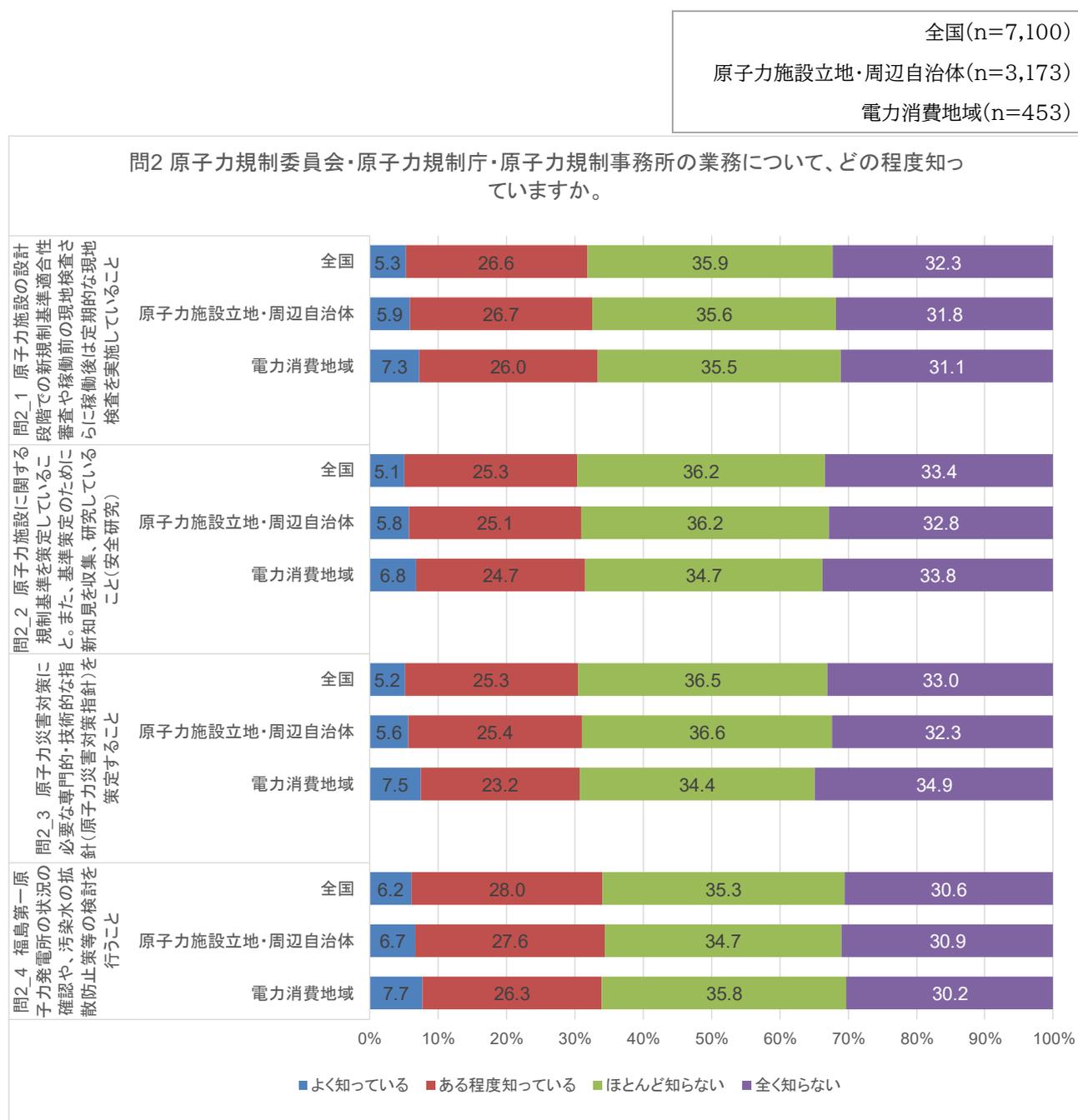


図 1-2 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。」地域別の回答結果

図 1-3 に問 3 の地域別の集計結果を示す。

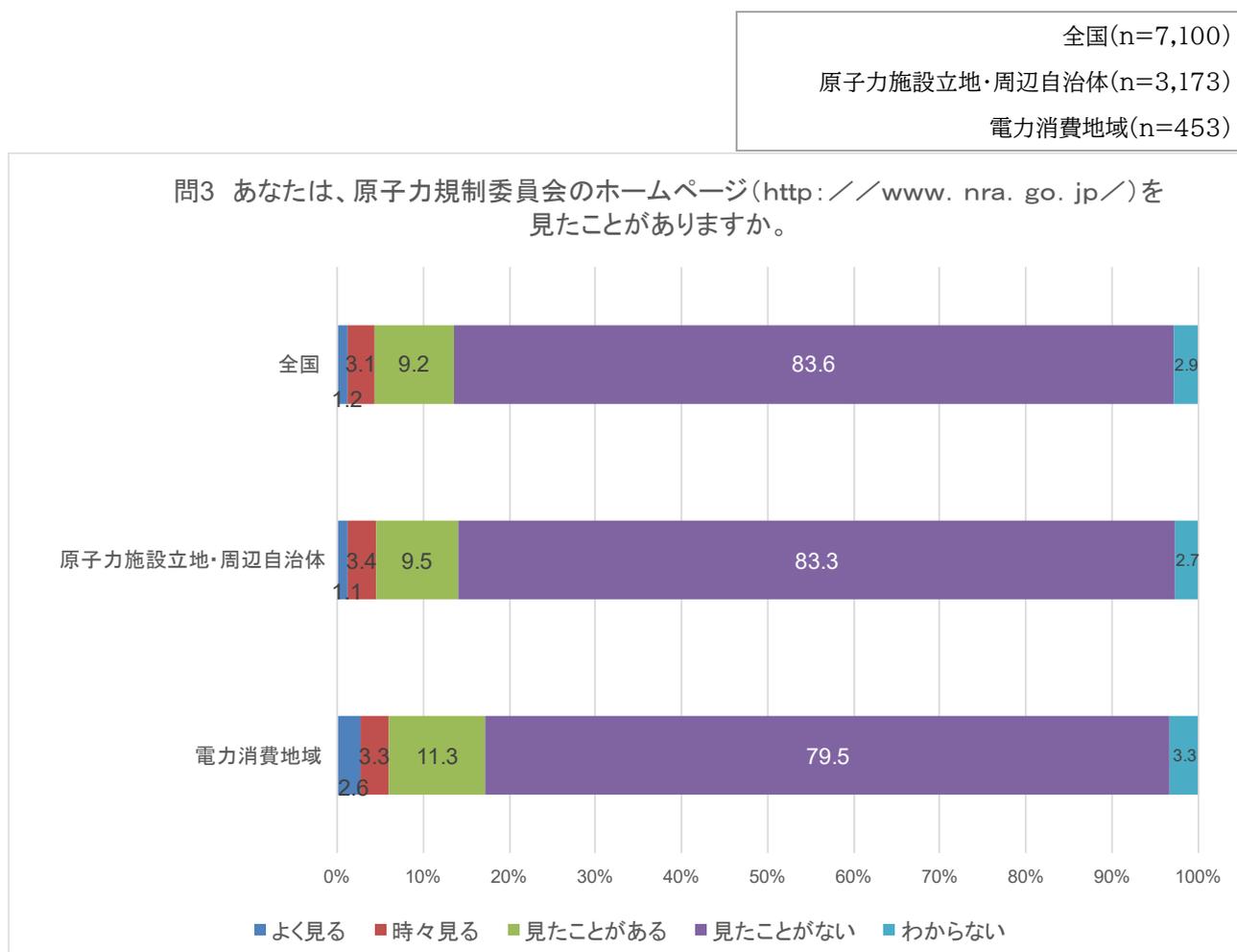


図 1-3 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(<http://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。」地域別の回答結果

図 1-4 に問 4 の地域別の集計結果を示す。

ここでは、問 3 において、“よく見る”、“時々見る”、“見たことがある”を選択した回答者のみを対象としている。

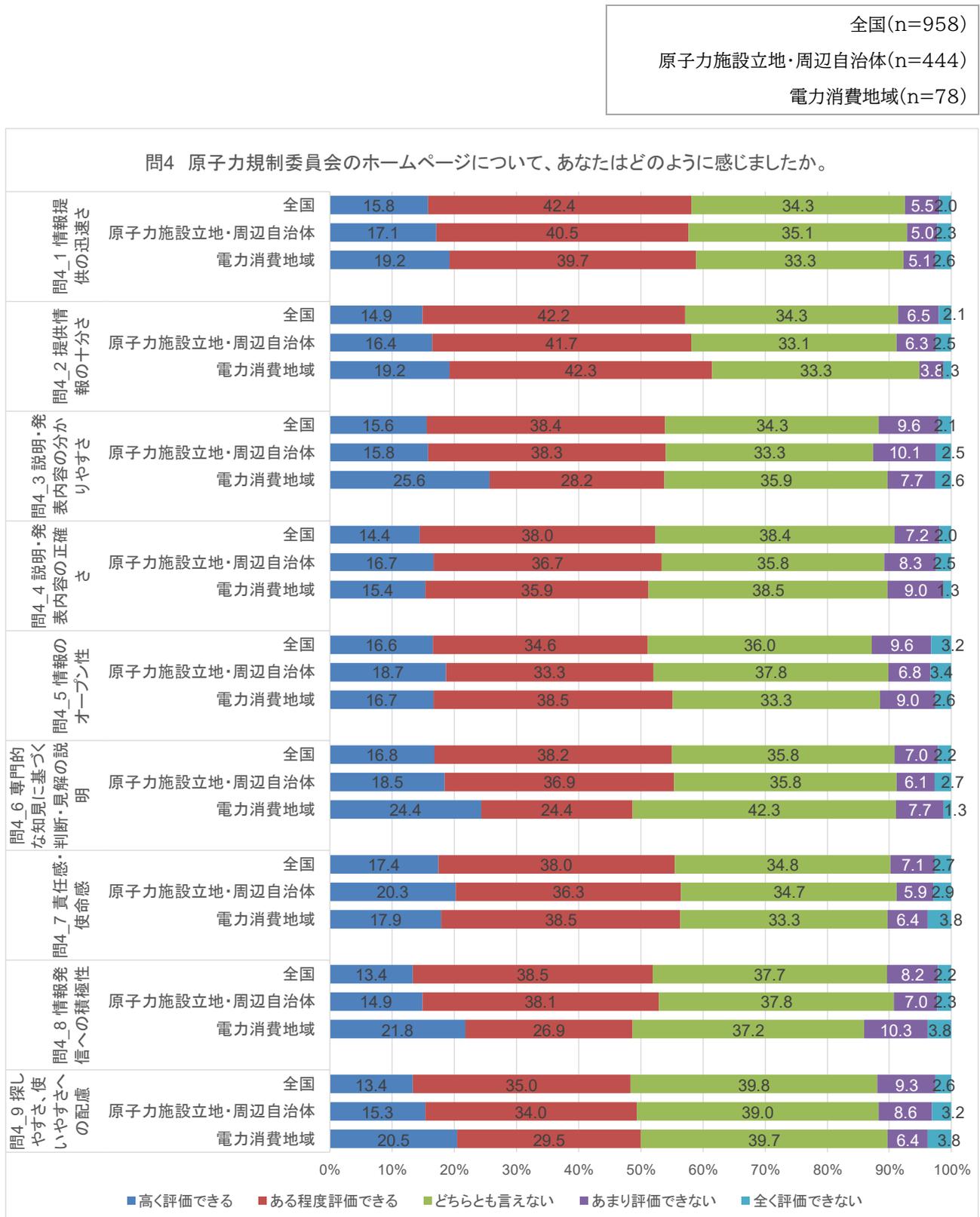


図 1-4 問4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」地域別の回答結果

図 1-5 に問 5 の地域別の集計結果を示す。

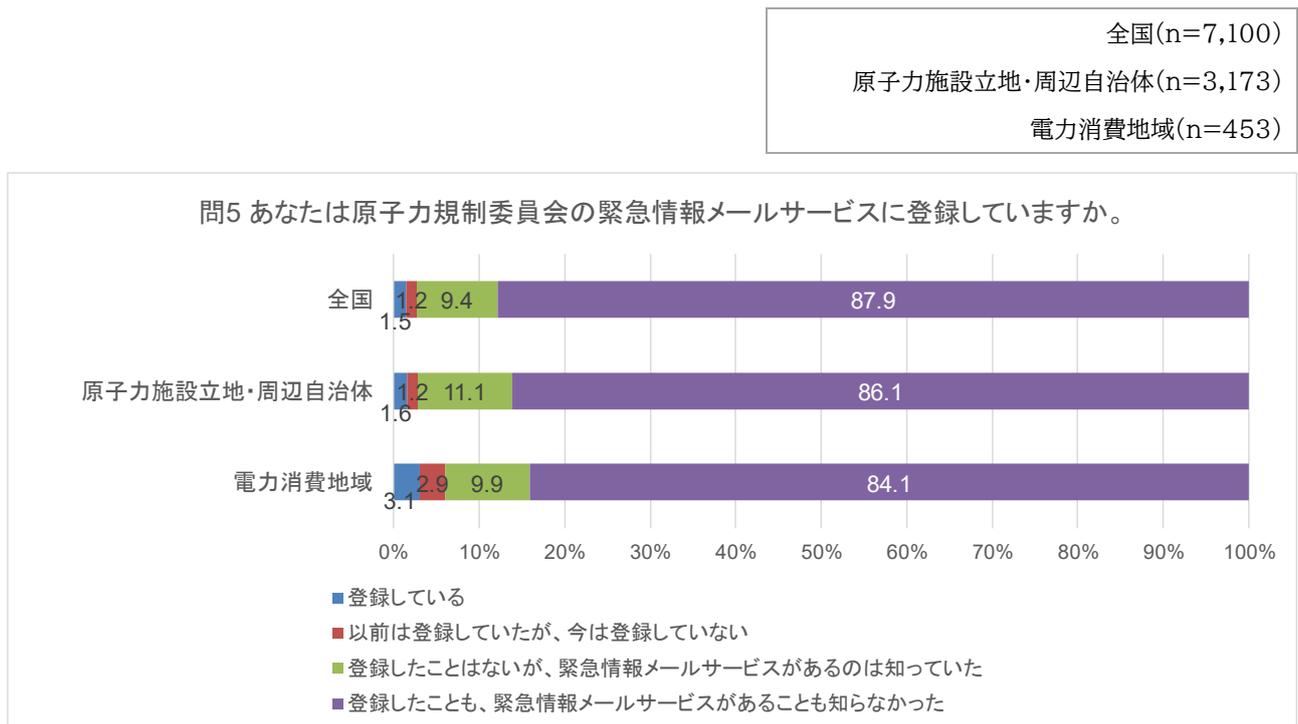


図 1-5 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」地域別の回答結果

図 1-6 に問 6 の地域別の集計結果を示す。ここでは、問 5 において、“登録したことはないが、緊急情報メールサービスがあるのは知っていた”、“登録したことも、緊急情報メールサービスがあることも知らなかった”を選択した回答者のみを対象としている。

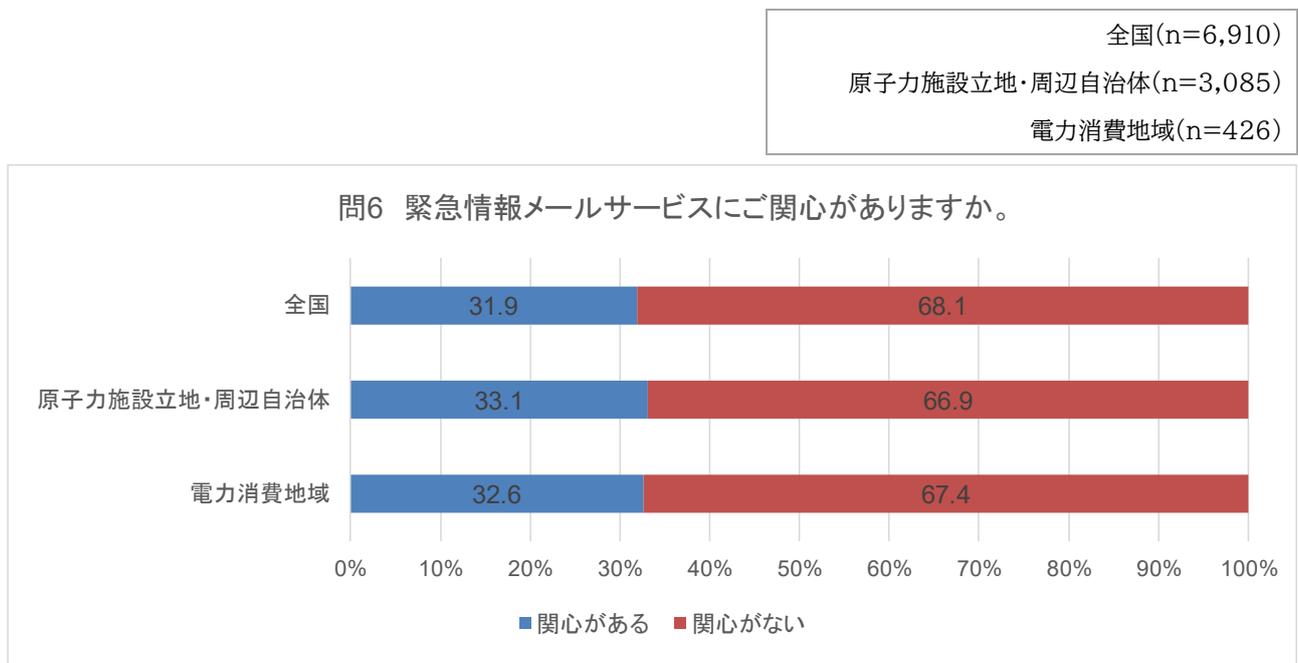


図 1-6 問 6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」地域別の回答結果

図 1-7 に問 7 の地域別の集計結果を示す。

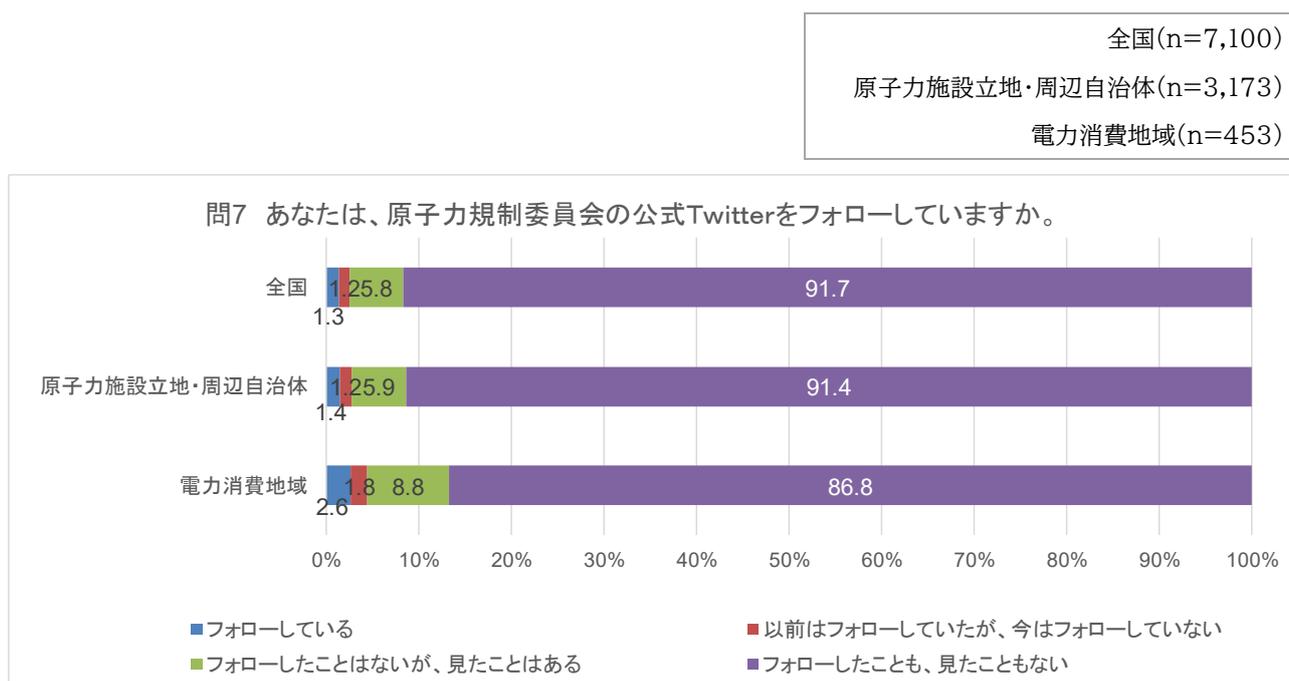


図 1-7 問7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」地域別の回答結果

図 1-8 に問 8 の地域別の集計結果を示す。

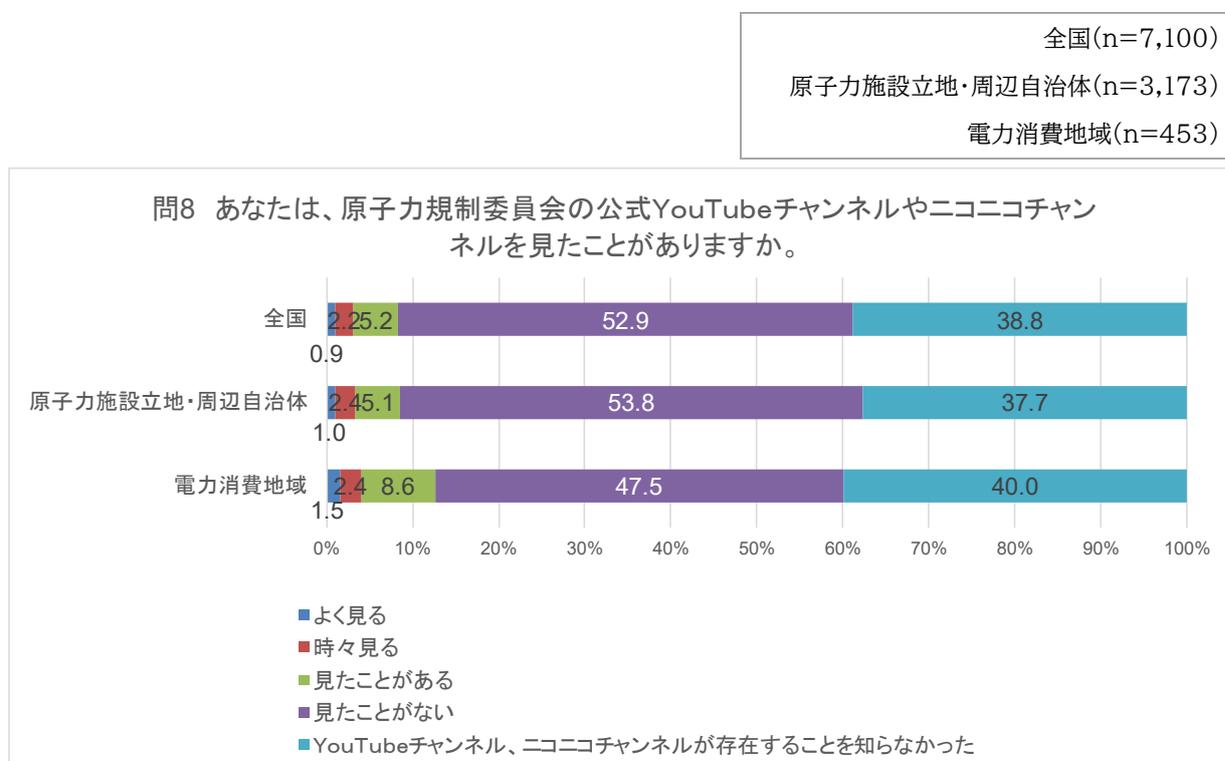


図 1-8 問8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」地域別の回答結果

図 1-9 に問 9 の地域別の集計結果を示す。

全国(n=7,100)
 原子力施設立地・周辺自治体(n=3,173)
 電力消費地域(n=453)

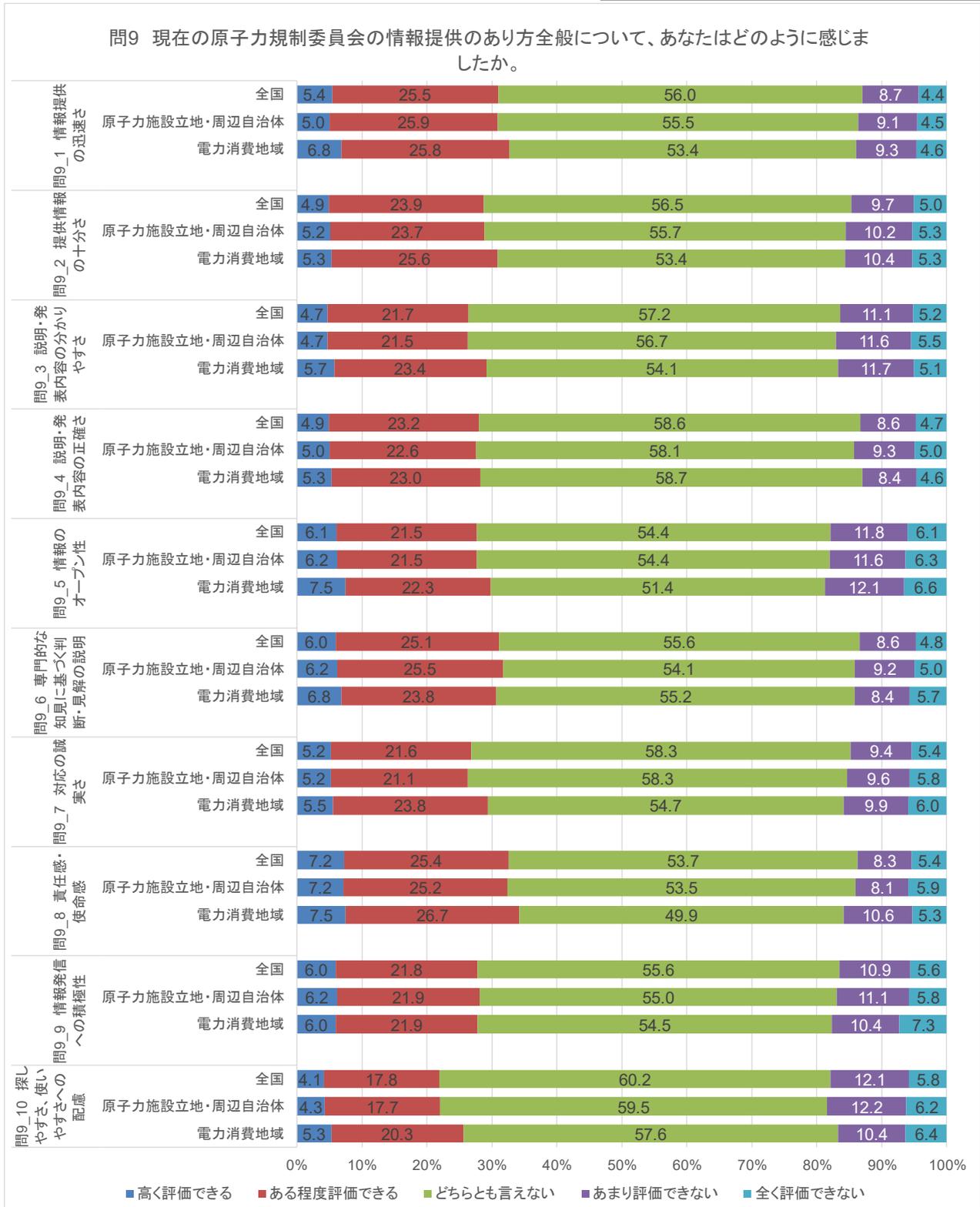


図 1-9 問 9「現在の原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。」地域別の回答結果

図 1-10 に問 10 の地域別の集計結果を示す。

全国(n=7,100)
 原子力施設立地・周辺自治体(n=3,173)
 電力消費地域(n=453)

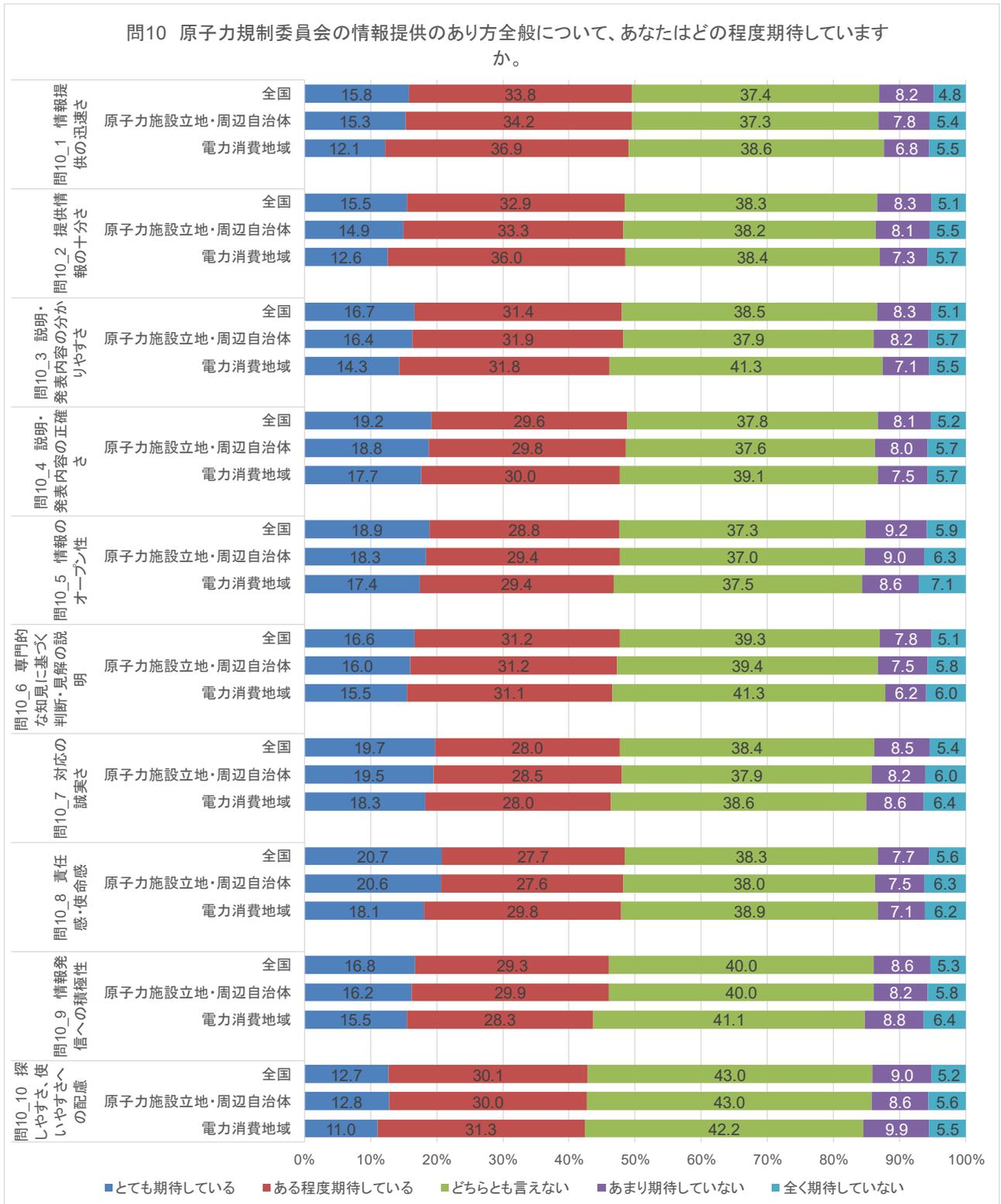


図 1-10 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。」地域別の回答結果

図 1-11 に問 11 の地域別の集計結果を示す。なお、“経済産業省・資源エネルギー庁”の選択肢は、平成 28 年度調査では“経済産業省”として設定されていたことに留意が必要である。

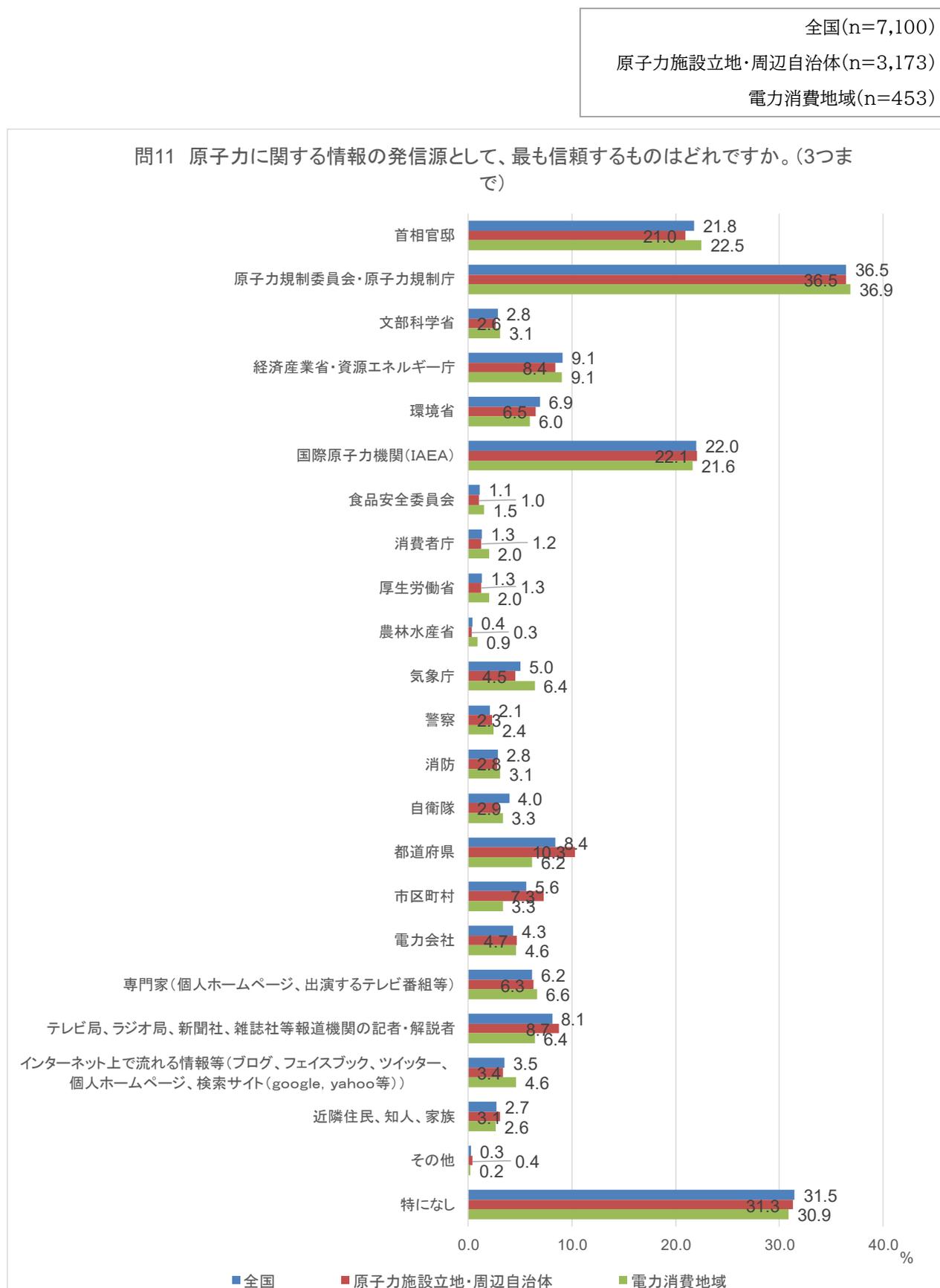


図 1-11 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」地域別の回答結果

図 1-12 に問 12 の地域別の集計結果を示す。

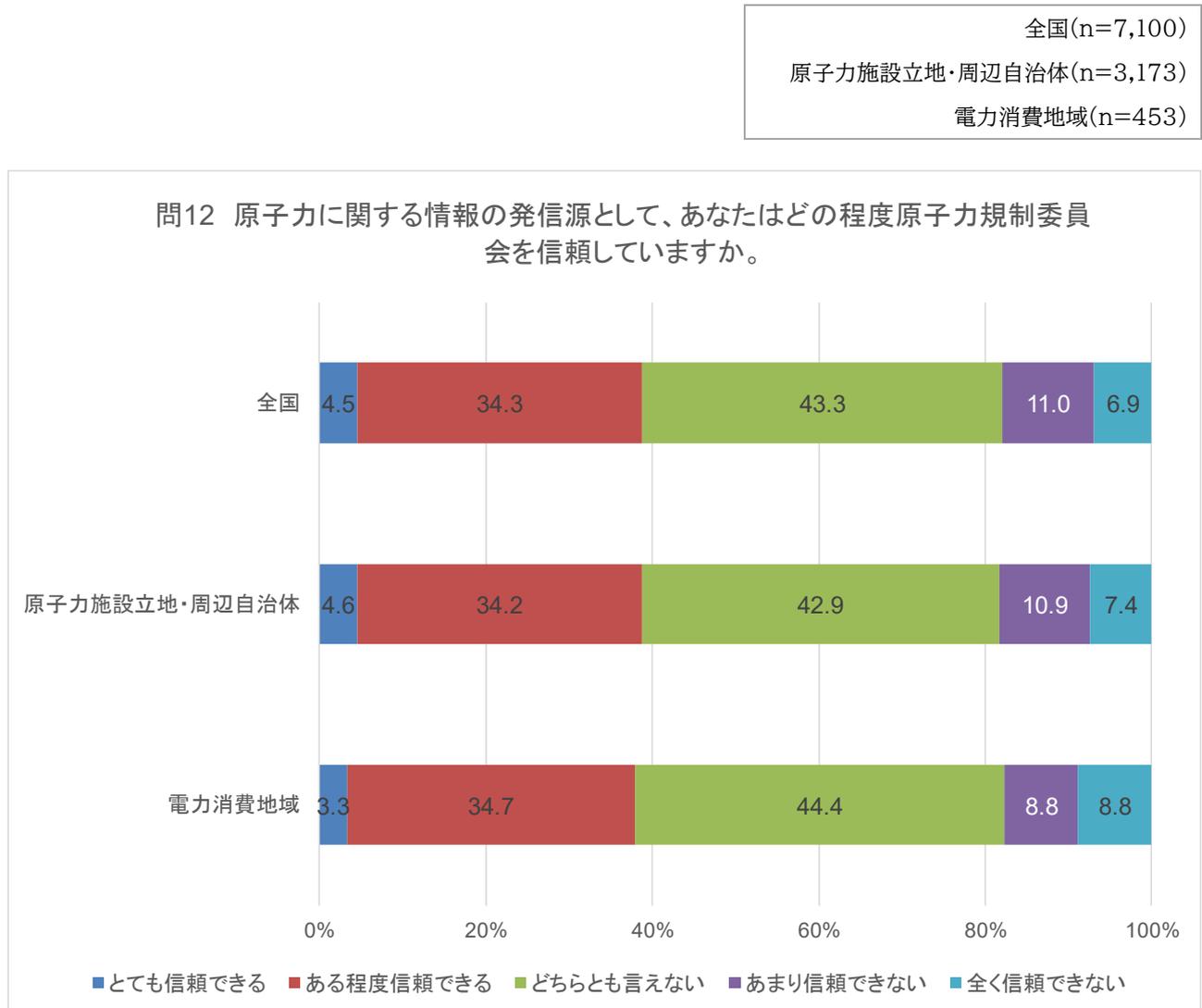


図 1-12 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」地域別の回答結果

図 1-13 に問 14 の地域別の集計結果を示す。

全国(n=7,100)
 原子力施設立地・周辺自治体(n=3,173)
 電力消費地域(n=453)

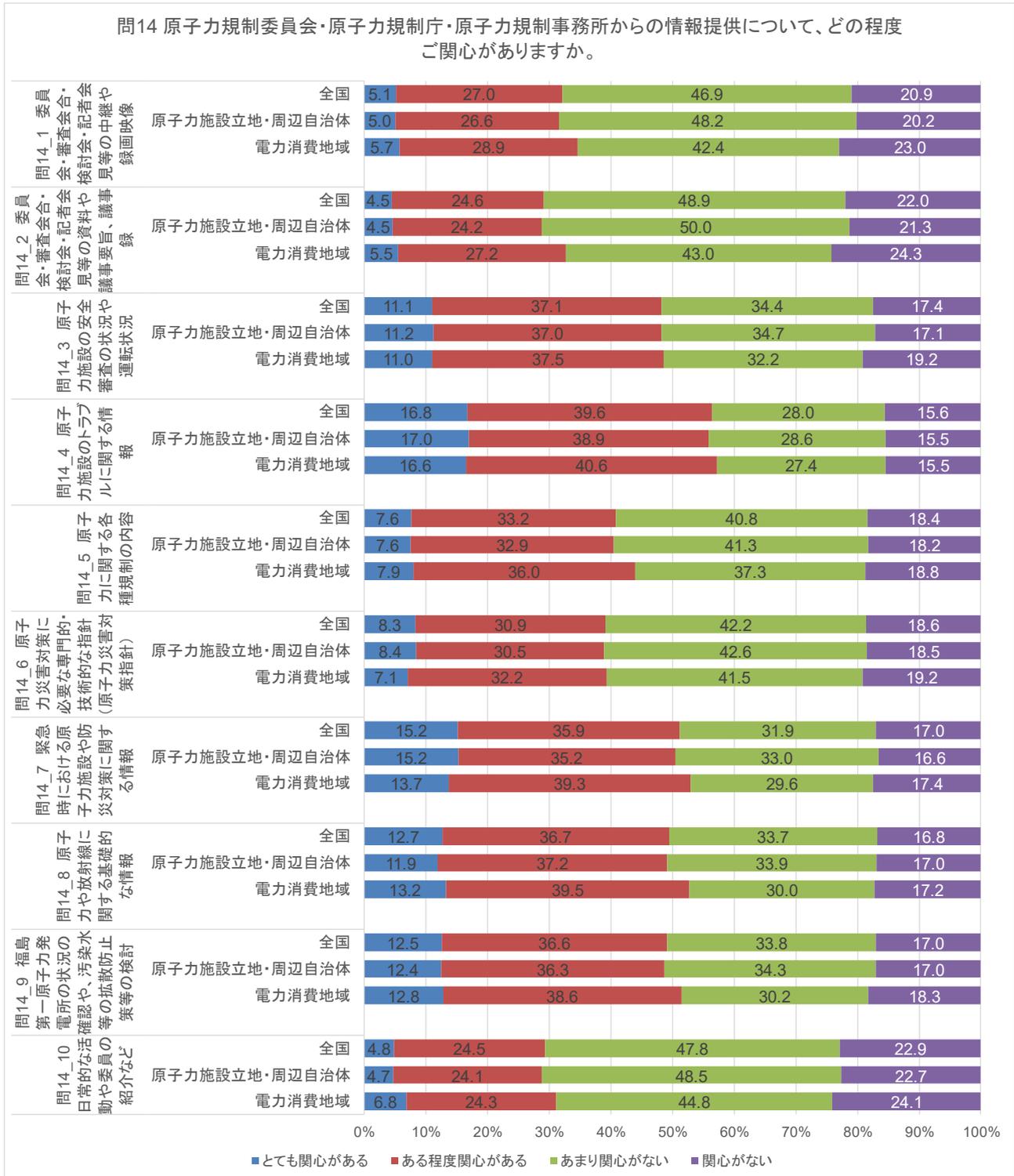


図 1-13 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。」地域別の回答結果

図 1-14 に問 15 の地域別の集計結果を示す。問 15 は本年度に新設した設問で、以下を説明した上で情報公開の取組について質問している。

原子力規制委員会は、透明性を組織理念に掲げ、ホームページで公開している原子力規制行政に関する重要な情報について、数十年後でも検索及び閲覧を可能とするよう、公開情報管理システム (<https://www.da.nra.go.jp/>) を運用しています。

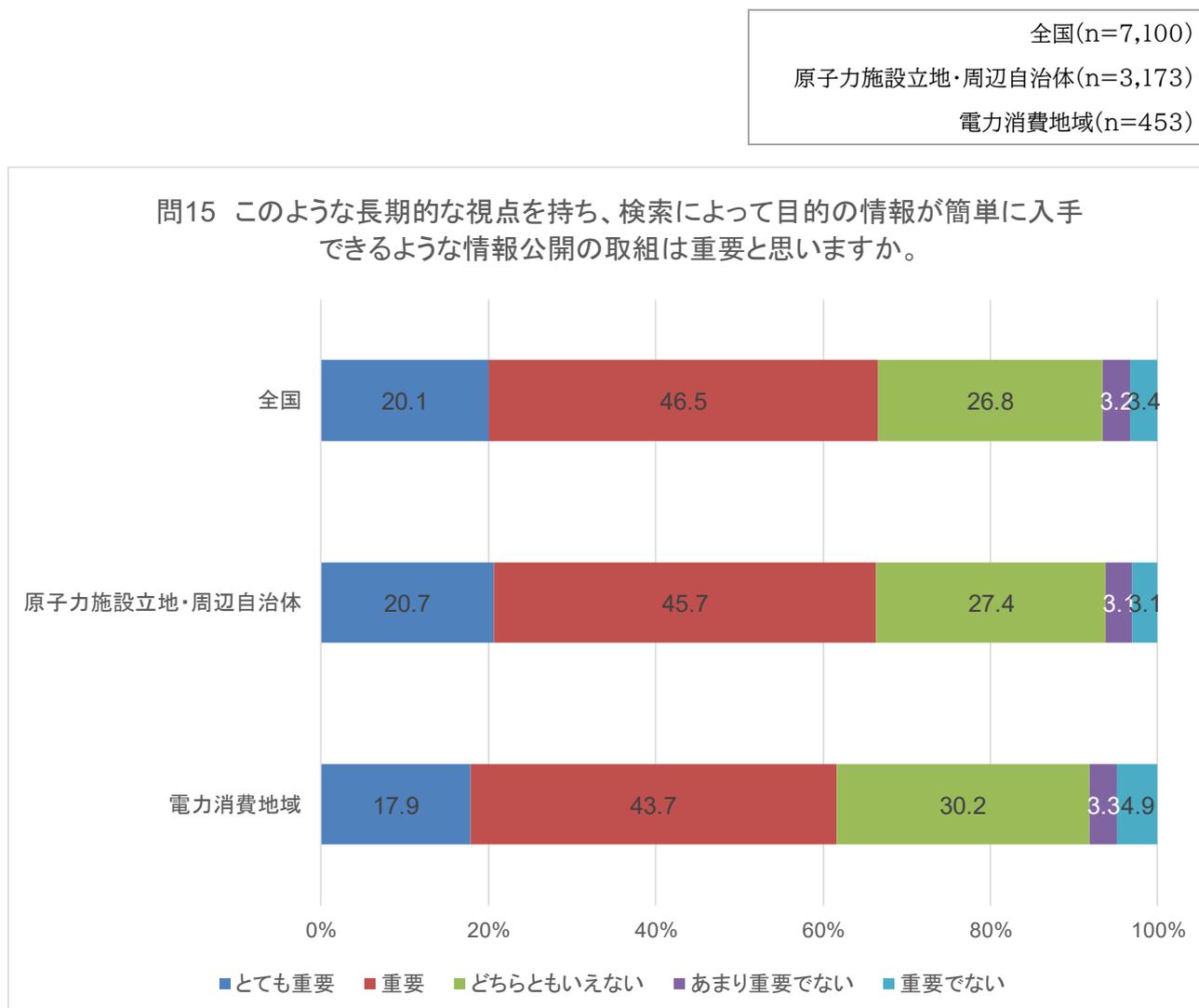


図 1-14 問 15「このような長期的な視点を持ち、検索によって目的の情報が簡単に入手できるような情報公開の取組は重要と思いますか。」地域別の回答結果

図 1-15 に問 16 の地域別の集計結果を示す。問 16 は本年度に新設した設問である。

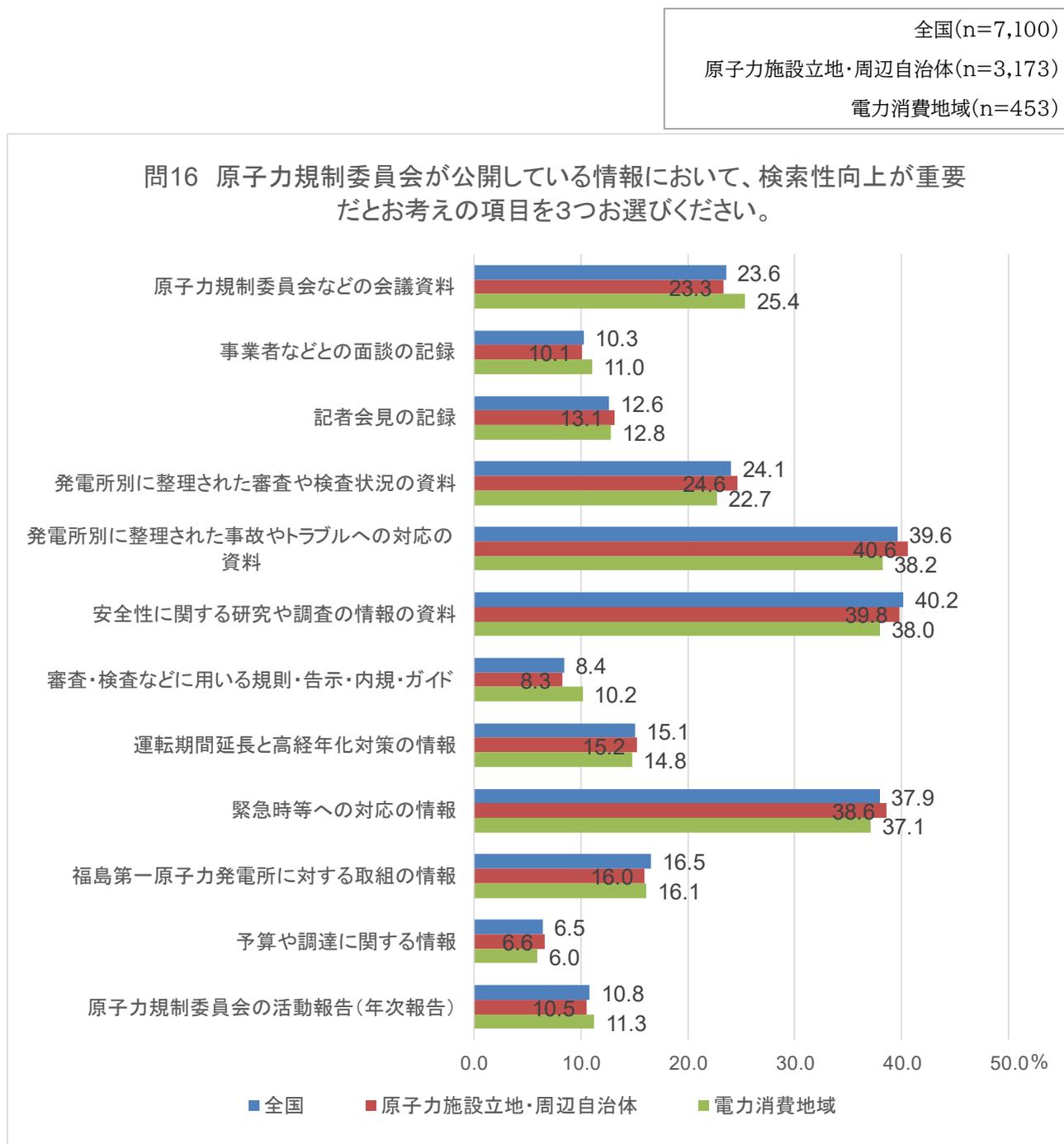


図 1-15 問 16「原子力規制委員会が公開している情報において、検索性向上が重要だとお考えの項目を3つお選びください。」地域別の回答結果

図 1-16 に問 17 の地域別の集計結果を示す。問 17 は本年度に新設した設問である。

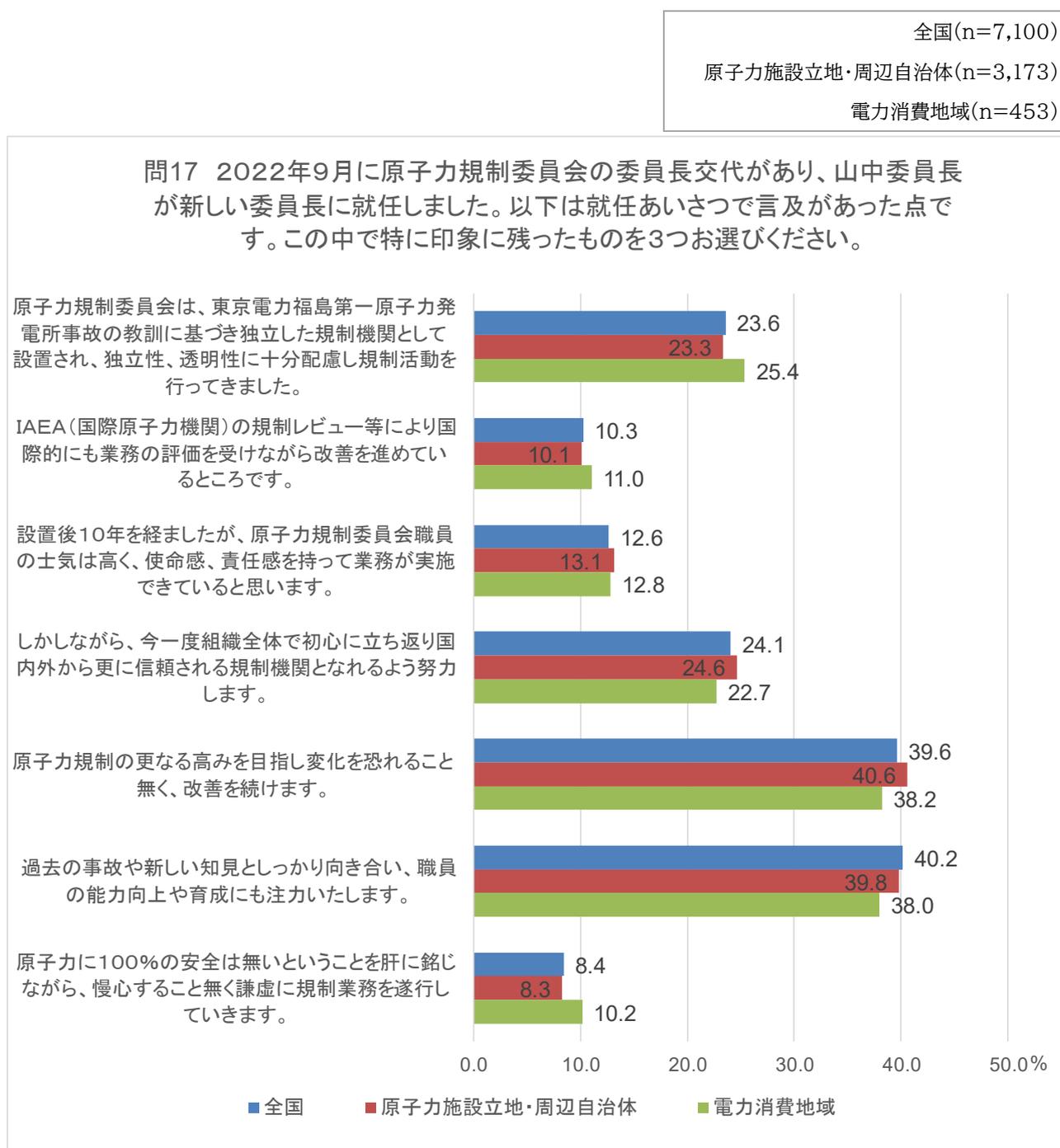


図 1-16 問 17「2022年9月に原子力規制委員会の委員長交代があり、山中委員長が新しい委員長に就任しました。以下は就任あいさつで言及があった点です。この中で特に印象に残ったものを3つお選びください。」地域別の回答結果

図 1-17 に問 18 の地域別の集計結果を示す。

全国(n=7,100)
 原子力施設立地・周辺自治体(n=3,173)
 電力消費地域(n=453)

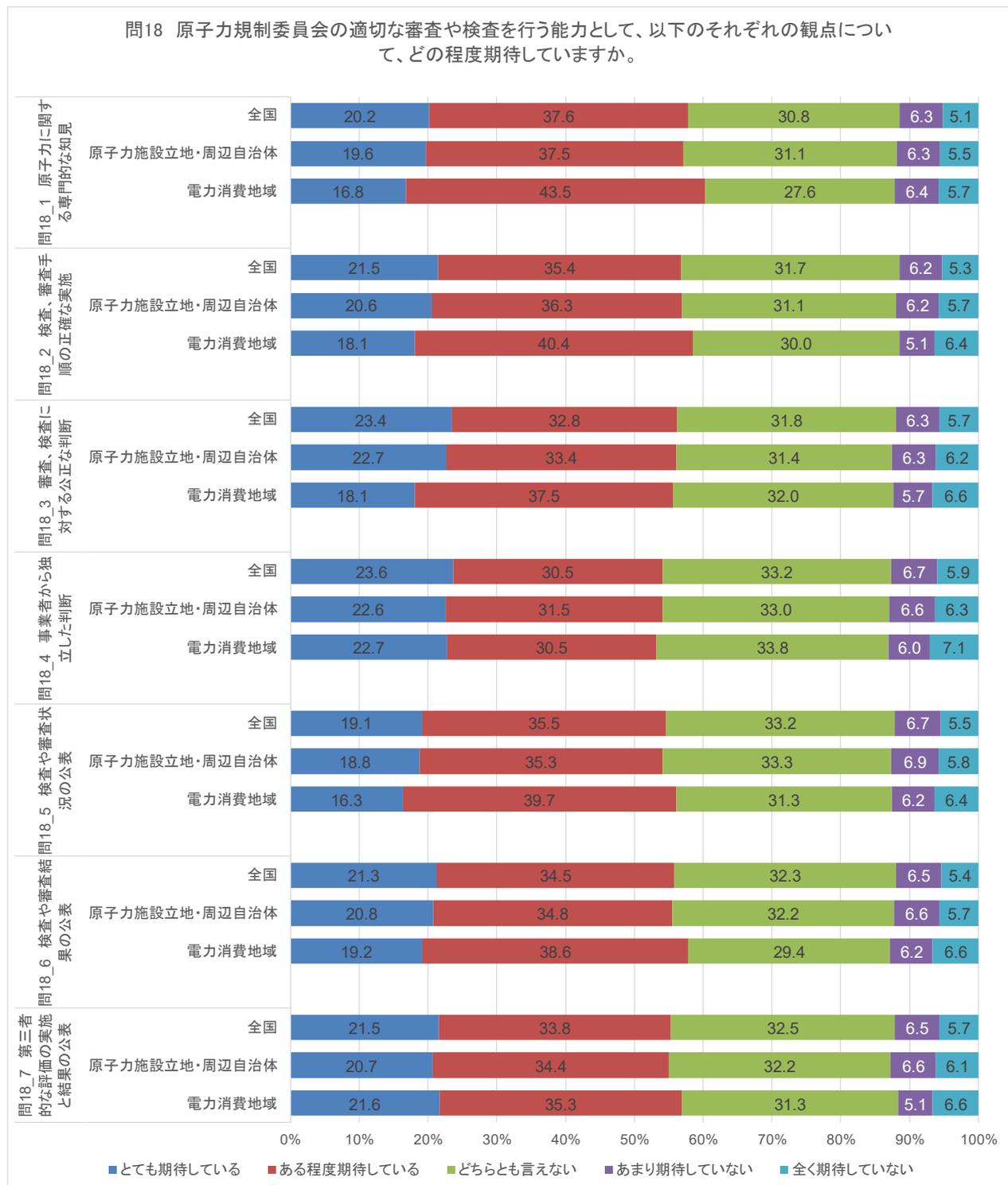


図 1-17 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」地域別の回答結果

図 1-18 に問 19 の地域別の集計結果を示す。

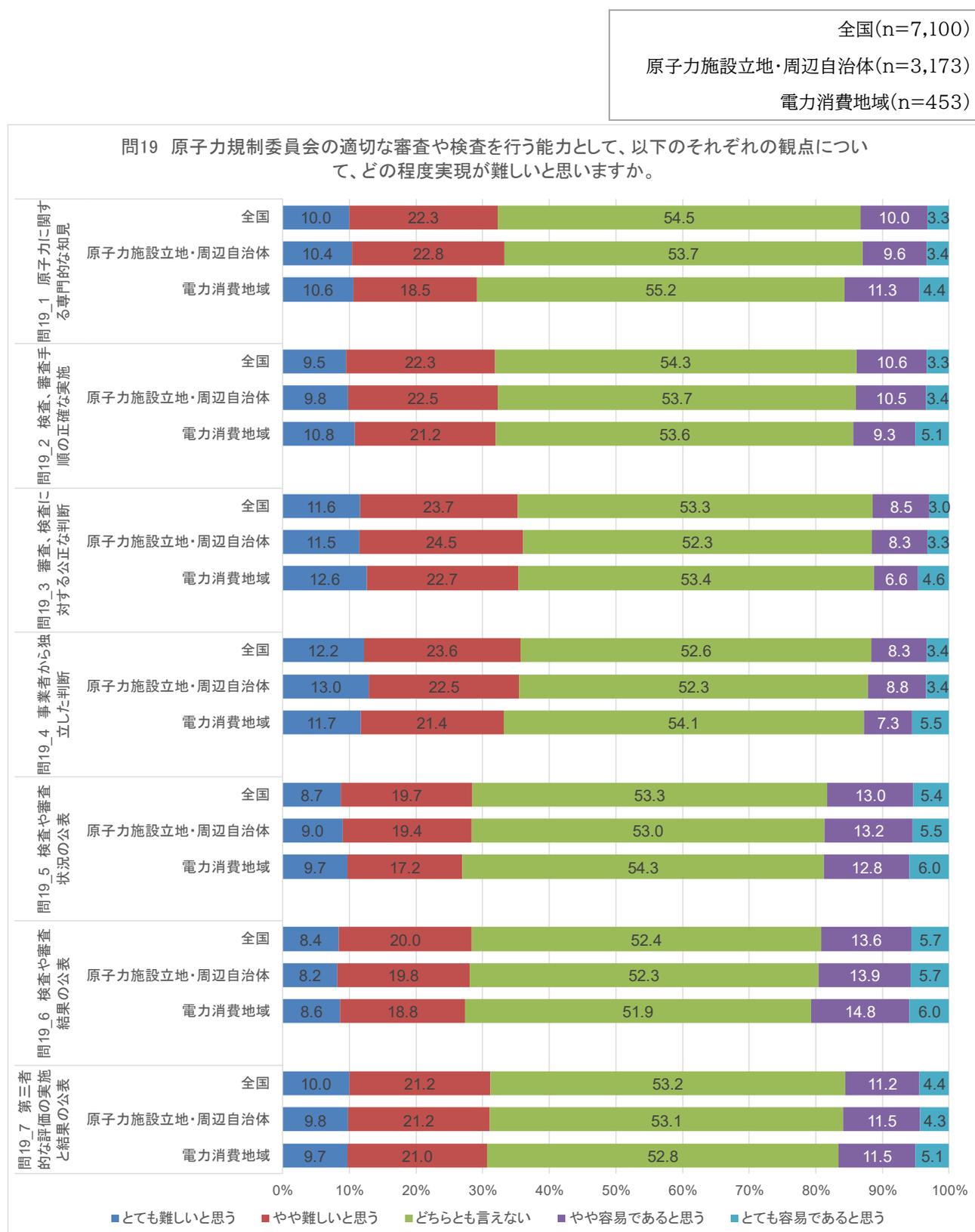


図 1-18 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現がむずかしいと思いますか。」地域別の回答結果

図 1-19 に問 20 の地域別の集計結果を示す。問 20 は本年度に新設した設問であり、以下を説明した上で質問をしている。

運転開始から 40 年を迎える原子力発電所については電気事業者が延長認可申請を原子力規制委員会に提出し、原子力規制委員会が 20 年後も新規制基準を満たすと認めれば最長 60 年まで運転できます。

今後、原子力規制委員会は原子力発電所の 60 年超の稼働も念頭に置いた審査方法の見直しを進める予定です。現行は運転開始後 40 年を迎えた時点で 1 回だけ審査を実施することになっていますが、今後は 30 年目から 10 年間隔で経年劣化や安全性を繰り返し厳しく確認する方針です。

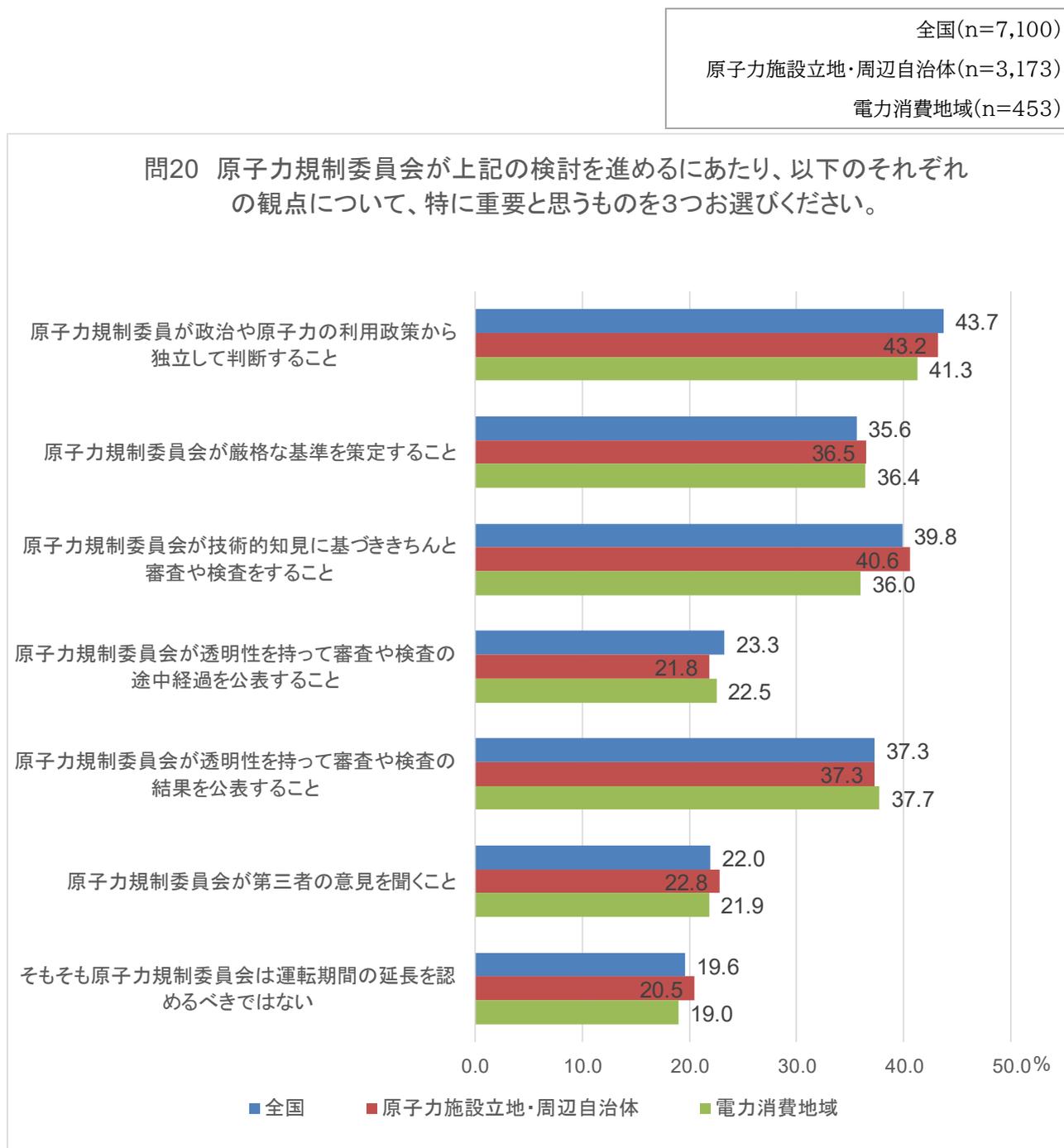


図 1-19 問 20「原子力規制委員会が上記の検討を進めるにあたり、以下のそれぞれの観点について、特に重要と思うものを3つお選びください。」地域別の回答結果

2. 調査結果(経年での比較)

全国を対象に調査を実施した平成 28 年度から今年度までの結果を整理した(問 15～問 17、問 20 は本年度から新設の質問であるためグラフの掲載はない)。

図 2-1 に問 1 の経年比較の集計結果を示す。なお、選択肢7「原子力規制委員長による定例の記者会見を週1回、事務方による定例ブリーフィングを週2回実施していること」は今年度新たに追加したため、選択肢7は経年での比較はしていない。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102) R1(n=7,102)
H30(n=7,102) H29(n=7,101) H28(n=7,075)



図 2-1 問1「あなたは、原子力規制委員会等の組織体制について、どの程度知っていますか。」経年別の回答結果

図 2-2 に問 2 の経年比較の集計結果を示す。

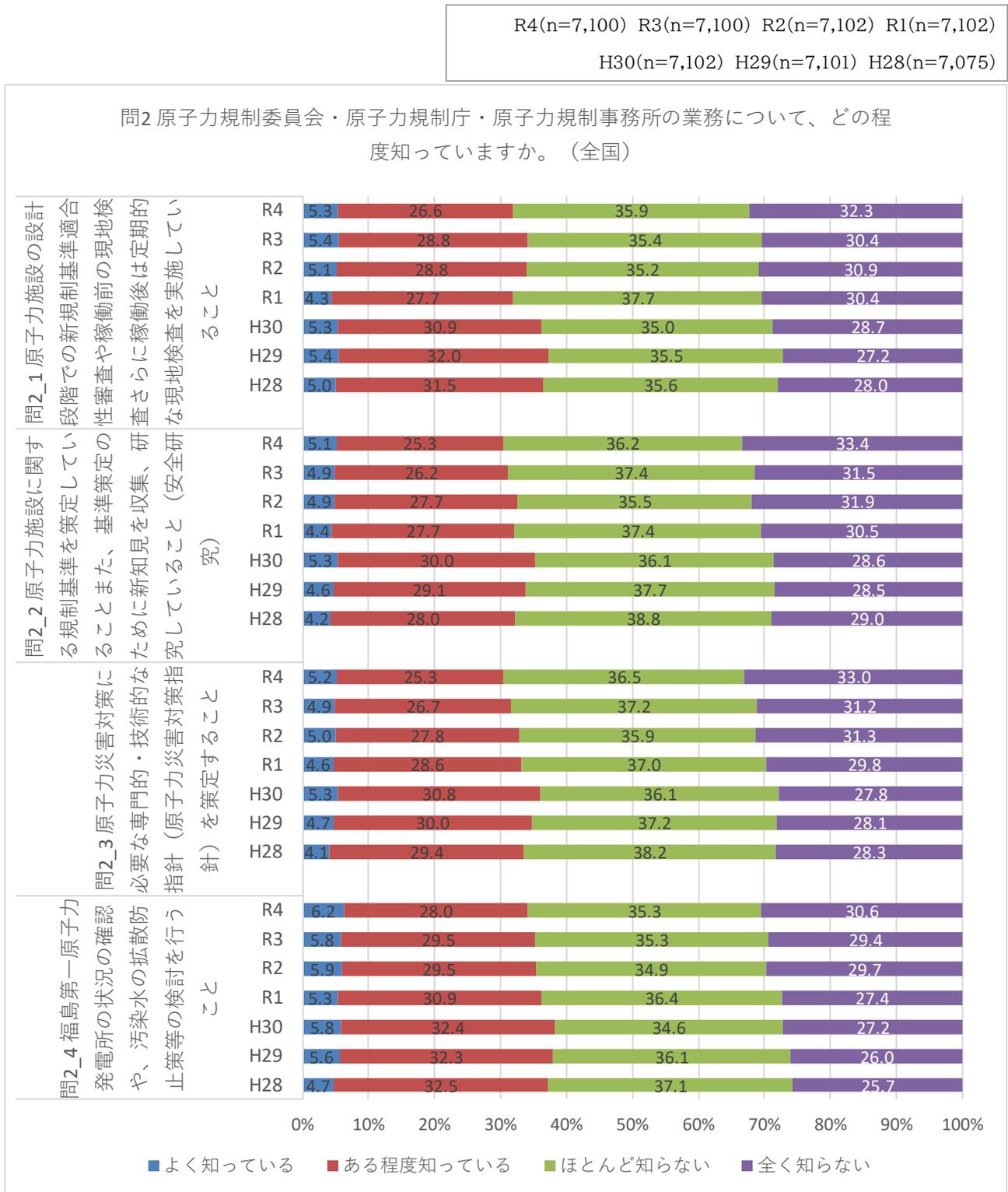


図 2-2 問 2「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所の業務について、どの程度知っていますか。」経年別の回答結果

図 2-3 に問 3 の経年比較の集計結果を示す。

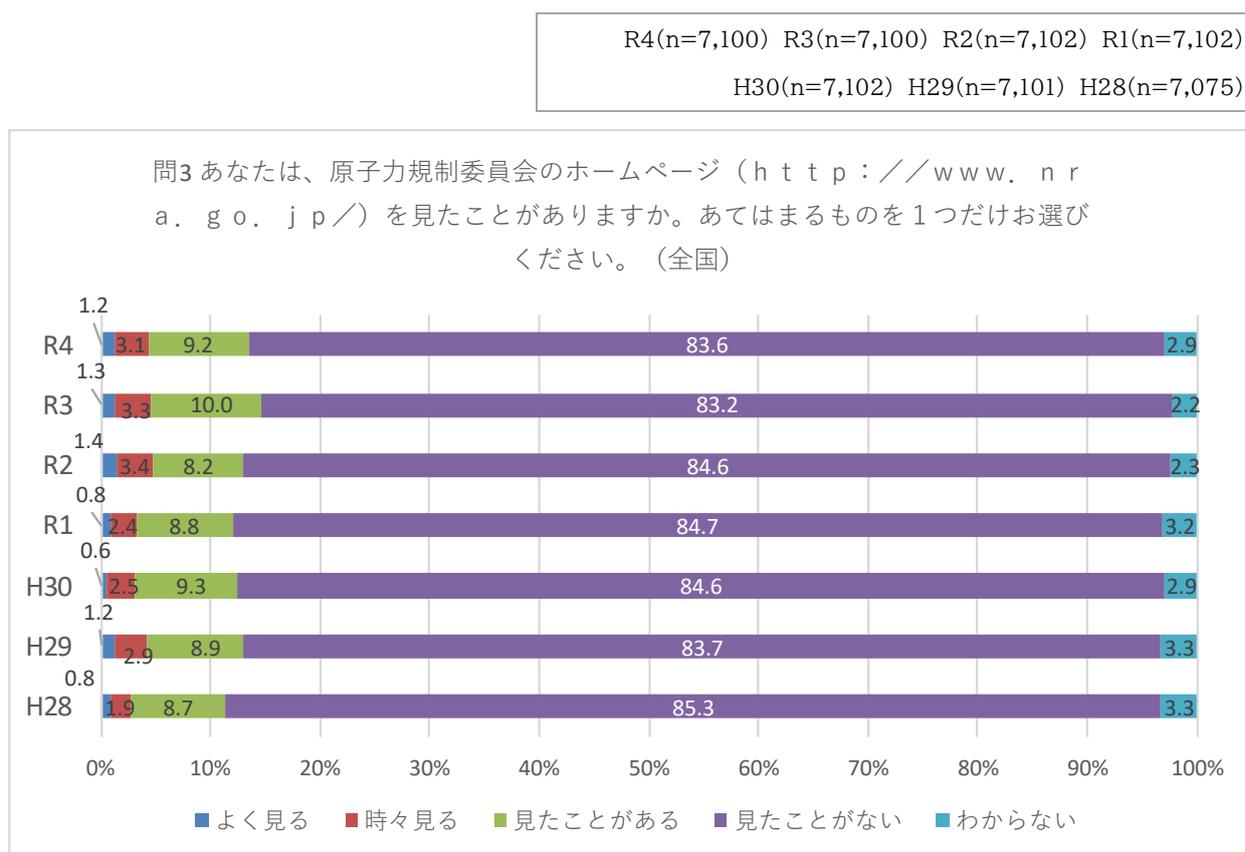


図 2-3 問 3「あなたは、原子力規制委員会のホームページ(<http://www.nra.go.jp/>)を見たことがありますか。」経年別の回答結果

図 2-4 に問 4 の経年比較の集計結果を示す。ここでは、問 3 において、“よく見る”、“時々見る”、“見たことがある”を選択した回答者のみを対象としている。

R4(n=958) R3(n=1,040) R2(n=926) R1(n=854)
H30(n=882) H29(n=921) H28(n=806)

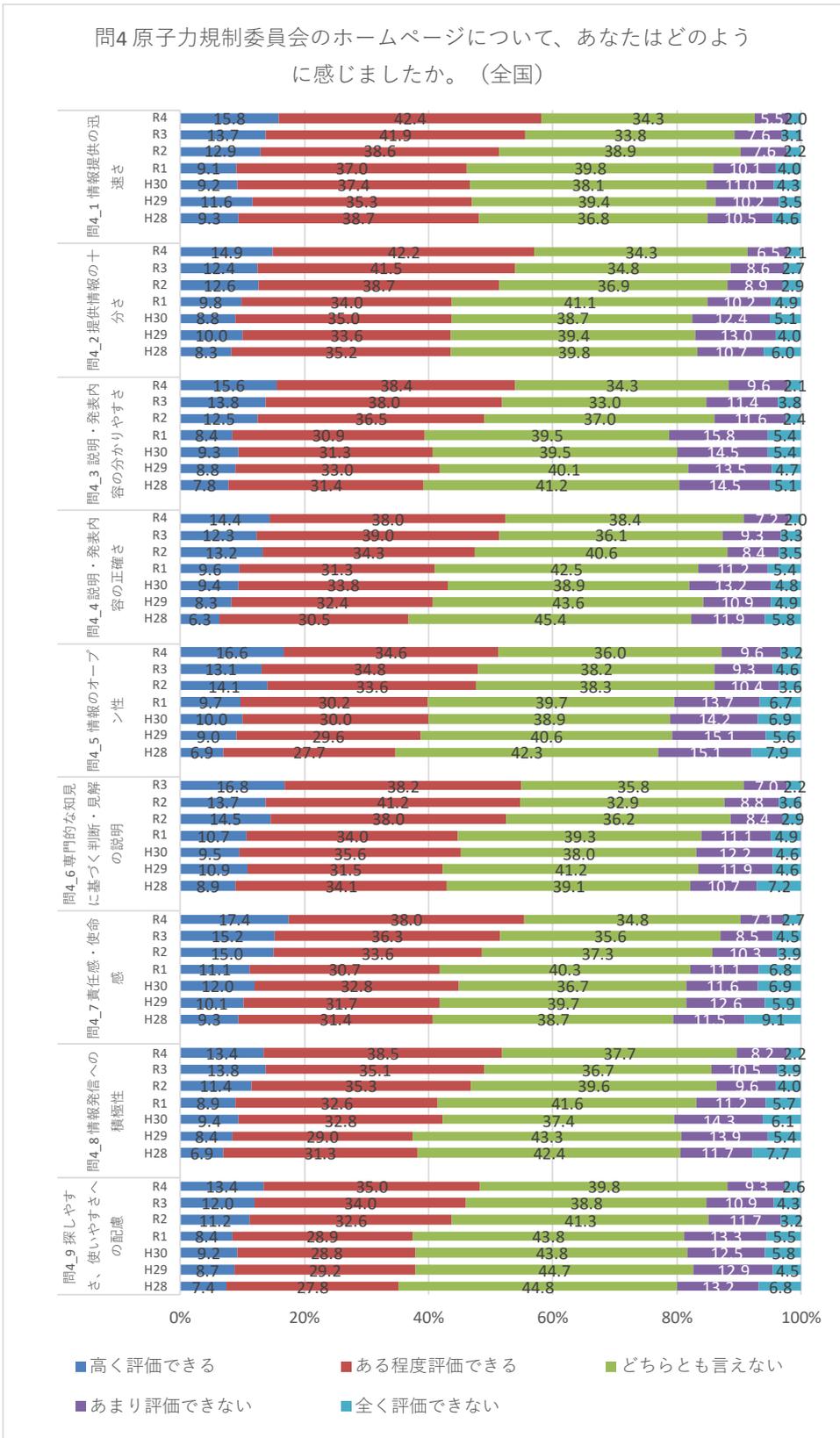


図 2-4 問 4「原子力規制委員会のホームページについて、あなたはどのように感じましたか。」経年別の回答結果

図 2-5 に問 5 の経年比較の集計結果を示す。

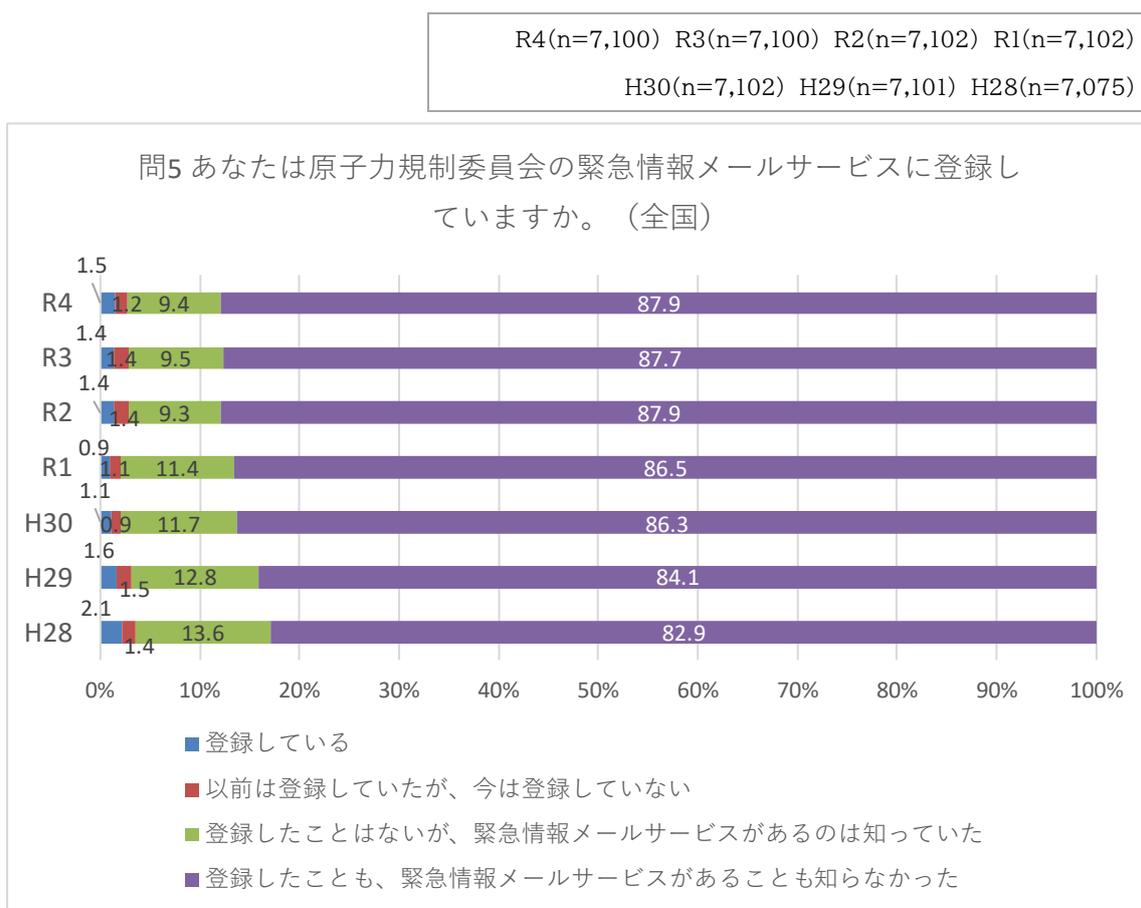


図 2-5 問 5「あなたは原子力規制委員会の緊急情報メールサービスに登録していますか。」経年別の回答結果

図 2-6 に問 6 の経年比較の集計結果を示す。ここでは、問 5 において、“登録したことはないが、緊急情報メールサービスがあるのは知っていた”、“登録したことも、緊急情報メールサービスがあることも知らなかった”を選択した回答者のみを対象としている。

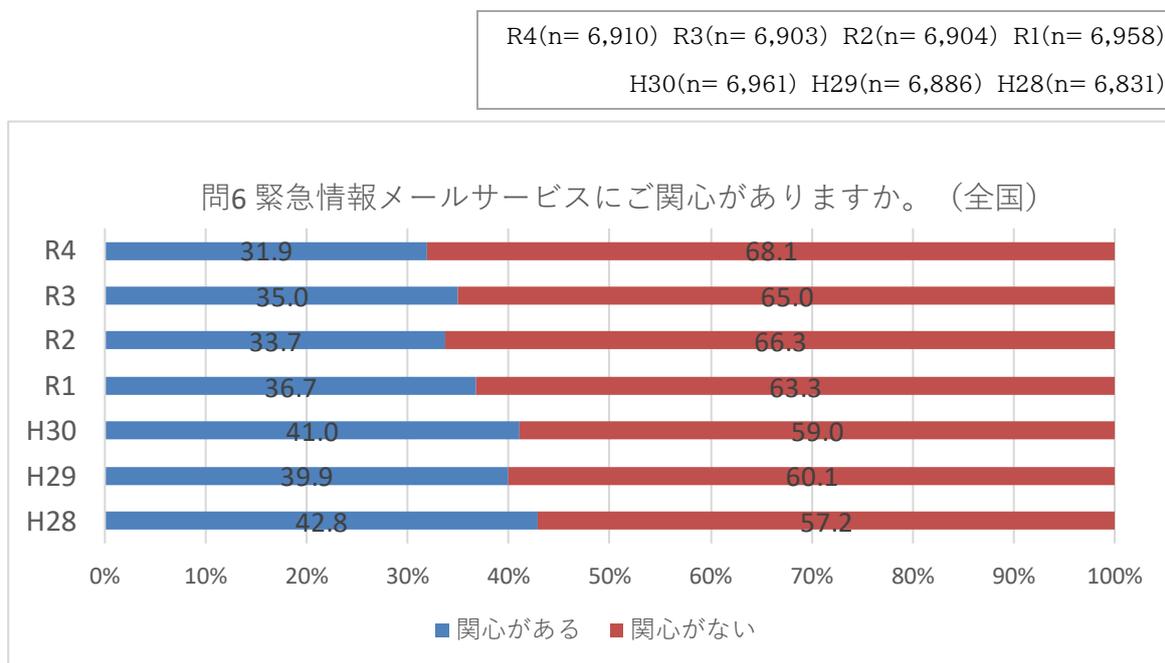


図 2-6 問6「緊急情報メールサービスにご関心がありますか。」経年別の回答結果

図 2-7 に問 7 の経年比較の集計結果を示す。

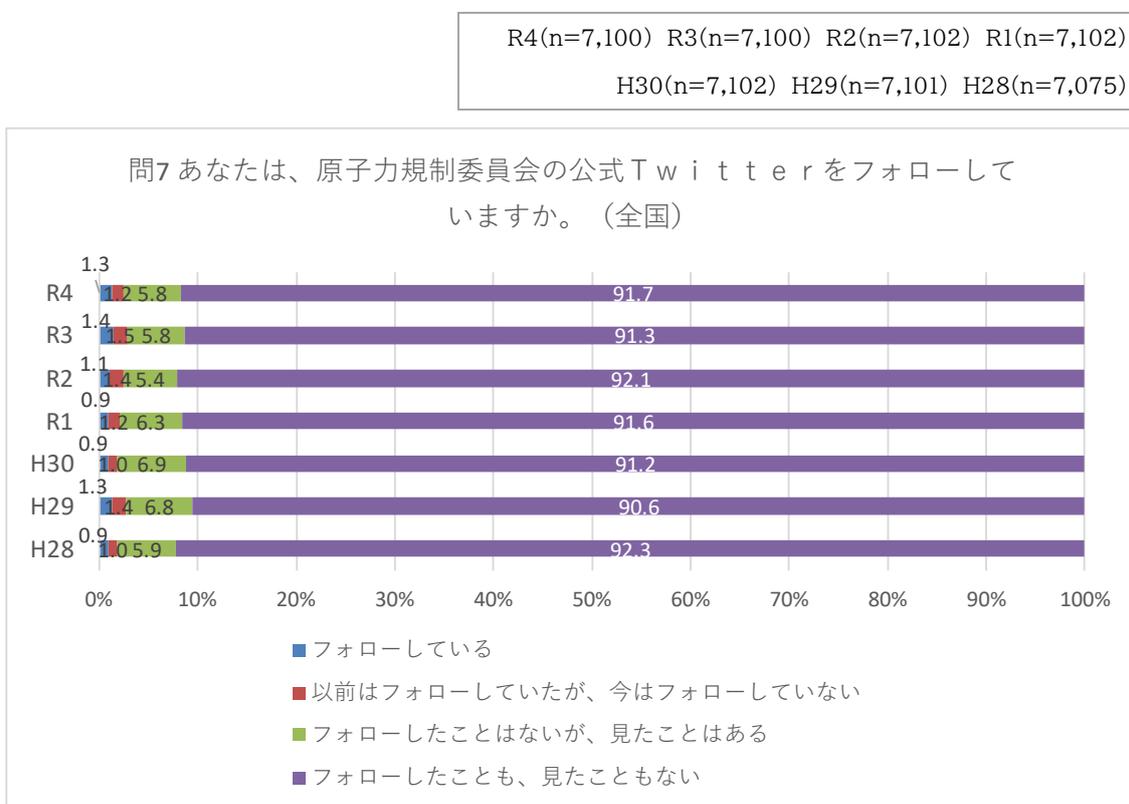


図 2-7 問7「あなたは、原子力規制委員会の公式Twitterをフォローしていますか。」経年別の回答結果

図 2-8 に問 8 の経年比較の集計結果を示す。なお、問 8 の内容は令和 2 年度調査より設定した項目である。

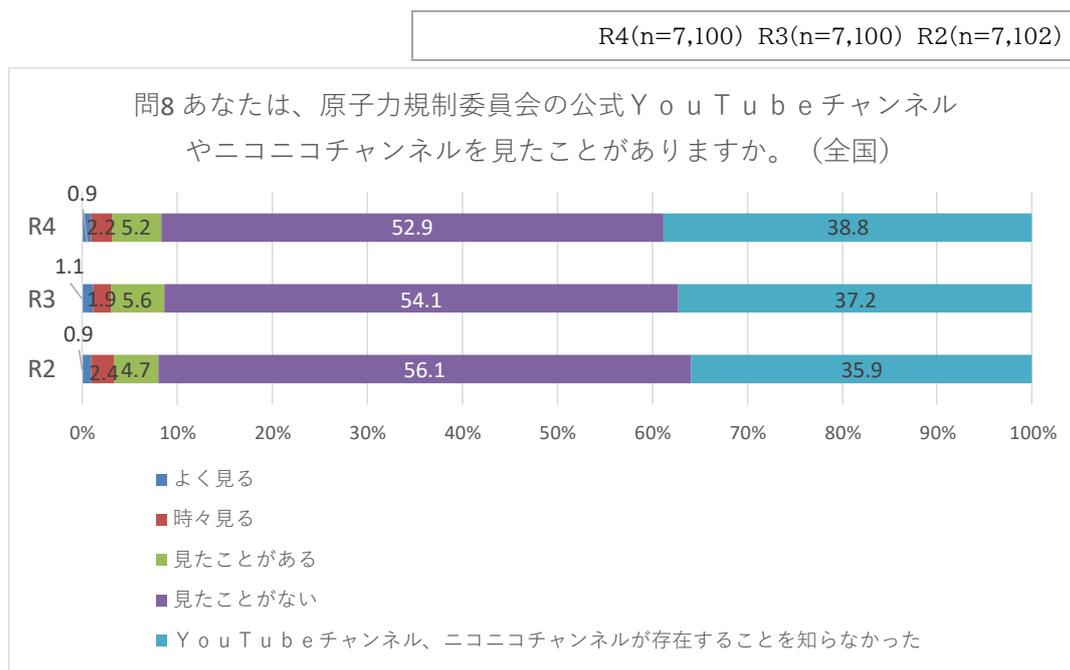


図 2-8 問 8「あなたは、原子力規制委員会の公式YouTubeチャンネルやニコニコチャンネルを見たことがありますか。」経年別の回答結果

図 2-9 に問 9 の経年比較の集計結果を示す。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102) R1(n=7,102)
H30(n=7,102) H29(n=7,101) H28(n=7,075)

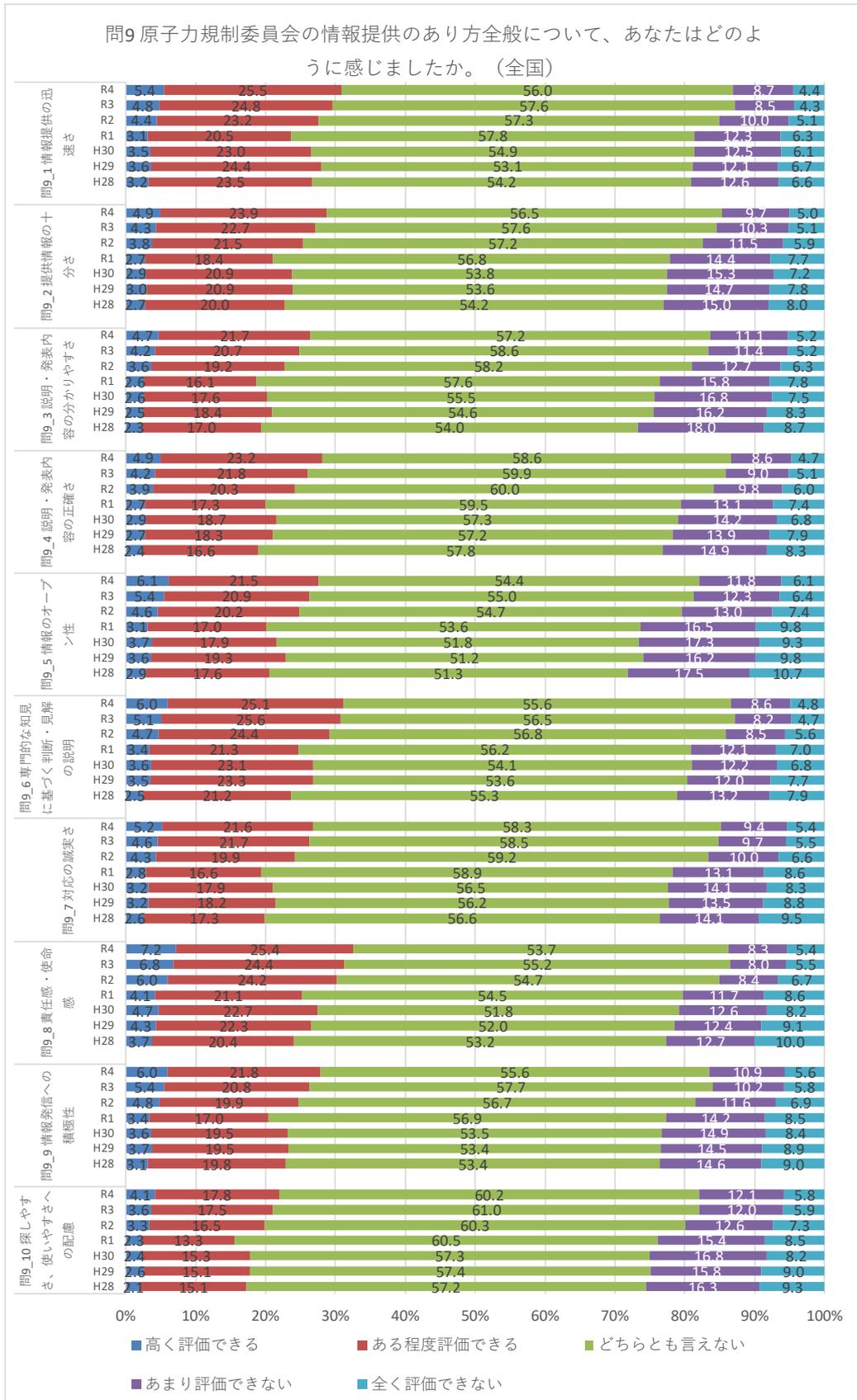


図 2-9 問 9「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどのように感じましたか。」経年別の回答結果

図 2-10 に問 10 の経年比較の集計結果を示す。なお、問 10 の内容は平成 30 年度調査より設定した項目である。

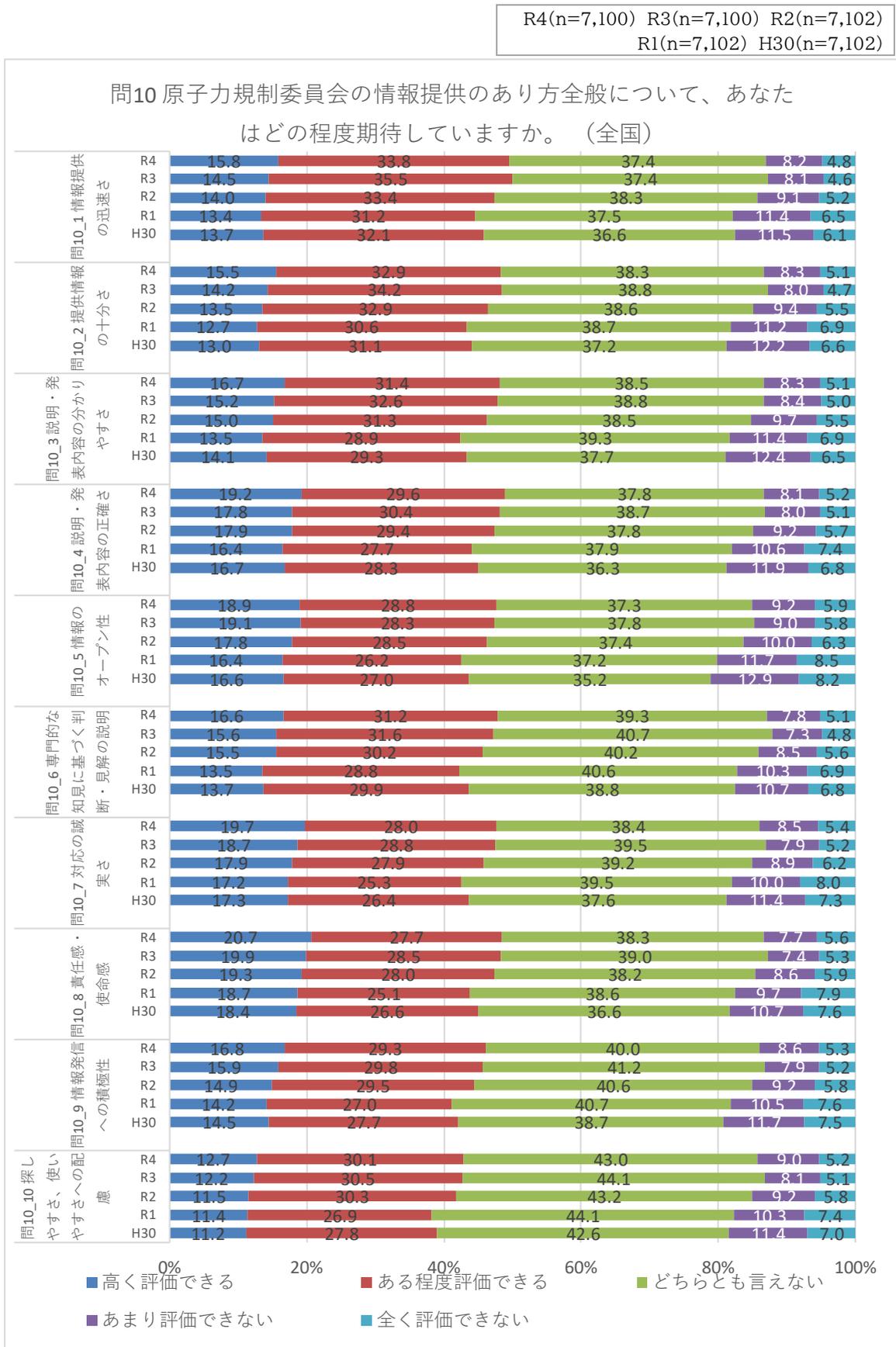


図 2-10 問 10「原子力規制委員会の情報提供のあり方全般について、あなたはどの程度期待していますか。」経年別の回答結果

図 2-11 に問 11 の経年比較の集計結果を示す。なお、“経済産業省・資源エネルギー庁”の選択肢は、平成 28 年度調査では“経済産業省”として設定されていたことに留意が必要である。

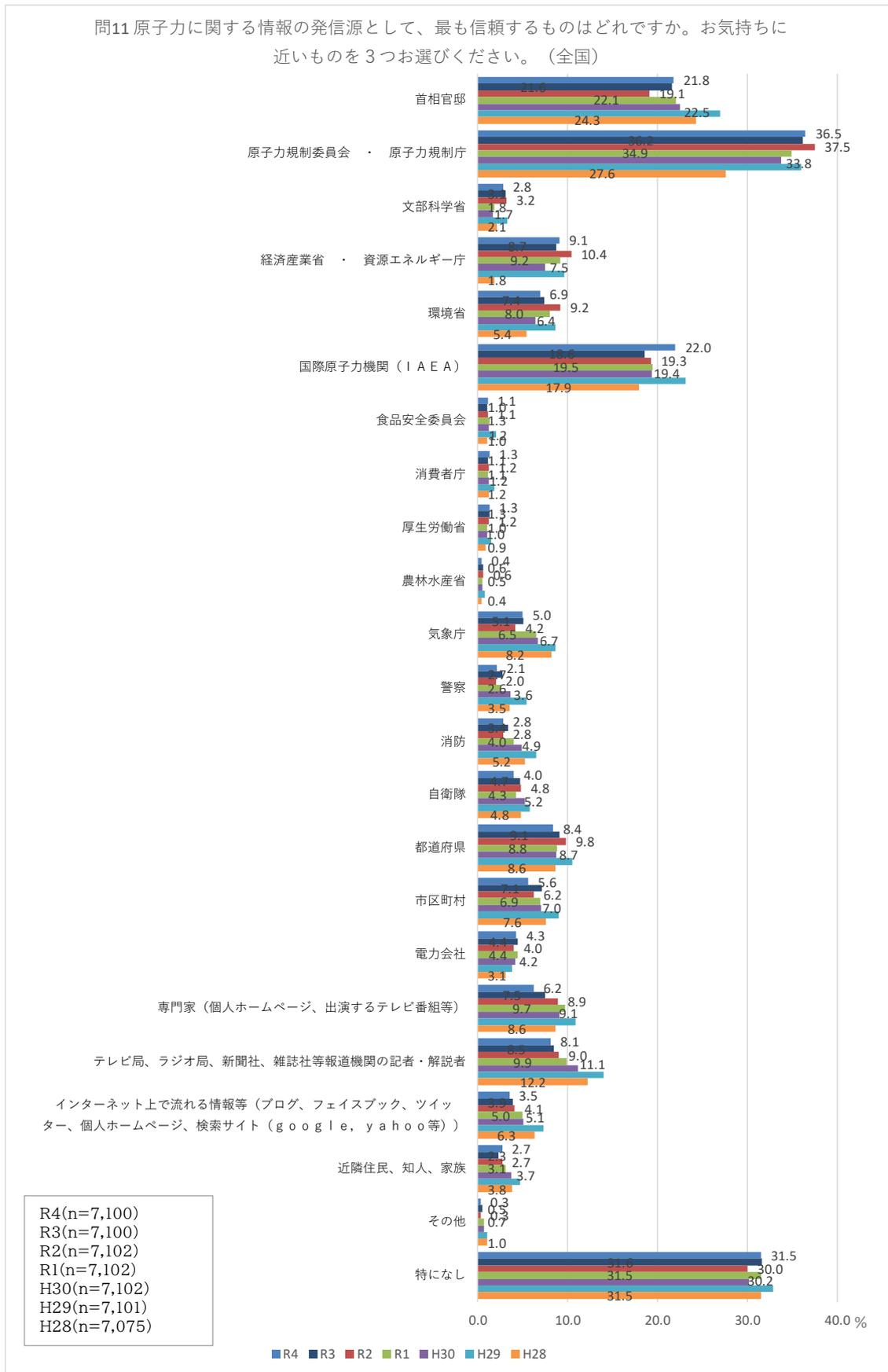


図 2-11 問 11「原子力に関する情報の発信源として、最も信頼するものはどれですか。」経年別の回答結果

図 2-12 に問 12 の経年比較の集計結果を示す。なお、問 12 の内容は平成 30 年度調査より設定した項目である。

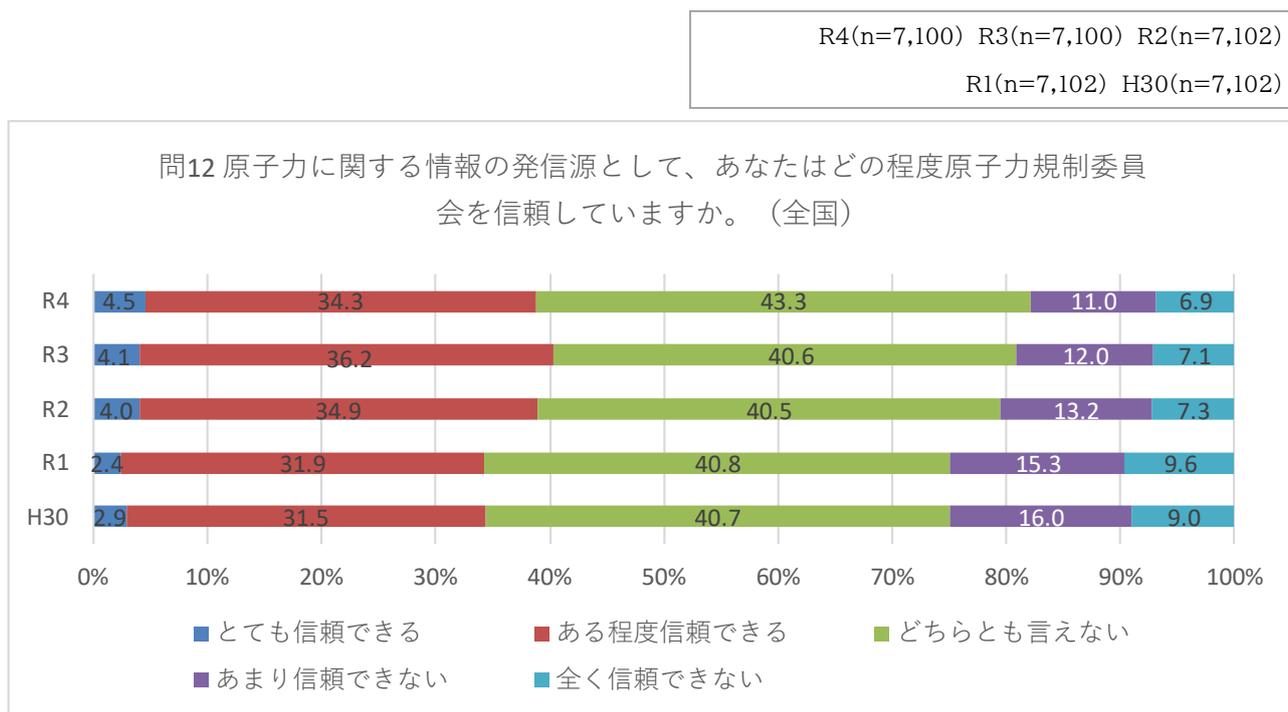


図 2-12 問 12「原子力に関する情報の発信源として、あなたはどの程度原子力規制委員会を信頼していますか。」経年別の回答結果

図 2-13 に問 14 の経年比較の集計結果を示す。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102) R1(n=7,102)
H30(n=7,102) H29(n=7,101) H28(n=7,075)

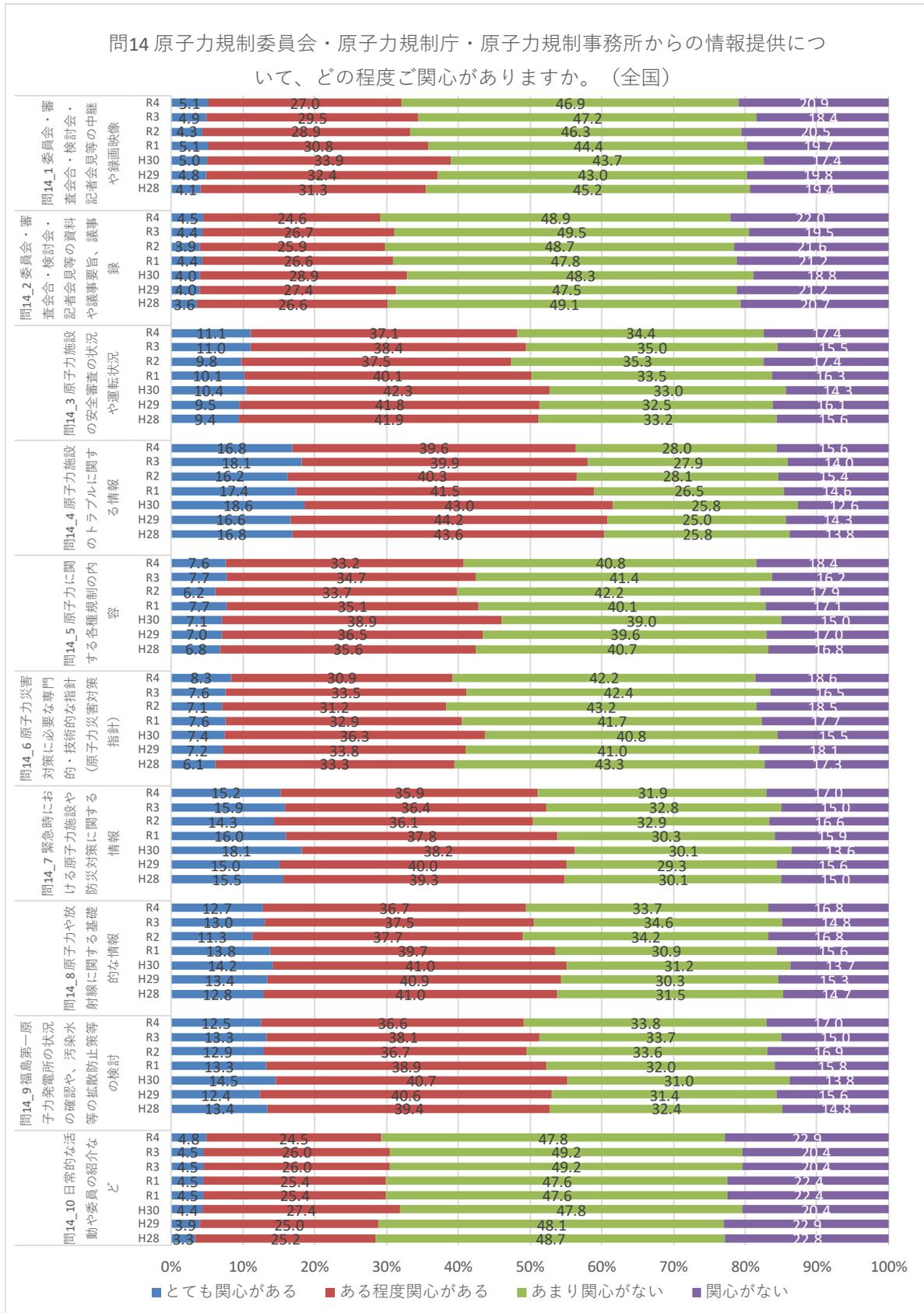


図 2-13 問 14「原子力規制委員会・原子力規制庁・原子力規制事務所からの情報提供について、どの程度ご関心がありますか。」経年別の回答結果

図 2-14 に問 18 の経年比較の集計結果を示す。なお、問 18 の内容は令和 2 年度調査より設定した項目である。

R4(n=7,100) R3(n=7,100) R2(n=7,102)

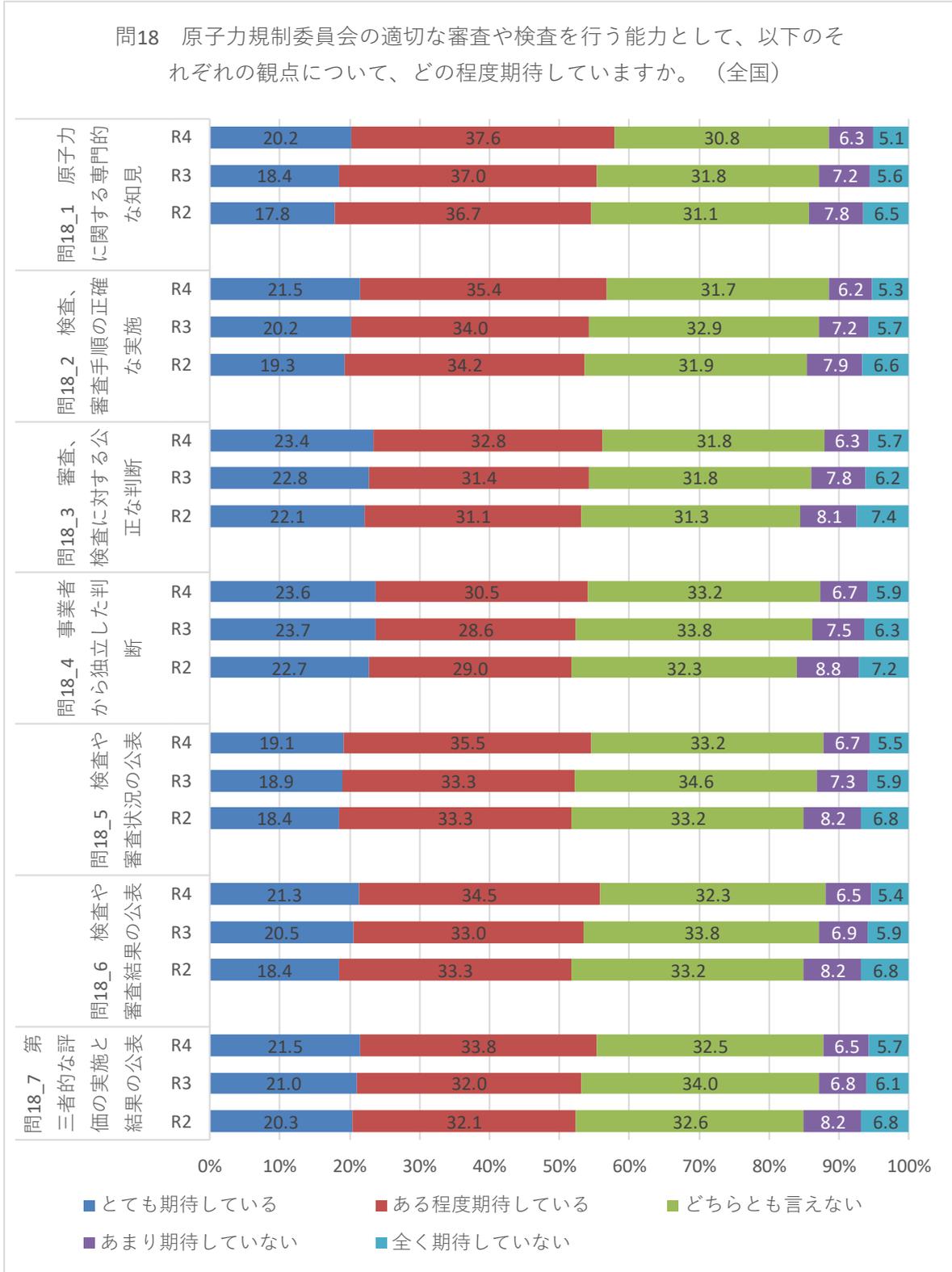


図 2-14 問 18「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度期待していますか。」経年別の回答結果

図 2-15 に問 19 の経年比較の集計結果を示す。なお、問 19 の内容は令和 2 年度調査より設定した項目である。

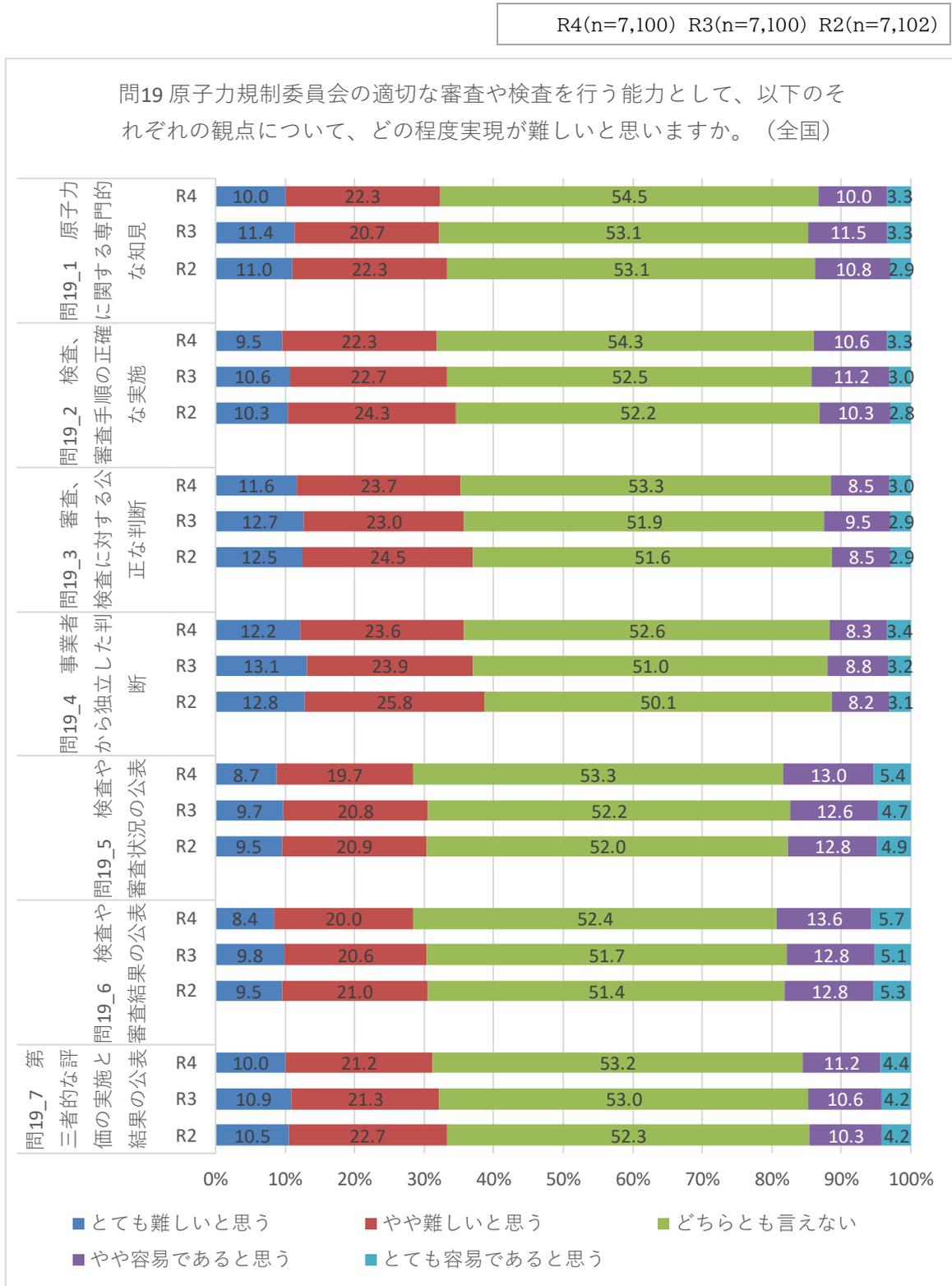


図 2-15 問 19「原子力規制委員会の適切な審査や検査を行う能力として、以下のそれぞれの観点について、どの程度実現が難しいと思いますか。」経年別の回答結果